eeyes

取扱説明書

Date：　2023/02/22

Version：　2.19

改訂履歴

版数	発行日	改定内容
1.00	2018.10.25	初版発行
1.10A までの内容については省略		
2.16	2022.9.26	・下記新機能について記述を追加 ・予測変換 ・Windows 操作画面上での文字盤表示 ・文字盤編集画面の改善 ・新しいパネルの追加 ・MyVoice 対応
2.17	2022.10.3	改訂履歴の表記を変更
2.18	2023.2.10	・赤外線学習リモコンに関する表記を変更 ・下記機能についての記述を追加 ・スキャン入力時のカーソル着色 ・メッセージパネルの変換対象の色 ・イメージパネル ・Windows 画面操作時の文字盤へプログレスサークルを追加 ・Windows 画面操作時のスクロール機能変更 ・除助詞変換 ・スイッチ入力の判定に関する設定 ・文字盤編集画面での一括設定・一括保存 ・文字盤編集画面でのマウスを用いた複数選択 ・休憩を促す表示 ・視線ポインタの移動速度、補正強度の調整 ・サンプル文字盤 ・印刷設定 ・環境制御パネルの連続入力 ・環境制御パネル発話時の声色をビルトインの声色に固定化 ・ショートカットキー押下時のアナウンス
2.19	2023.2.22	・介護者設定「入力方式切替表示」に関する記述を修正

1　はじめに

本書は「eeyes」の取り扱いについて説明したものです。

2　ご注意

- 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止します。
- 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。

3　商標および登録商標について

- Microsoft Windows® は、米国および他の国における米国マイクロソフト社の登録商標です。
- Twitter および Twitter ロゴ、Twitter の「T」ロゴ、Twitter の青い鳥、Tweet は、米国および他の国における Twitter, Inc.の登録商標です。
- PC Eye Mini および PC Eye 5 は、米国および他の国における Tobii Dynavox の登録商標です。

4　クレジットについて

- Icon made by Creaticca Creative Agency, Freepik, mynamepong, Pixel Buddha, Roundicons, Smashicons, Twitter, Vectors Market from www.flaticon.com.

5　本ソフトで利用している表示フォントについて

本ソフトでは表示フォントに以下のフォントを使用しています。

- BIZ UD ゴシック、BIZ UD 明朝　©Morisawa Inc.

本ソフトでは SIL Open Font License 1.1 のもと表示フォントに以下のフォントを使用しています

- コーポレート明朝　©LOGOTYPE.JP　©Copyright 2017 Adobe Systems Incorporated
- はちまるポップ、クレーＯｎｅ、Zen Kurenaido、Zen Old Mincho、Zen Maru Gothic、Zen Kaku Gothic Antique、Noto Serif Japanese　©google

6　目次

1　はじめに ..... - 3 -
2　ご注意 ..... - 3 -
3　商標および登録商標について ..... - 3 -
4　クレジットについて ..... - 3 -
5　本ソフトで利用している表示フォントについて ..... - 3 -
6　目次 ..... - 4 -
7　ご使用の前に ..... - 9 -
7.1 入力に用いる機器の用意 ..... - 9 -
7.2 eeyes を設置するための用意 ..... - 9 -
7.3 入力機器の接続 ..... - 10 -
7.4 eeyes の設置 ..... - 11 -
7.5 eeyes の起動 ..... - 12 -
7.6 eeyes の終了 ..... - 12 -
8　ご使用方法 ..... - 13 -
8.1 画面上に表示される要素 ..... - 13 -
8.1.1　インジケータの表示 ..... - 15 -
8.1.2　文字盤上のパネル ..... - 15 -
8.1.3　変換対象の文字色 ..... - 16 -
8.2 入力方式 ..... - 17 -
8.2.1　アイトラッカーによる直接入力時の注意点 ..... - 17 -
8.2.2　スイッチによるスキャン入力(自動選択・手動決定) ..... - 18 -
8.2.3　スイッチによるスキャン入力(手動選択・手動決定) ..... - 22 -
8.2.4　スイッチによるスキャン入力(手動選択・自動決定) ..... - 24 -
8.2.5　アイトラッカーによる直接指定入力（移動文字盤） ..... - 26 -
8.2.6　アイトラッカーによる直接指定入力（固定文字盤） ..... - 28 -
8.2.7　アイトラッカーによる直接指定入力（固定文字盤の拡大表示） ..... - 30 -
8.2.8　休憩を促す画面表示 ..... - 32 -
8.2.9　カーソルの着色 ..... - 32 -
8.2.10　スイッチの判定に関する設定 ..... - 33 -
8.3 濁音・半濁音・小書き文字、大文字・小文字の入力 ..... - 35 -
8.3.1　スキャン入力時の連続切替処理 ..... - 36 -
8.4 絵文字の入力 ..... - 37 -
8.5 即時読み上げパネルの入力 ..... - 38 -
8.6 キャレットの操作パネル ..... - 38 -

8.7 操作系パネルの入力 - 39 -
8.8 長文入力とキャレット操作 - 42 -
8.9 変換機能 - 45 -
8.10 除助詞変換 - 48 -
8.10.1 除助詞変換の有効化 - 48 -
8.10.2 除助詞変換の実行 - 48 -
8.11 予測変換 - 50 -
8.11.1 予測変換の有効化 - 50 -
8.11.2 予測変換の実行 - 51 -
8.11.3 予測変換と変換機能 - 55 -
8.12 文字の消去 - 56 -
8.12.1 1 文字消去 - 56 -
8.12.2 全消去 - 57 -
8.13 発声履歴 - 58 -
8.14 印刷 - 58 -
8.15 メモと定型文 - 59 -
8.15.1 メモ - 60 -
8.15.2 メモカテゴリ - 61 -
8.15.3 定型文 - 61 -
8.16 メモ機能 - 62 -
8.16.1 カテゴリ選択画面 - 63 -
8.16.2 カテゴリ編集画面 - 64 -
8.16.3 カテゴリ削除画面 - 65 -
8.16.4 メモ選択画面 - 65 -
8.16.5 メモ編集画面 - 66 -
8.16.6 メモ削除画面 - 67 -
8.16.7 編集用文字盤画面 - 67 -
8.16.8 メモ編集時の戻る画面について - 70 -
8.17 Twitter - 71 -
8.18 メール - 71 -
8.18.1 メールアカウントの設定 - 71 -
8.18.2 送信先のメールアドレス設定 - 71 -
8.18.3 メール送受信 - 75 -
8.18.4 メールの全文表示 - 79 -
8.18.5 メール削除画面 - 81 -
8.18.6 固定文字盤時の動作 - 82 -

8.18.7　スキャン入力時の動作 - 82 -
8.19画像閲覧画面 - 83 -
8.20環境制御用画面 - 85 -
8.20.1　操作系パネル - 85 -
8.20.2　環境制御系パネル - 86 -
8.20.3　学習リモコン操作パネル - 86 -
8.20.4　メイン画面における環境制御系パネル - 86 -
8.21汎用パネル - 87 -
8.22Windows 操作機能 - 88 -
8.22.1　操作メニュー画面解説 - 89 -
8.22.2　位置選択画面解説 - 93 -
8.22.3　クリック処理解説１（各種クリック処理） - 96 -
8.22.4　クリック処理解説２（スタートメニューなど表示時） - 99 -
8.22.5　文字入力 - 100 -
8.23視線専用 Windows 操作機能 - 104 -
8.23.1　ホームパネル - 108 -
8.23.2　マウス操作パネル - 110 -
8.23.3　キーボードパネル - 113 -
8.23.4　視線専用 Windows 操作でのスイッチ入力 - 116 -
8.23.5　視線専用 Windows 操作機能の設定 - 117 -
8.23.6　マウスでの操作 - 117 -
8.23.7　マウス操作モード - 117 -
8.24休憩画面 - 118 -
8.24.1　視線専用休憩画面 - 119 -
8.25呼び鈴機能（緊急ブザー） - 119 -
8.26終了画面 - 120 -
8.27自動リフレッシュ機能 - 120 -
9　各種設定 - 121 -
9.1 キャリブレーション - 129 -
9.2 ４点キャリブレーション - 130 -
9.3 センターマーカーの表示 - 130 -
9.4 即時発声機能 - 131 -
10　介護者向け機能 - 132 -
10.1ユーザー情報 - 134 -
10.2入力方式切替 - 135 -
10.3マウス操作モード - 135 -

10.4キャリブレーション ..... - 136 -
10.5視線の追跡状況 ..... - 136 -
10.6文字盤編集画面表示 ..... - 137 -
10.7文字盤の編集 ..... - 142 -
10.7.1　交換 ..... - 142 -
10.7.2　置換 ..... - 143 -
10.7.3　保存 ..... - 144 -
10.7.4　戻る ..... - 144 -
10.7.5　新しく開く ..... - 145 -
10.7.6　別名で保存 ..... - 146 -
10.7.7　一括設定 ..... - 147 -
10.7.8　一括保存 ..... - 148 -
10.7.9　パネルの設定 ..... - 150 -
10.7.10　フォントと背景色の設定 ..... - 152 -
10.7.11　パネルサイズ変更 ..... - 156 -
10.7.12　画像貼り付け ..... - 158 -
10.7.13　複数パネル選択 ..... - 159 -
10.7.14　文字盤の表示サイズ変更 ..... - 161 -
10.7.15　Windows 操作用文字盤の編集 ..... - 164 -
10.8メールアカウント編集画面 ..... - 167 -
10.9定型文編集画面 ..... - 168 -
10.9.1　定型文のカテゴリを追加する ..... - 168 -
10.9.2　保存済みの定型文を読み込む ..... - 169 -
10.9.3　定型文を別名で保存する ..... - 169 -
10.9.4　カテゴリ配下の定型文を表示する ..... - 169 -
10.9.5　カテゴリに定型文を追加する ..... - 170 -
10.9.6　カテゴリから定型文を削除する ..... - 170 -
10.9.7　カテゴリや定型文の順序を入れ替える ..... - 170 -
10.9.8　カテゴリを削除する ..... - 170 -
10.10　設定項目 ..... - 171 -
10.10.1　介護者用メニューのみの設定項目 ..... - 173 -
10.11　終了メニュー ..... - 174 -
11　学習リモコンの操作機能 ..... - 175 -
11.1準備 ..... - 175 -
11.2赤外線リモコンパネルの設定（介護者向け機能） ..... - 175 -
11.3赤外線リモコンの操作 ..... - 178 -

12　録音・再生機能 ..... - 179 -
12.1準備 ..... - 179 -
12.2録音とパネルの設定（介護者向け機能） ..... - 179 -
12.3文字盤での再生 ..... - 181 -
13　音声合成 ..... - 182 -
13.1コエステーション連携 ..... - 182 -
13.1.1　事前準備 ..... - 182 -
13.1.2　コエステーションの接続 ..... - 182 -
13.1.3　コエステーションの利用 ..... - 184 -
13.1.4　コエステーションの連携の終了 ..... - 184 -
13.1.5　コエステーションの有効期限切れ時の対応 ..... - 185 -
13.2マイボイス連携 ..... - 186 -
13.2.1　事前準備 ..... - 186 -
13.2.2　マイボイスと接続 ..... - 187 -
13.2.3　マイボイスの利用 ..... - 187 -
13.2.4　マイボイスの終了 ..... - 188 -
14　外部アプリ起動 ..... - 189 -
14.1事前準備 ..... - 189 -
14.2外部アプリ起動用パネルの設定（介護者向け機能） ..... - 189 -
14.3アプリ起動 ..... - 191 -
14.4アプリ起動パネルの設定解除 ..... - 192 -
15　こんなときは ..... - 193 -
16　付録：サンプル文字盤 ..... - 196 -

7　ご使用の前に

本書をお読み頂き、正しくお使い頂きますようお願いいたします。お読みになった後は、必要なときにご確認頂けるよう、保管してください。

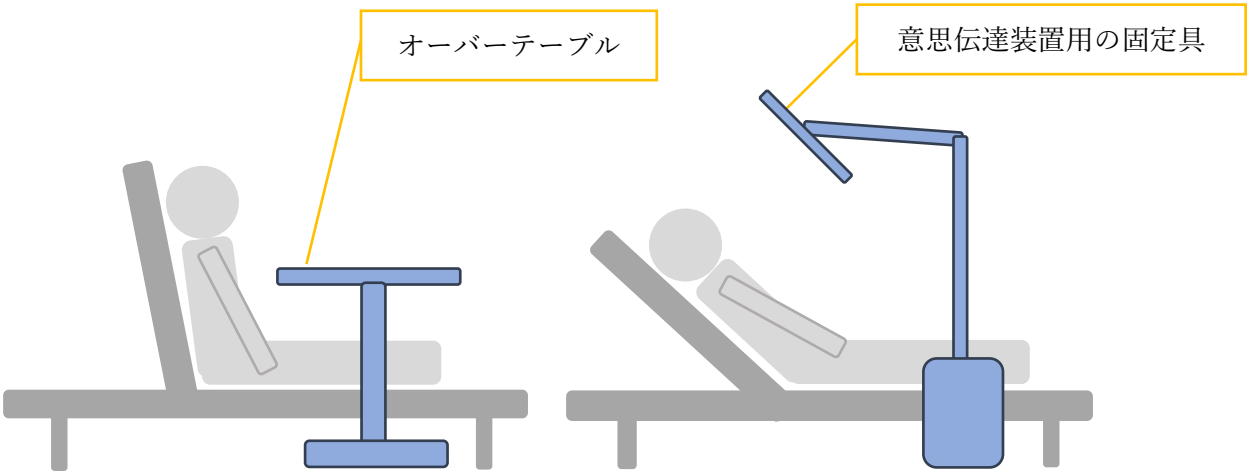
7.1 入力に用いる機器の用意

eeyes は本体および付属の専用スイッチケーブルで構成されます。eeyes では入力用の機器として別売りのアイトラッカーやスイッチなどをご利用頂けますので、ご利用者の状況に合わせて必要な入力機器を予めお買い求めください。

種類	ご利用頂ける製品について
スイッチ	ON と OFF が３．５ｍｍピンジャックへ出力できるスイッチがご利用頂けます。
アイトラッカー	PC Eye Mini および PC Eye 5、それに準ずるアイトラッカーがご利用頂けます。

7.2 eeyes を設置するための用意

eeyes を上手にご利用頂くために、ユーザーから eeyes が見やすく操作がしやすい位置に設置する事が必要となります。オーバーテーブルや意思伝達装置用の固定具など、前もってご用意ください。



7.3 入力機器の接続

eeyes をスイッチ入力でご利用頂く場合は、スイッチケーブルを本体の USB ポートに接続し、別売りのスイッチをスイッチケーブルに差し込んで接続してください。eeyes をアイトラッカーによる入力でご利用頂く場合は、以下の手順でアイトラッカーを接続してください。

① アイトラッカーを eeyes の USB ポートへ接続してください。

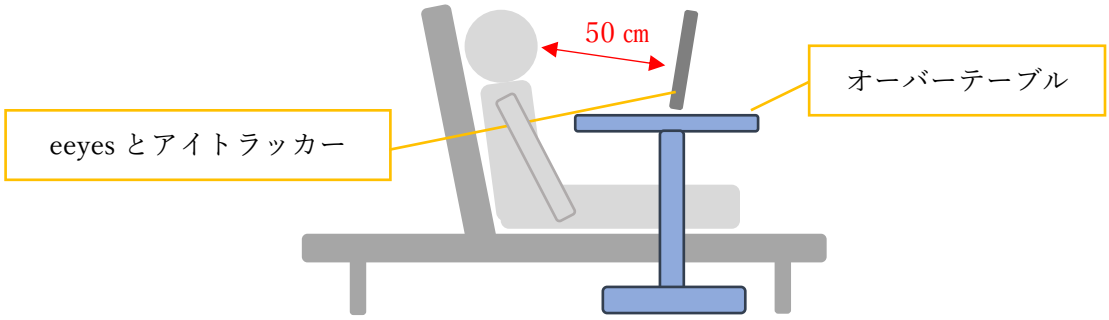
② eeyes の画面の下部に**鉄の板**が貼り付けてありますので、アイトラッカーの**背面の磁石**を鉄の板に貼り付け、アイトラッカーを固定してください。

③ eeyes の電源を入れてください。
タブレットタイプの場合は、
本体左上に電源スイッチがあります。

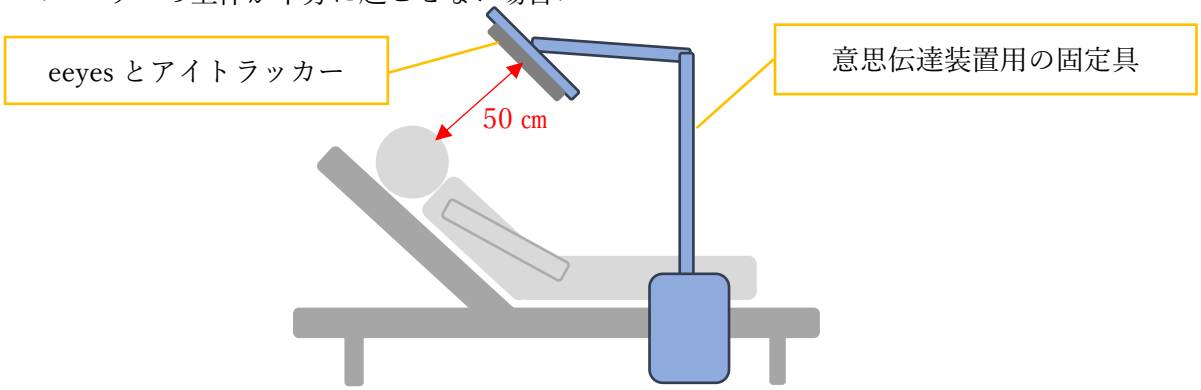
7.4 eeyes の設置

eeyes をスイッチ入力でご利用頂く場合は、スイッチによる入力がしやすく、ユーザーから eeyes のディスプレイが見やすい位置に設置してください。eeyes をアイトラッカーによる入力でご利用頂く場合は、eeyes を利用者の顔の前「５０ｃｍ程度」の距離に設置し、アイトラッカーが利用者の目と正対するよう位置を微調整してください。画面左上の介護者用メニューから視線位置の表示を行うと位置の微調整がしやすくなります。なお、アイトラッカーをご利用になる場合は、アイトラッカーとユーザーの位置関係が、効率的に入力できるかどうかの非常に重要な要素となります。利用者の上体が十分に起こせない場合は、オーバーテーブルや意思伝達装置用の固定具などを利用して頂くことを推奨致します。

＜ユーザーの上体が起こせる場合＞



＜ユーザーの上体が十分に起こせない場合＞



7.5 eeyes の起動

eeyes の電源ボタンを押し、しばらくお待ち頂くと自動でご利用頂ける状態になります。

7.6 eeyes の終了

eeyes の終了パネルを選択する事で、eeyes の電源を OFF にする事が出来ます。詳細な手順につきましては、「8.22 終了画面」をご参照ください。

【重要】

タブレットでスイッチケーブルを利用している場合、起動時にスイッチ入力が反応しなくなることがありますが、その際は次の手順で対処してください。

・本体から、USB 変換コネクタをスイッチケーブルと共に引き抜いて差し直す。

・USB 変換コネクタから、スイッチケーブルだけ引き抜いて差し直す。

8　ご使用方法

eeyes のご使用方法について記載します。

8.1 画面上に表示される要素

eeyes 画面上に表示される部位の名称については、以下の通りです。本取扱説明書を参照頂く際に、あわせてご確認ください。

部位	説明
介護者用メニュー表示ボタン	視線位置の表示やキャリブレーションなど、タッチまたはクリックする事により、介護者用メニューを表示します。
メッセージパネル	入力された文字や絵文字が表示されます。１行は全角４０字です。
キャレット	この位置に文字が入力されます。入力が１行かつ、入力位置が文末のときは表示されません。
変換対象	メッセージパネルに表示される色付きの文字です。漢字変換パネルを選択した際に、この部分が変換されます。文字色は設定で変更することができます。
確定文字	メッセージパネルに表示される白色の文字です。この文字は変換されません。
文字盤	ひらがな、英数字、気持ちと体（絵文字）、物と操作（絵文字）、環境制御の文字盤の５つの文字盤を選んで入力できます。
パネル	文字盤を構成する要素です。このパネルを入力する事により対応する文字の入力や機能の実行が行われます。

部位	説明
カーソル	パネルを選択するための位置を示します。入力したいパネルをカーソルに合わせると文字が入力できます。スキャン入力の場合は表示されません。
マーカー	パネルがカーソルに重なると表示されます。アイトラッカーによる入力の場合は、決定までの残り時間を表示します。スキャン入力の場合は表示されません。
センターマーカー	視線入力時に、入力が有効なパネルに表示されます。入力時に凝視する目印になります。

8.1.1　インジケータの表示

インジケータは eeyes の状態について表示する部位となります。表示されるアイコンとその意味について以下の表のとおりです。インジケータは視線入力の固定文字盤では表示されないので、ご注意ください。

アイコン	説明
	接続したアイトラッカーがユーザーを見つけられない場合に表示されます。ユーザーが eeyes に接続したアイトラッカーと正対するよう調整してください。
	マウス操作モードや設定でクリック／スイッチ入力を有効にしている場合など、クリック／スイッチでの入力を受け付けている際に表示されます。
	マウス操作モードなど、トラックパッドやタッチパネル（タッチパネル対応の製品のみ）による操作を受け付けている場合に表示されます。

8.1.2　文字盤上のパネル

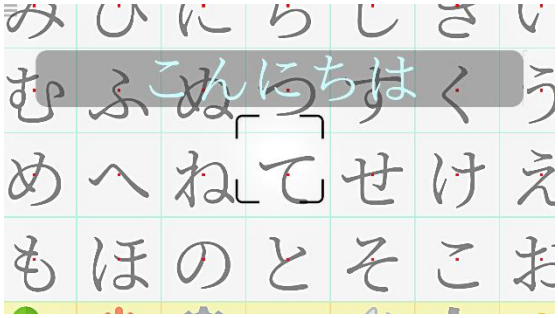
文字盤上のパネルは背景の色により異なる役割を持っています。背景の色とその役割について以下の表のとおりです。

アイコン	説明
白・水色	文字の入力や即時発声による意思伝達に用いるパネルとなります。ひらがな、英数字、絵文字などが入力できます。
黄色	eeyes の設定やメール送受信などの機能を使う場合に用いる操作系パネルです。画面の下方に集中して配置してあります。
緑色	環境制御に用いるパネルです。赤外線リモコンの信号発信や、スマートスピーカーに対する指示の発声を行うことができます。

8.1.3　変換対象の文字色

メッセージパネル上に表示される変換対象の文字色は、以下の 5 色から選択することができます。文字色は設定画面で変更可能です。詳しくは「9 各種設定」を参照してください。
【Ver1.11A で追加】

・水色（設定『未確定の文字色』＝0）



・赤色（設定『未確定の文字色』＝3）

・黄色（設定『未確定の文字色』＝1）

・緑色（設定『未確定の文字色』＝4）

・薄緑色（設定『未確定の文字色』＝2）

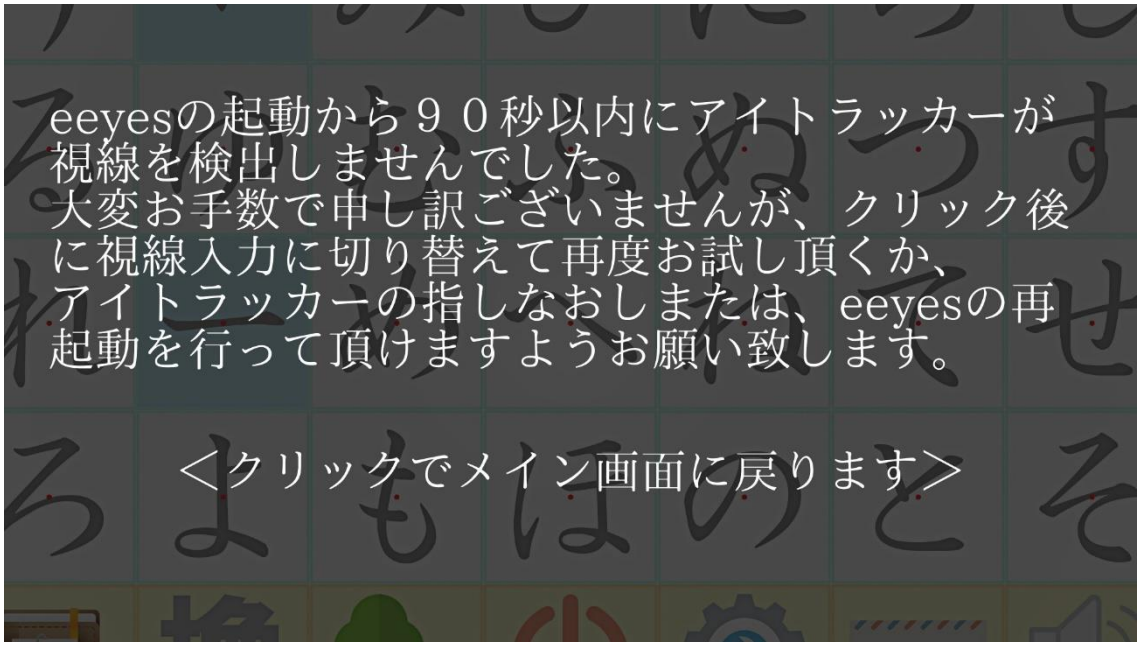
8.2 入力方式

eeyes ではスイッチによるスキャン入力と、アイトラッカーによる直接入力の２つの方式で入力する事ができます。ユーザーの状況により設定画面上からどちらかを選択して意思伝達や環境制御を行います。

また、eeyes の初期設定はスキャン入力（自動選択・手動決定）になっています。アイトラッカーを使って、直接入力をしたい場合は、視線入力を ON にする必要があります。この設定方法は「10.2 入力方式切替」をご参照ください。

8.2.1 アイトラッカーによる直接入力時の注意点

入力方法をアイトラッカーによる直接入力に設定している場合、eeyes 起動時時に９０秒以内に視線を認識できないと、eeyes は再起動します。３回再起動すると、以下の画面が表示されます。



このとき、案内に従い左クリックするとマウス操作モードで eeyes が開始されます。「10.5 視線の追跡状況」などでアイトラッカーの位置を調整するなどしてから、eeyes をユーザーモードにしてください。

8.2.2　スイッチによるスキャン入力(自動選択・手動決定)

設定画面で視線入力を OFF、スキャン入力方法を 0 にすると、スイッチ 1 つの、自動選択・手動決定のスキャン入力になります。文字盤上を自動で走査する走査マーカーをスイッチで操作する事により、入力したい文字を選択できます。

スキャン入力での文字盤は以下のような構成になっています。

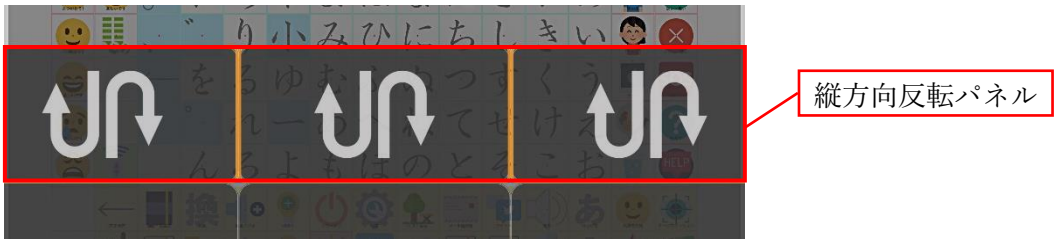
画面部位	説明
走査位置	画面上を自動で移動します。縦横軸それぞれでスイッチ入力を行う事により、入力したい文字を決定します。
走査開始位置	走査マーカーの出現位置と操作方向を示します。 左上：横方向は左から右、縦方向は上から下に走査 左下：横方向は左から右、縦方向は下から上に走査 右上：横方向は右から左、縦方向は上から下に走査 右下：横方向は右から左、縦方向は下から上に走査 また、この三角形の向きによって、初めに走査する方向が示されます。 ▲▼：初めに縦方向の走査を行います。 ▶◀：初めに横方向の走査を行います。
縦方向反転	縦方向反転パネルを選択することにより、走査開始位置の上下が入れ替わり、走査位置の移動方向が反転します。
横方向反転	横方向反転パネルを選択することにより、走査開始位置の左右が入れ替わり、走査位置の移動方向が反転します。

スキャン入力は、以下の手順で行います。

手順	画面	解説
1		初めに行を選択します。走査位置が選びたいパネルのある位置に来たらスイッチを操作して決定します。
2		次に、行内でパネルの位置を決定します。スイッチを押したときのパネルが、選択され、そのパネルの処理が実行されます。
3		パネル選択後、選択したパネルの行から走査を再開します。（この図では、「た」の行から走査が始まります。）

手順	画面	解説
4		また、文字盤の走査は 2 周すると一旦停止します。スイッチ入力で、その行から選択の操作をやり直します。
5		この図のように、初めに縦方向の走査を行うこともできます。走査方向の順番は設定画面で変更できます。（設定画面については「8 各種設定」をご参照ください。）

変換候補パネルや定型文の選択など、文字盤以外の画面についても縦横それぞれでスイッチを操作する事によって対象を選択しますが、これらの画面では走査方向の変更を次の通り縦方向反転パネルを選択する事によって行います。縦方向反転パネルは一定間隔で現れるので、選択したい対象を行き過ぎてしまった場合などに利用すると、入力時間の節約が可能となります。



画面部位	説明
縦方向反転パネル	縦方向反転パネルでスイッチを押す事により、走査方向の上下が反転します。

また、発声履歴・定型文画面や変換候補など、上下に長く 1 画面に表示しきれない場合、走査位置が画面端に到着すると、パネル表示を切り替え、走査開始位置から走査を再開します。

スキャンの速度は設定画面で変更することができます。詳しくは「9 各種設定」を参照してください。

8.2.3　スイッチによるスキャン入力(手動選択・手動決定)

設定画面で視線入力を OFF、スキャン入力方法を 1 にすると、2 つのスイッチによる手動選択・手動決定スキャン入力になります。2 つのスイッチは、決定スイッチと選択スイッチで、この時の入力は以下の手順で行います。

手順	画面	解説
1		初めに行を選択します。選択スイッチを押して選択範囲を移動させます。
2		目標の行が選択中に決定ボタンを押すことで、その行内のパネルの選択に移ります。
3		行の選択と同様に選択スイッチで移動し、決定スイッチでパネルを決定します。パネルを決定後、パネルの位置から行選択を行います。

変換候補パネルや定型文の選択なども同様に、選択スイッチで選択を変更、決定スイッチで選択したパネルに決定します。

注）選択スイッチは別売りです。

8.2.4　スイッチによるスキャン入力(手動選択・自動決定)

設定画面で視線入力を OFF、スキャン入力方法を 2 にすると、スイッチ 1 つの手動選択・自動決定になります。ここでの入力手順は以下のようになります。

手順	画面	解説
1		初めに行を選択します。スイッチを押して選択範囲をはじめます。
2		スイッチを押すとプログレスサークルが表示されます。輪が欠けているときにスイッチを押すと選択範囲が移動します。
3		プログレスサークルが完全な円になると決定され、その行のパネルの選択に移ります。

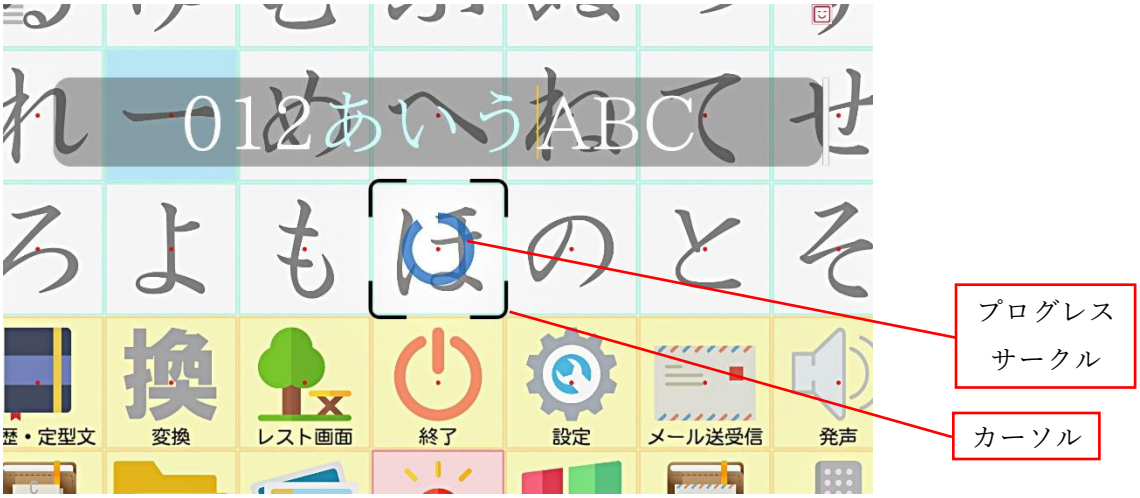
手順	画面	解説
4		パネルの選択は、行の時と同様にスイッチを押すことで変更します。
5		プログレスサークルが円になった時、そのパネルに決定します。

変換候補パネルや定型文の選択なども同様に、スイッチを押して選択を変更、時間経過で選択したパネルに決定します。

この時、文字パネルの選択時間と選択開始時間は設定画面で変更可能です。詳しくは「9 各種設定」を参照してください。

8.2.5　アイトラッカーによる直接指定入力（移動文字盤）

設定画面で視線入力を ON、文字盤の動作を 2 にすると移動文字盤での直接指定入力になります。アイトラッカーで得られたユーザーの視線の情報により、文字盤を直接動かして入力する事が可能となります。



部位	説明
カーソル	パネルを選択するための位置を示します。入力したいパネルをカーソルに合わせると文字が入力できます。
プログレスサークル	パネルがカーソルに重なると表示されます。アイトラッカーによる入力の場合は、決定までの残り時間を表示します。

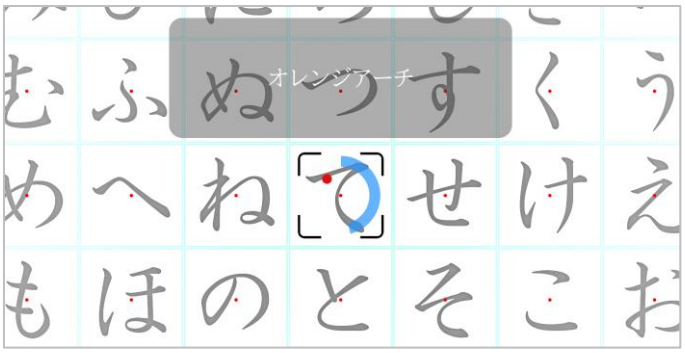
直接指定入力の場合は次の 2 つのステップで文字を入力していきます。

1）入力したいパネルを選択する

ユーザーが入力したいパネルを見続ける事により、そのパネルがカーソルの位置まで移動してきます。カーソルの位置に到着したらパネルの決定に移ります。

2）入力したいパネルを決定

ユーザーが入力したいパネルを見続ける事により、プログレスサークルが表示されます。設定画面でクリック／スイッチの利用を ON にしている場合は、プログレスサークルが円で表示され、スイッチにより文字を決定する事ができます。OFF の場合は、パネルを見続ける事により、プログレスサークルが伸びていき、円弧から円になったら文字が決定されます。



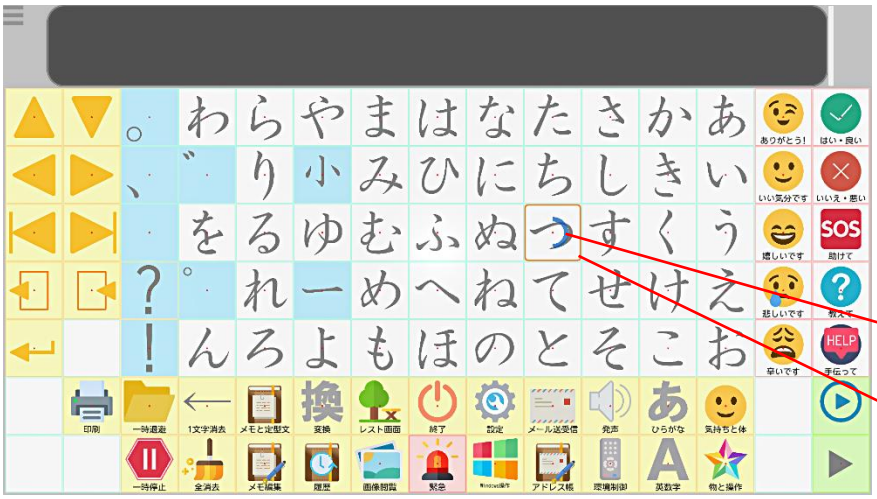
パネルを選択する際は、パネル中央にある赤い点を見ると視線が安定して、選択がしやすくなります。もし操作がし難い場合は、以下をチェックしてください。

＜チェックポイント＞

1）アイトラッカーと利用者の目が正対するよう調整する。
2）アイトラッカーと利用者の距離を５０ｃｍ程度に調整する。
3）薄目にならないよう意識する。
4）キャリブレーションがズレていたら、再度キャリブレーションを行う。
5）設定画面で文字盤の移動速度を使いやすい速度に変更する。
6）文字盤が行ったり来たりする場合は、文字盤を動かす事は意識せず、
　入力したいパネルを見ることに集中する。
7）眼振が大きい場合は、設定画面でパネルの大きさを大きめに変更する。
　（設定画面については「9 各種設定」をご参照ください。）

8.2.6　アイトラッカーによる直接指定入力（固定文字盤）

設定画面で視線入力を ON、文字盤の動作を 1 にすると固定文字盤での直接指定入力になります。アイトラッカーで得られたユーザーの視線の情報により、文字盤のパネルを選択して入力する事が可能となります。



部位	説明
カーソル	視線が向いているパネルに表示されます。
プログレス サークル	カーソルが表示されたパネルを見続けることで表示されます。 アイトラッカーによる入力の場合は、決定までの残り時間を表示します。

直接指定入力の場合は次の 2 つのステップで文字を入力していきます。

1）入力したいパネルを選択する

ユーザーが入力したいパネルを見る事により、そのパネルの位置にカーソルが表示されます。カーソルが表示されたパネルを見続けることで決定に移ります。

2）入力したいパネルを決定

ユーザーが入力したいパネルを見続ける事により、プログレスサークルが表示されます。設定画面でクリック／スイッチの利用を ON にしている場合は、プログレスサークルが円で表示され、スイッチにより文字を決定する事ができます。OFF の場合は、パネルを見続ける事により、プログレスサークルが伸びていき、円弧から円になったら文字が決定されます。

※パネル表示切替

発声履歴・定型文画面など、1画面に入り切らない画面では、以下のようにして、画面の表示を切り替えることができます。

画面上に表示する位置を下方に移動させる場合：画面の下の縁を注視

画面上に表示する位置を上方に移動させる場合：画面の上の縁を注視

8.2.7　アイトラッカーによる直接指定入力（固定文字盤の拡大表示）

設定画面で視線入力を ON、文字盤の動作を 3 から 6 にすると拡大表示する固定文字盤での直接指定入力になります。このとき、次のステップに従って決定してください。また、個々のパネルや拡大領域の選択、決定は通常の固定文字盤と同様に行います。

1）パネルを拡大する領域を選択します。視線の位置にオレンジの枠があり、この枠の中のパネルを拡大します。以下は画面中央（「へ」）を見たときの各設定での拡大枠の表示です。

文字盤の動作：3（画面 4 分割）

文字盤の動作：4（画面 6 分割）

文字盤の動作：5（画面 8 分割）

文字盤の動作：6（画面 9 分割）

2）拡大表示されたパネルの中から、目標のパネルを選択します。以下は画面 6 分割時のものです。明るく表示されている拡大されたパネルから、入力するパネルを選んでください。

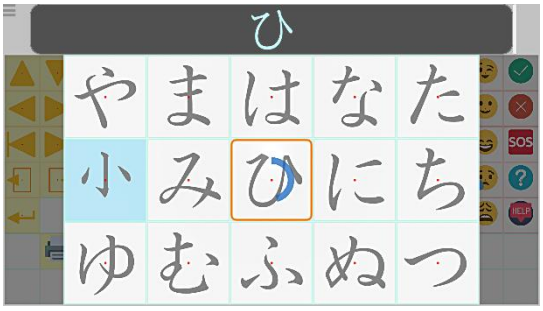
3）濁音・半濁音・小書きの選択を OFF にしているときは、文字入力の決定は選択したパネル以外を見ることで行います。それ以外はパネルを選択した時点で決定されます。

4）濁音・半濁音・小書きの選択が ON の時の文字パネルや、機能パネルの拡大パネルを選択した場合、拡大パネルを消し、選択した内容を実行します。その後、拡大領域の選択に戻ります。

5）拡大パネルの外の暗い部分を見ることで、拡大パネルを消し、拡大する領域の選択からやり直すことができます。

6）拡大パネルのサイズは設定画面で設定できます。設定値が 0 の時が最小で元のパネルの１．５倍のサイズで表示されます。5 のとき最大で、文字盤と一致するサイズになります。

拡大パネルのサイズ： 0



拡大パネルのサイズ： 5

7）拡大パネルの選択時間と選択開始時間は、通常の文字盤と独立して設定できます。これらの設定は設定画面で行うことができます。

8）拡大パネルが表示されているときにショートカットキー入力を行うことで、拡大パネルの選択時間とパネルのサイズを変更できます。詳しくは「10 介護者向け機能」をご参照ください。

8.2.8　休憩を促す画面表示

一定時間利用すると、休憩を促す休憩マークが表示されます。休憩パネルの選択、視線専用休憩モードに入ることで休憩マークは非表示となります。休憩マーク表示までの時間および休憩マーク表示の可否は、設定画面で変更することができます。詳しくは「9 各種設定」を参照してください。【Ver1.11A で追加】

8.2.9　カーソルの着色

スキャン入力・視線による固定文字盤入力の場合、選択範囲上に表示される枠状のカーソルについて、カーソル内に着色をすることでカーソルの位置を視認しやすくすることができます。カーソルの着色の有無は、設定画面で変更可能です。詳しくは「9 各種設定」を参照してください。【Ver1.11A で追加】

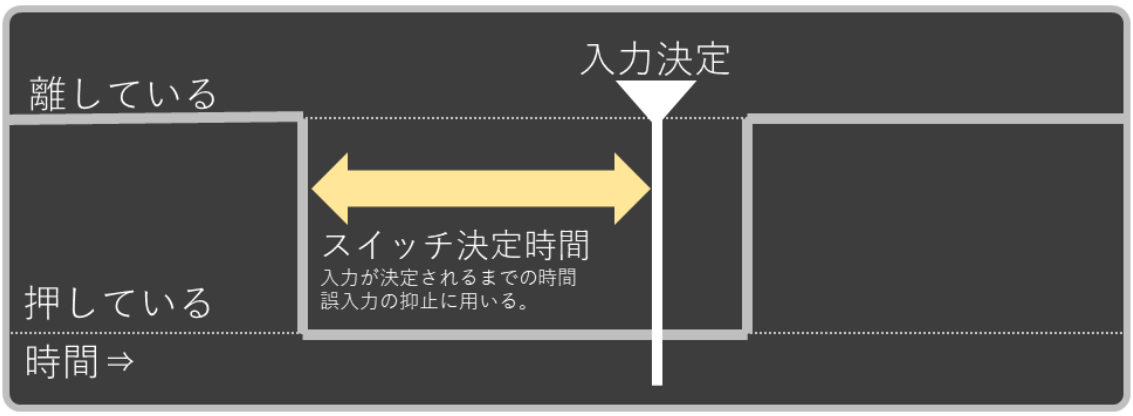
着色あり	着色なし

8.2.10 スイッチの判定に関する設定

スイッチを押下するタイミングがうまく取れない方や、手が震えてうまくスイッチを押すことのできないといった方に向けて、スイッチの入力判定に関する設定を行うことができます（設定方法については、9.各種設定をご確認ください）。

・スイッチの決定時間

スイッチを押し続ける時間を設定することができます。スイッチの押上げに時間がかかる人向けの設定となります。スイッチを押下している間は文字盤のカーソルの動きは止まります。押上げに時間がかかることによって、スイッチ押下のタイミングを逃すといったことを防ぐことができます。【Ver1.11A で追加】

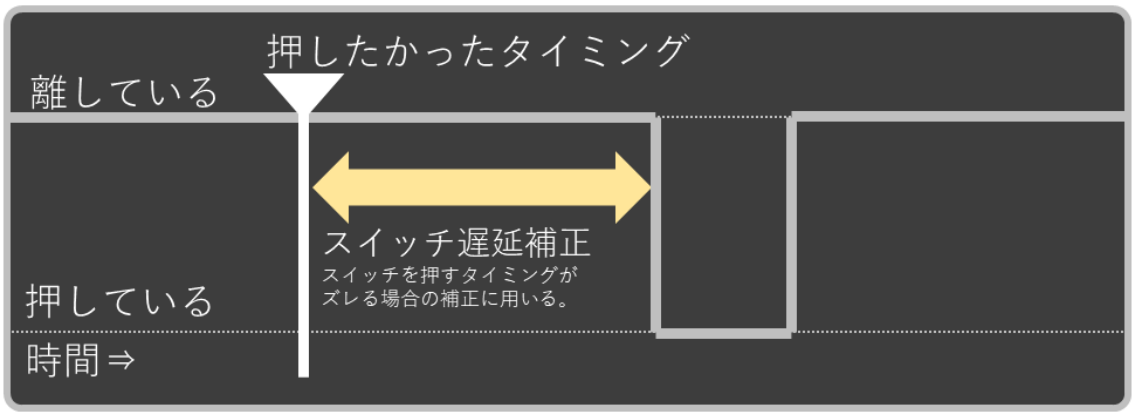


・スイッチの抑止時間

決定と判定されてから一定時間スイッチの判定を無効にする設定です。手が震えるなどで意図せずスイッチを複数回押してしまう方向けの設定となります。スイッチを抑止している時間中はカーソルの動きが止まります。意図せず複数回押すことで、選ぶはずのなかったパネルを何度も選んでしまうといった事象を防ぐことができます。【Ver1.11A で追加】

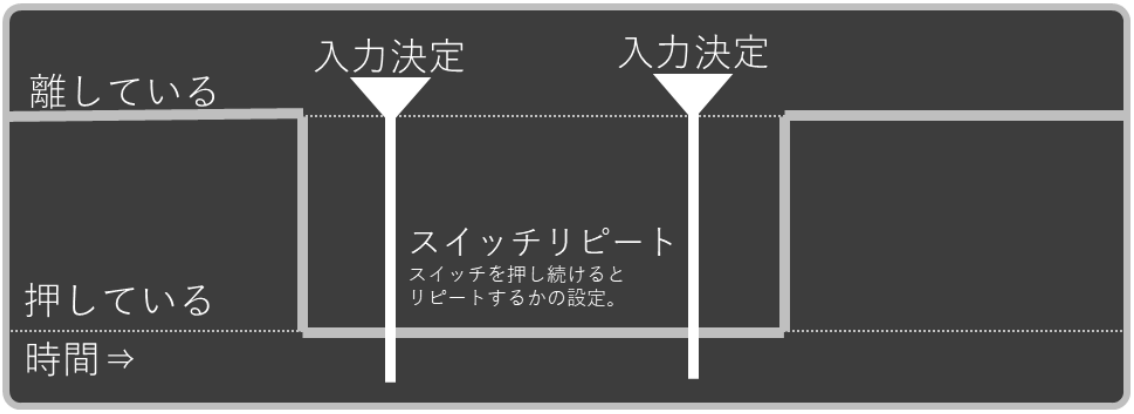
・スイッチの遅延補正

スイッチ入力時のカーソルの位置をずらすことができます。スイッチを押すタイミングが遅れてしまう方向けの設定となります。【Ver1.11A で追加】



・スイッチリピート

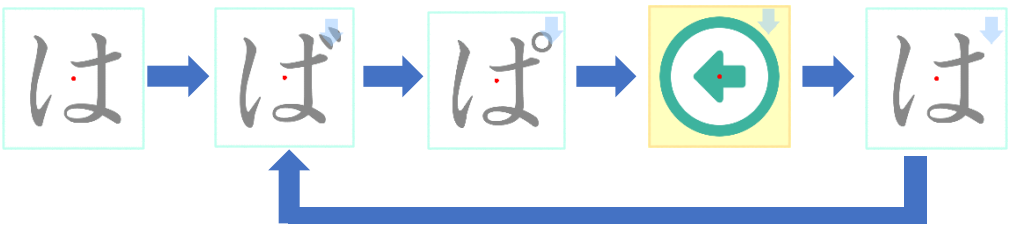
スイッチを長押しすることで、連続選択することができます。スイッチを押す回数を減らしたい方向けの設定となります。【Ver1.11A で追加】



8.3 濁音・半濁音・小書き文字、大文字・小文字の入力

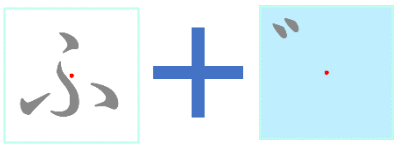
ひらがなやアルファベットのパネルは、見続けると濁音・半濁音・小書き文字（ひらがなの場合）や大文字・小文字（アルファベットの場合）に加え文字入力のキャンセルが選べ、スピーディに入力ができます。パネル上に選択したい文字が表示されたら、別のパネルを見ると確定されます。スイッチ入力時は、スイッチを押すことで選択する文字を変更できます。

濁点等の切り替えを行っているとき、パネルの右上に水色の矢印が表示されます。この表示を消す条件は、次のとおりです。スクロール状態の場合は他の文字パネルを画面中央に吸着させる、固定画面の場合は別の文字に視線を向ける、となります。

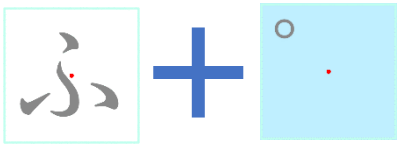


濁音・半濁音・小書き文字については、青色のパネルを見ることでも入力ができます。ご利用しやすい方法で文字を選択ください。

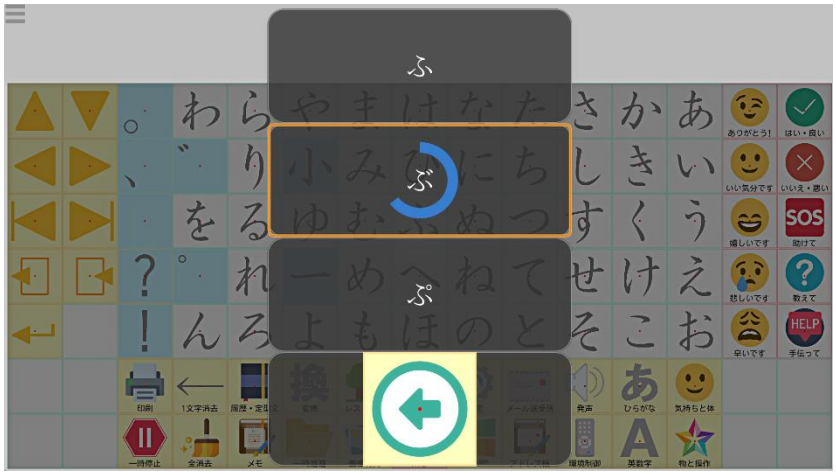
＜濁音（ぶ）を入力したい場合＞



＜半濁音（ぷ）を入力したい場合＞



文字の選択肢の表示方法は、見続けると表示される文字が変化する方法のほかに、一度にすべての選択肢を表示し、その中から選択したいものを見る以下の図のような方法もあります。選択肢の表示方法は、設定画面で切り替えることができます。設定画面については「9 各種設定」をご参照ください。



また、「←」の入力キャンセルパネルを選択することで、その文字の入力を取り消すことができます。このとき、文字は何も追加されません。入力キャンセルの表示、非表示の切り替えは、設定画面で行うことができます。設定画面については「9 各種設定」をご参照ください。

8.3.1 スキャン入力時の連続切替処理

スキャン入力時の濁点等の連続決定による変更は以下のようになります。

① 自動選択、スイッチ決定
決定後、一定時間以内にスイッチを押すことで濁点などの表示を切り変えます。一定時間が経過すると、入力内容を確定し、選択の初期状態に戻ります。

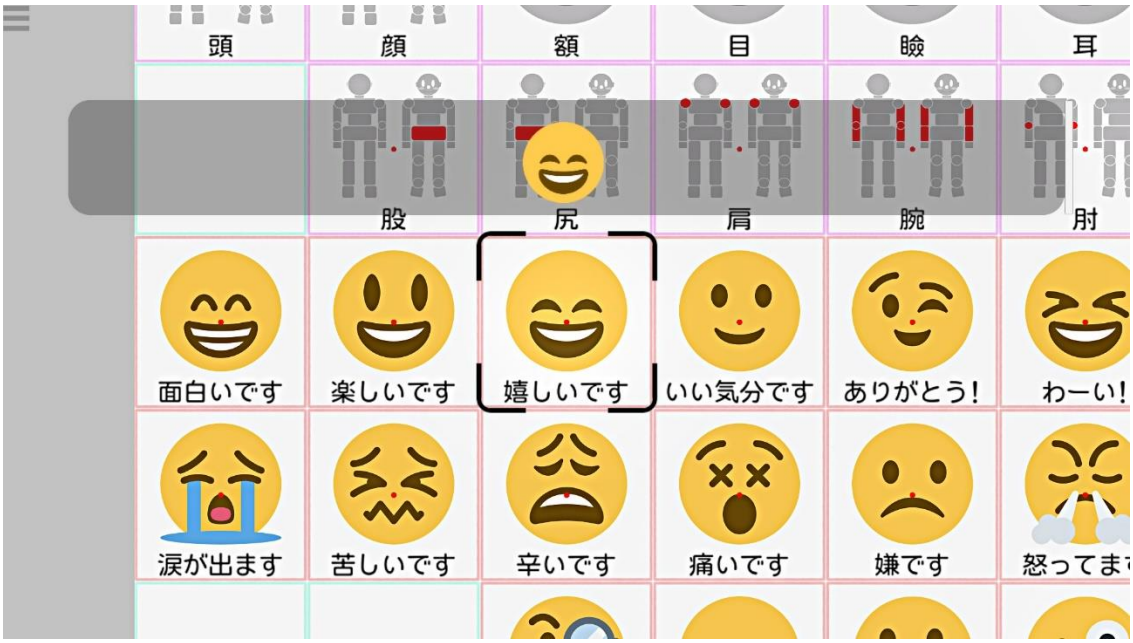
② ２スイッチ
パネル決定後、選択スイッチを押すことで切り替えます。この状態で決定スイッチを押すと、入力内容を確定し、選択の初期状態に戻ります。

③ スイッチ選択、自動決定
パネル決定後、プログレスサークルが表示されます。プログレスサークルが完全な円になるとパネルを切り替えます。プログレスサークル表示中にスイッチを押すことで入力内容を確定し、選択の初期状態に戻ります。

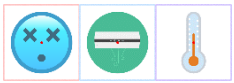
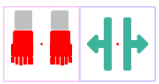
8.4 絵文字の入力

操作系文字盤の絵文字を選択することで、それぞれの絵文字入力の文字盤が表示されます。また、以下の表のようにそれぞれの絵文字を組み合わせて使用することが可能です。

文字盤でパネルを選択すると、そのパネルの絵文字がメッセージパネルに表示されます。この状態で「発声」パネルを選択すると、選択したパネルに表示されている文字の内容を発声します。



複数の絵文字を組み合わせることで素早く要件を伝えたり、細かいニュアンスを伝えたりする事が可能となります。

メッセージパネル入力例	発声内容
	寒いです　エアコン　温度を上げる
	足　伸ばす

8.5 即時読み上げパネルの入力

即時読み上げパネルは、規定の文言を発声します。ここで選択した内容はメッセージパネルに反映されないので、続けて文章の編集を行うことができます。以下に、視線入力固定文字盤での各文字盤を示します。図の赤枠が即時読み上げパネルです。

かな文字盤

英数字文字盤

8.6 キャレットの操作パネル

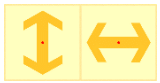
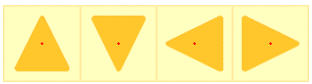
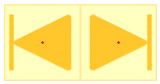
上の図の青枠はキャレット操作パネルです。このパネルを選択するとキャレットを操作することができます。詳しい内容は、「8.7 操作系パネルの入力」、「8.8 長文入力とキャレット」操作をご参照ください。

8.7 操作系パネルの入力

操作系のパネルの選択方法は、文字系パネルと同様に注視し続けると選択できます。また、操作系のパネルはひらがな、英数字、絵文字のどのパネルでも共通で表示されます。操作系の各パネルの機能については、以下をご確認ください。

アイコン	パネル名称	説明
	気持ちと体	文字盤を絵文字（気持ちと体）に切り替えます。
	物と操作	文字盤を絵文字（物と操作）に切り替えます。
	英数字	文字盤を英数字に切り替えます。
	ひらがな	文字盤をひらがなに切り替えます。
	漢字変換	入力した文字列を変換します。【Ver1.1 1 A でデザインを追加】
	予測変換	予測変換の候補から対象を選択します。このパネルは文字盤編集機能から追加が可能です。【Ver1.1 1 A でデザインを追加】
	除助詞変換	頭の 1 文字を抜いて変換します。このパネルは文字盤編集機能から追加が可能です。【Ver1.1 1 A で追加】
	発声履歴	発声した文字列の履歴を表示します。
	メモと定型文	メモと定型文を表示します。
	メモ編集	メモの編集を行います。
	文の退避	入力中の文字列を一時退避し、別の要件を伝えた後に、再度選択することで、入力中だった文字列を復帰させます。
	全消去	入力した文字列をすべて消去します。
	1 文字消去	入力した文字列の最後の 1 文字を消去します。
	発声	入力した文字列を発声し、読み上げます。
	印刷	入力した文字列をプリンタに印刷します。印刷時の文字や 1 行に印字する文字数は介護者のみ設定できます。

アイコン	パネル名称	説明
	メール送受信	入力した文字列をメールの送信・受信したメールの参照を行う画面へ移動します。未読メールがあるときは、その件数を表示します。
	アドレス帳	メールを送信したい宛先を編集します。
	画像閲覧	メールに添付された画像を拡大表示します。特定のフォルダに配置した画像を参照する事も可能です。
	一時停止	一時停止状態の切り替えを行います。
	環境操作	環境操作用画面を表示します。
	Windows 操作	後述する Windows 操作画面を表示します。
	設定	設定画面を表示します。
	休憩	休憩画面を表示します。画面の 4 隅か画面外を見ると復帰します。
	緊急	緊急呼び出し：ブザーが鳴り続けます。このパネルをもう一度選択するか、画面を変更すると鳴りやみます。
	終了	eeyes を終了します。
	入力切り替え	視線入力と走査入力を切り替えます。このパネルは文字盤編集機能から追加が可能です。
	較正	視線のキャリブレーションを行います。このパネルは文字盤編集機能から追加が可能です。
	明るさ調整	画面の明るさの増減ができます。このパネルは文字盤編集機能から追加が可能です。
	音量調整	音量の増減ができます。このパネルは文字盤編集機能から追加が可能です。
	汎用文字盤	任意の文字盤を表示できます。このパネルは文字盤編集機能から追加が可能です。
	イメージ	任意の画像をパネルに表示できます。このパネルは文字盤編集機能から追加が可能です。【Ver1.1 1 A で追加】

アイコン	パネル名称	説明
	方向反転	選択することで、スキャンの方向を反転させます。
	移動	キャレットを移動します。
	先頭・末尾	キャレットを文章の先頭・末尾に移動します。
	コピー	文章のコピーする範囲選択を開始します。
	改行	変換対象の文字があるときは、変換対象を確定します。変換対象がないときはキャレットの位置で改行します。

8.8 長文入力とキャレット操作

1）長文の表示

eeyes の文章パネルは１行全角２０～４０字となっています。文章が１行のときは文章パネル中央に表示され、２行以上では左上詰めで表示されます。文章パネルに収まらない長さの文章は、パネルに表示されている部分以外はかくされています。キャレットを移動させることで、表示内容をスクロールできます。表示内容がどの位置かについては文章パネル右側のスクロールバーで確認できます。以下は１行４０字での長文表示例となります。

また、１行の文字数は設定画面の文字の大きさで変更でき、以下のようになっています。この時、文字の大きさは、文章パネルの幅を１行の文字数で割ったものになります。

１行の文字数=４０－２×文字の大きさの設定値

2）キャレットの移動

キャレット移動のパネルを選択することで、キャレットを移動できます。キャレットは上下には１行単位、左右には１文字単位で移動します。

3）文章のコピー

手順	画面	概要
1		コピーしたい部分にキャレットを移動します。
2		「コピー」パネルを選択します。
3		選択中にキャレットを移動し、選択範囲を決めます。
4		「決定」パネルを選択し、選択部分を決定します。
5		ペーストしたい場所へ移動します。

手順	画面	概要
6		「ペースト」パネルを選択します。キャレットの位置に選択した内容が表示されます。「ペースト」パネルを選択することで、繰り返しペーストできます。

8.9 変換機能

文字を入力した後、漢字変換パネルを選択することで、水色の変換対象の変換候補が表示されます。

候補の中から該当するものを選択し、変換します。長い文章の変換を行う場合、文節ごとに変換を行います。また、変換パネル最下部の「←」を見ることで、変換を行わないようにできます。

変換を行うと、キャレットが変換対象の末尾に移動し、変換した内容で文字が確定します。確定した文字は白色で表示されます。

また、固定文字盤では、一度に最大で 9 個の変換候補パネルが表示されます。このとき、画面外の上側や下側を見ることで、パネルの表示の切り替えを行うことができます。マウスモードでは画面の端へマウスカーソルを移動することで切り替えを可能にします。

No.	画面	解説
1		変換候補を表示した画面です。この画面で画面外下側を見ると No.2 の移動中画面を経て、No.3 の画面を表示します。
2		移動中の画面です。このときは画面の選択はできません。
3		No.1 の画面に表示された変換候補の続きとなります。この画面で画面外上側を見ることで No.1 へ変わります。

また、スキャン入力では以下のように選択、決定を行います。

No.	画面	解説
1		変換候補を表示した画面です。矢印マーカーが上から下へ移動します。この画面で最上段のパネルは縦移動反転パネルです。
2		スイッチを押すとパネルの選択に移ります。矢印のあるパネルでスイッチを押すことで、そのパネルに決定します。
3		No.1 の画面に表示された変換候補の続きとなります。No.1 の画面で矢印が一番下のパネルの端に到達すると切り替わります。
4		一番後の「戻る」パネルです。この画面で下向きにスキャンしているとき、最初の画面に切り替わります。

8.10　除助詞変換

変換対象の頭一文字を変換対象から外して漢字変換を行います。文頭に「が、に、も」などの助詞がついていた場合、当該助詞を変換対象から外して漢字変換を行うことができます。【Ver1.1 1 A で追加】

8.10.1 除助詞変換の有効化

除助詞変換を利用するには、文字盤編集画面から「除助詞変換」パネルを文字盤に追加する必要があります。※初期状態時に配置されている「漢字変換」パネルでは除助詞変換を行うことはできません。

8.10.2 除助詞変換の実行

メッセージパネルに変換対象文字が存在している状態で「除助詞変換」パネルを選ぶと、変換対象文字の頭一文字を変換せず、以降の変換対象文字を漢字変換します。

除助詞変換の操作方法は通常の漢字変換と同じで、画面上に表示される変換候補パネルを視線・スイッチを用いて選択することで変換できます。

No.	画面	解説
1		変換対象文字を入力したら、「除助詞変換」パネルを選択します。この例では「にいきたい」の変換を行います。
2		「除助詞変換」パネルを選択すると、変換対象の 2 文字目以降の文字で変換をかけます。この例では頭一文字目である「に」が変換対象から外れ、「いきたい」を漢字変換しています。
3		変換したいパネルを選択すると、変換対象となっていた文字が変換され確定文字となります。

8.11　予測変換

入力にした文字に対する、予測変換の候補を選択することができます。

8.11.1 予測変換の有効化

予測変換を有効にするには、文字盤編集画面で「予測変換」のパネルを文字盤に追加する必要があります。

「予測変換」パネルを追加すると、文章パネルの下部に予測変換候補パネルが表示され、予測変換を行うことができます。予測変換は、「予測変換」パネルを設定した文字盤でのみ行われます。以下は、それぞれの入力方式での予測変換の表示は以下のようになります。

視線入力固定文字盤

視線入力移動文字盤

スキャン

8.11.2 予測変換の実行

予測変換が有効になっている状態で文字を入力すると、入力した文字に対応した予測変換候補が予測変換候補パネルに表示されます。この時、予測変換の対象となる部分は、水色で表示されます。

この時、「予測変換」パネルを選択すると、予測変換候補の選択に移ります。視線入力では以下のようになります。

手順	画面	解説
1		「予測変換」を選択すると、予測変換候補パネルが大きくなり、予測変換候補の選択に移ります。
2		予測変換候補を凝視して選択します。
3		予測変換候補を選択すると、対象文字列が選択したものに置き換わり、予測変換候補が初期化されます。

手順	画面	解説
4		確定後、文字入力を再開できます。
5		予測変換候補選択中に、一定時間予測変換候補パネル以外を見ると、選択をキャンセルし、予測変換の入力に戻ります。

スキャン入力では以下のようになります。

手順	画面	解説
1		「予測変換」を選択すると、マーカーが予測変換候補に移動します。マーカーは予測変間候補→「予測変換」パネルの順に移動し、「予測変換」選択後、予測変換の選択に戻ります。
2		スイッチを押すとマーカーの位置の予測変換候補を選択します。
3		予測変換を選択すると、変換対象が選択した予測変換候補に確定し、予測変換候補を初期化します。

手順	画面	解説
4		予測変換確定後、文字入力を再開します。
5		予測変換候補選択中に「予測変換」パネルを選択すると、予測変換候補の選択をキャンセルし、文字入力に戻ります。

また、予測変換を行う際に、対象の文字が、かな、英数字、絵文字の複数の種類からなる場合、それぞれの種類ごとに予測変換が行われます。この場合、予測変換候補は以下のようになります。

手順	画面	解説
1		予測変換対象に複数の種類の文字がある場合、種類別に表示されます。この時、予測変換候補パネルには、最初の部分に対する予測変換候補が表示されます。 左の例では、候補の対象が「とうきょう」「abc」「なごや」「絵文字」「おおさか」に分割されます。
2		「予測変換」を選択すると、予測変換候補の選択に移ります。

手順	画面	解説
3		予測変換候補を選択すると、次の部分の予測変換候補が表示されます。
4		予測変換候補の次の文字が絵文字の場合、絵文字の変換をスキップして、次の候補を表示します。絵文字が予測変換対象の末尾の場合は、予測変換を確定します。
5		全ての予測変換候補を確定すると、文字入力に戻ります。
6		複数の部分からなる予測変換候補の選択中に、選択をキャンセルすると、確定部分をのぞいて、文字入力を再開します。

8.11.3 予測変換と変換機能

予測変換実行中に、「漢字変換」パネルを選択した時は以下のように通常の変換を行います。

手順	画面	解説
1		予測変換有効時に、「漢字変換」パネルを選択すると、水色の変換対象に対する通常の変換を行います。
2		通常の漢字変換を行い確定した場合、その文字に対する予測変換は行われません。

8.12　文字の消去

入力した文章を修正するためには、文章を１文字ずつ消す「1 文字消去」と、文章全体を削除する「全消去」の２種類の方法があります。ここでは、それぞれの機能について解説します。

8.12.1 1 文字消去

文字を入力した後、「1 文字消去」パネルを選択することで、入力した文字を、キャレットの位置から１文字ずつ消していきます。下の図は、「変換候補テスト」と入力した文章から「補」を消去したときのものです。

「１文字消去」パネルは連続して選択でき、以下のようになっています。

(1)スキャン入力

①　自動選択・手動決定

選択し、文字消去後一定時間内にスイッチを押すことで、消去処理を繰り返します。一定時間が経過すると、範囲選択に戻ります。

②　手動選択・手動決定

文字消去後、１文字消去パネルの選択が維持されます。ここで決定スイッチを押すことで１文字消去が繰り返します。選択スイッチを押すことで、範囲選択に戻ります。

③　手動選択・自動決定

文字消去後、１文字消去パネルの選択が維持されます。ここで一定時間が経過することで１文字消去が繰り返します。スイッチを押すことで、範囲選択に戻ります。

(2)直接入力

視線による直接入力時は、「１文字消去」パネルを見続けて、決定処理（スイッチ決定時

はスイッチを押す、視線決定なら見続けて時間経過）をすることで、連続して文字消去ができます。視線をパネルから外すことで、パネル選択へ移ります。

8.12.2 全消去

「全消去」パネルを選択すると、以下のような確認パネルが表示されます。ここで「全消去実行」を選択すると、文章パネルの内容をすべて消去します。「キャンセル」を選択したときは消去を行いません。

8.13　発声履歴

文字盤画面で「発声履歴」パネルを選択すると、以下のような履歴選択画面が選択されます。

灰色の背景のパネルは、これまでに発声したメッセージが履歴として表示されます。過去に入力したメッセージと同じものを入力したい場合に、発声履歴から読み出して再利用することができます。発声履歴は最大３０件表示され、上に行くほど新しくなります。このパネルを選択すると、選択した内容が入力されます。

また、青色の背景の「←」パネルは、選択するとメイン画面に戻ります。

以下は固定文字盤での履歴選択画面の表示例です。

8.14　印刷

「印刷」パネルを選択すると、メッセージパネルに入力した文字を印刷することができます。設定項目「印刷時の文字の大きさ」と「1 行当たりの文字数」で印刷イメージを調整することができます。

「1 行当たりの文字数」を 15 字以下にすると、サーマルプリンタの印刷イメージとなり、別売りのサーマルプリンタを使って印刷することができます。【Ver1.11A で追加】

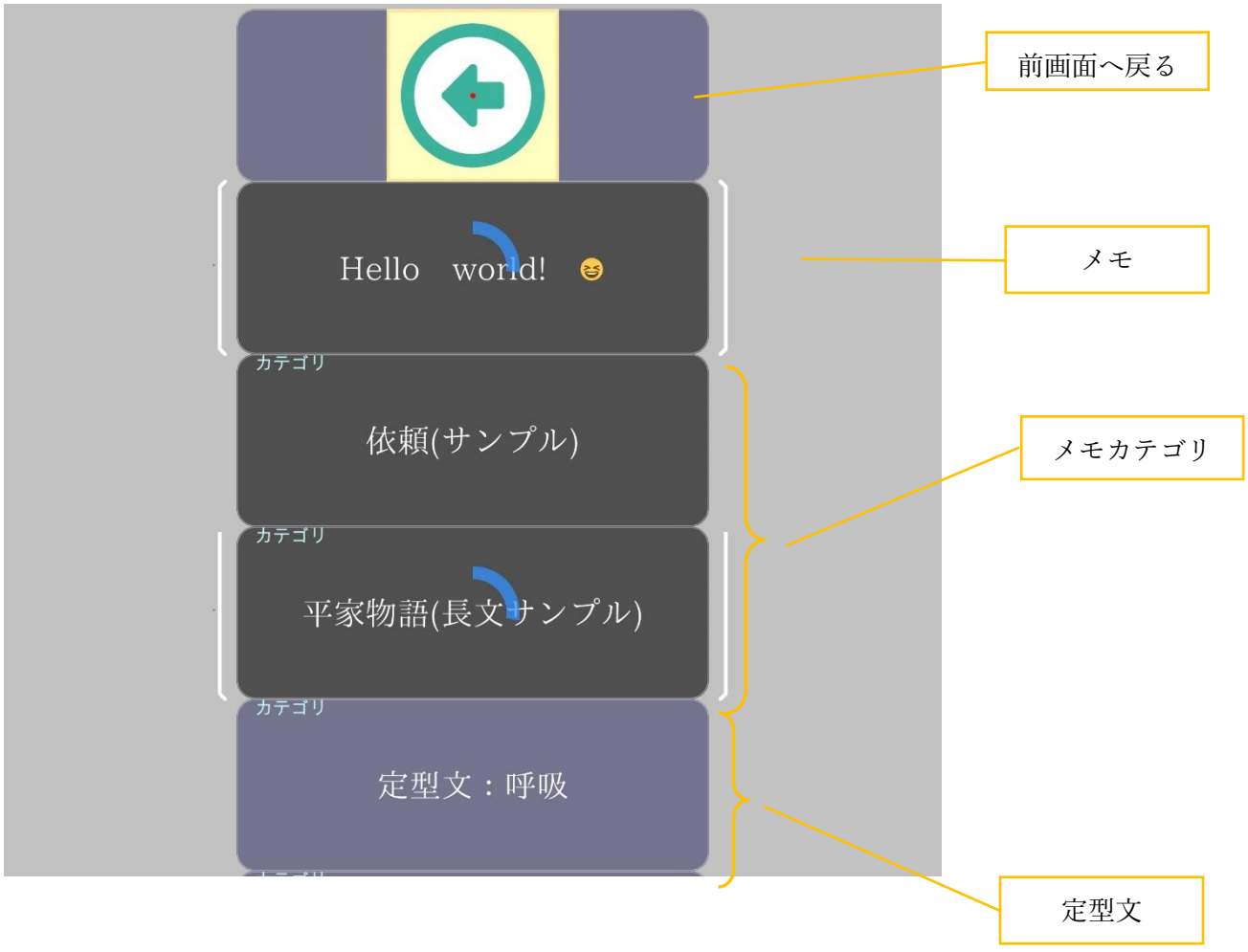
8.15　メモと定型文

文字盤画面で「メモと定型文」パネルを選択すると、以下のような選択画面が選択されます。

青色の背景の「←」パネルは、選択するとメイン画面に戻ります。

「←」パネルの下の背景が灰色のパネルは、メモとメモカテゴリを表示します。メモカテゴリや個々のメモの内容や並び順は、「8.16 メモ機能」で編集できます。これらは、設定されていないときは表示されません。

青色の背景で表示される定型文は eeyes に内蔵された定型文が表示され、入力の手間が軽減でき、入力の速度を向上させます。



また、固定文字盤では以下のようになります。

スキャン入力時の画面です。

8.15.1 メモ

「←」パネルの下の灰色の背景のパネルはメモパネルです。このパネルを選択すると、パネルの内容を入力します。メモパネルは、メモが設定されていないときは表示されません。

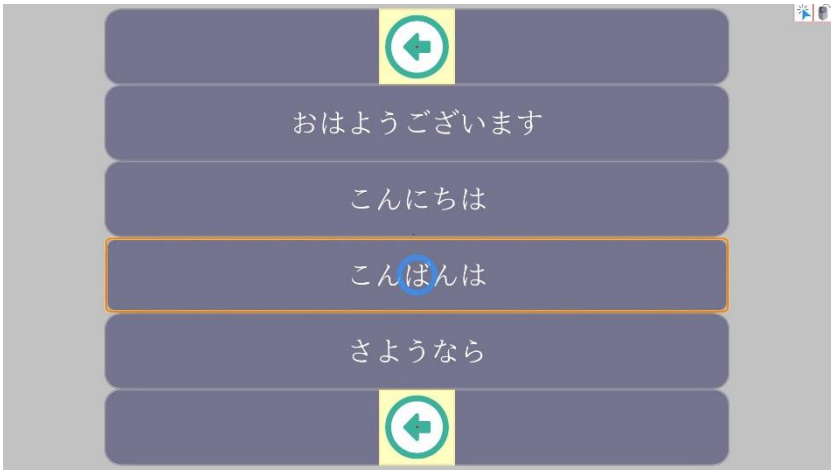
8.15.2 メモカテゴリ

メモパネルと定型文カテゴリの間にある灰色の背景で、左上にカテゴリと表示されるパネルはメモカテゴリパネルです。カテゴリがないとき、メモカテゴリパネルは表示されません。

このパネルを選択すると、以下のようなメモ選択画面が表示されます。この画面では、選択したカテゴリにあるメモが灰色の背景で表示されます。ここで、灰色背景のパネルを選択し、メモを入力します。また、「←」を見ることで、前の画面（メモと定型文の選択）に戻ることができます。カテゴリ内にメモがないときは「←」パネルのみ表示されます。

8.15.3 定型文

「定型文：」で始まる、背景が青いパネルを選択し、定型文のカテゴリを選択します。選択すると、そのカテゴリの定型文が表示されます。ここで、選択したパネルの定型文を入力します。また、「←」を見ることで、前の画面（メモと定型文の選択）に戻ることができます。



8.16　メモ機能

メイン画面で操作系パネル「メモ編集」を選択することでメモの編集を行うことができます。編集したメモは「メモと定型文」機能で選択でき、発話などをすることができます。

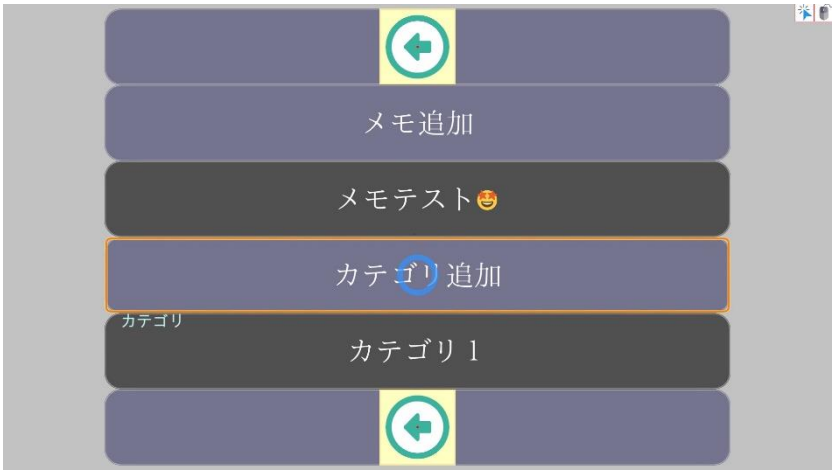
メモ機能は、下記の画面で構成されています。

画面名	説明
カテゴリ選択画面	カテゴリの新規追加と、編集するカテゴリの選択をします。
カテゴリ編集画面	選択したカテゴリに対し行う操作を決定します。
カテゴリ削除画面	選択したカテゴリを削除するか決定します。
メモ選択画面	メモの新規追加と、編集するメモの選択をします。
メモ編集画面	選択したメモに対し行う操作を決定します。
メモ削除画面	選択したメモを削除するか決定します。
編集用文字盤画面	入力用の文字盤を表示します。

以下、各画面について解説します。

8.16.1 カテゴリ選択画面

メイン画面で操作系パネルの「メモ編集」を選択すると次の画面が表示されます。この画面に表示される順番で、メモと定型文画面のカテゴリ選択画面に表示されます。

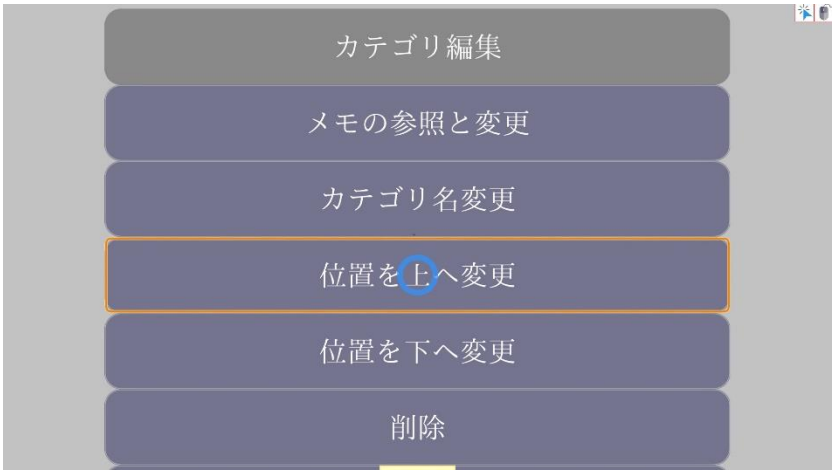


この画面では、メモおよびカテゴリの追加と、操作する対象の選択を行います。背景が灰色のパネルは編集可能なパネルです。カテゴリはパネル左上にカテゴリと表示があります。この画面で表示されるパネルは以下の表のとおりです。

パネル表示	パネル名称	説明
メモ追加	-	編集用文字盤を表示し、新しいメモを作成します。
メモ	-	メモ編集画面へ移ります。
カテゴリ追加	-	編集用文字盤を表示し、新しいカテゴリを作成します。
カテゴリ名	-	カテゴリ編集画面へ移ります。
	戻る	メイン画面に戻ります。

8.16.2 カテゴリ編集画面

カテゴリ選択画面でカテゴリ名を選択すると、次の画面が表示されます。



この画面では、カテゴリ選択画面で選択したカテゴリに対し加える操作を決定します。ここで各パネルの操作は以下の表のとおりです。

パネル表示	パネル名称	説明
メモの参照と変更	-	メモ選択画面へ移ります。
カテゴリ名変更	-	編集用文字盤画面へ移り、カテゴリ名を編集します。
位置を上に変更	-	選択したカテゴリとその上のカテゴリを入れ替え、カテゴリ選択画面に戻ります。入れ替えるカテゴリがないときは表示されません。
位置を下に変更	-	選択したカテゴリとその下のカテゴリを入れ替え、カテゴリ選択画面に戻ります。入れ替えるカテゴリがないときは表示されません。
削除	-	カテゴリ削除画面へ移ります。
	戻る	カテゴリ選択画面に戻ります。

8.16.3 カテゴリ削除画面

カテゴリ編集画面で削除を選択すると表示されます。

ここで、カテゴリの削除を行うかパネルを選択して決定します。各パネルの操作は以下の表のとおりです。

パネル表示	パネル名称	説明
	戻る	カテゴリの削除を行わないで、カテゴリ選択画面に戻ります。
	はい	このカテゴリを削除し、カテゴリ選択画面に戻ります。このとき、このカテゴリ内のすべてのメモは同時に削除されます。

8.16.4 メモ選択画面

カテゴリ編集画面で「メモの参照と変更」を選択すると次の画面が表示されます。背景が灰色のパネルにメモが表示され、この画面に表示される順番で、発声履歴・定型文画面のメモが表示されます。また、灰色の背景のパネルは編集可能です。最上部のガイダンスには選択中のカテゴリが表示されます。

ここで各パネルの操作は以下の表のとおりです。

パネル表示	パネル名称	説明
メモ追加	-	編集用文字盤画面を表示し、新しいメモを追加します。
メモ	-	メモ編集画面へ移ります。
	戻る	カテゴリ選択画面に戻ります。

8.16.5 メモ編集画面

メモ選択画面でメモを選択すると次のような画面が表示されます。

選択したメモに対して加える操作を決定する画面です。各パネルの操作は以下の表のとおりです。

パネル表示	パネル名称	説明
内容変更	-	編集用文字盤画面へ移り、メモを編集します。
位置を上に変更	-	選択したメモとその上のメモを入れ替え、前の画面（※）に戻ります。入れ替えるメモがないときは表示されません。
位置を下に変更	-	選択したメモとその下のメモを入れ替え、前の画面（※）に戻ります。入れ替えるメモがないときは表示されません。
削除	-	メモ削除画面へ移ります。
	戻る	前の画面（※）に戻ります。

8.16.6 メモ削除画面

ここで各パネルの操作は以下の表のとおりです。

パネル表示	パネル名称	説明
	戻る	メモの削除を行わないで、前の画面（※）に戻ります。
	はい	このメモを削除し、前の画面（※）に戻ります。

8.16.7 編集用文字盤画面

カテゴリやメモの新規登録や編集を選択すると、次のような文字盤が表示されますので、文字盤を使って設定してください。設定が完了したら、更新のアイコンを選択すると、カテゴリやメモを設定し、選択画面へ戻ります。

カテゴリ編集文字盤（固定文字盤）

メモ編集文字盤（固定文字盤）

ここで表示される操作系パネルは以下の表のとおりです。

アイコン	パネル名称	説明
	戻る	変更を保存しないで、次の画面に戻ります。 カテゴリ編集時：カテゴリ選択画面 メモ編集時　　：前の画面（※）
	更新	変更を保存し、画面を移ります。 詳しくは表の下の「※更新について」をご参照ください。
	気持ちと体	パネルを絵文字（気持ちと体）に切り替えます。 カテゴリ名の編集時は表示されません。
	物と操作	パネルを絵文字（物と操作）に切り替えます。 カテゴリ名の編集時は表示されません。
	英数字	パネルを英数字に切り替えます。
	ひらがな	パネルをひらがなに切り替えます。
	漢字変換	入力した文字列を変換します。
	文の退避	入力した文字列を一時退避し、記憶します。 再度選択することで、記憶した文字列を読み出します。
	全消去	入力した文字列をすべて消去します。
	1 文字消去	入力した文字列の最後の 1 文字を消去します。

アイコン	パネル名称	説明
	行方向反転	スキャン入力時のみ表示されます。選択することで、スキャンの上下方向を反転させます。
	列方向反転	スキャン入力時のみ表示されます。選択することで、スキャンの左右方向を反転させます。
	上移動	キャレットを上に移動します。
	下移動	キャレットを下に移動します。
	左移動	キャレットを左に移動します。
	右移動	キャレットを右に移動します。
	先頭に移動	キャレットを文章の先頭に移動します。
	末尾に移動	キャレットを文章の末尾に移動します。
	コピー （範囲選択）	文章のコピーする範囲選択を開始します。
	コピー （範囲確定）	範囲選択中にコピー（範囲選択）パネルの代わりに表示されます。選択することで、コピー範囲を確定し、その部分をコピーします。
	ペースト	コピーした文字をキャレットの位置に貼り付けます。
	改行	変換対象の文字があるときは、変換対象を確定文字にします。変換対象がないときはキャレットの位置で改行します。

※更新について

「更新」パネルを選択したとき、以下のような処理を行います。

① カテゴリ名の編集中

入力したカテゴリ名を保存し、カテゴリ選択画面へ移ります。このとき、カテゴリ名が未入力であるか、すでに同じ名前のカテゴリがあるときは、カテゴリの保存ができません。また、カテゴリ名に絵文字を設定することはできません。

新規作成したカテゴリは、カテゴリ選択画面の１番下に追加されます。また、カテゴリ名を更新したときは、更新前のカテゴリの名前を保存した名称に変更します。

② メモの編集中（カテゴリ選択画面のメモ）

入力したメモを保存し、カテゴリ選択画面へ移ります。このとき、メモが未入力であるか、すでに同じ内容のメモがあるときは、メモの保存ができません。

新規作成したメモは、カテゴリ選択画面のメモの 1 番下に追加されます。また、メモの更新は、更新前のメモを保存した内容に変更します。

③ メモの編集中（メモ選択画面のメモ）

入力したメモを保存し、メモ選択画面へ移ります。このとき、メモが未入力であるか、すでに同じ内容のメモがあるときは、メモの保存ができません。

新規作成したメモは、メモ選択画面の 1 番下に追加されます。また、メモの更新は、更新前のメモを保存した内容に変更します。

8.16.8 メモ編集時の戻る画面について

カテゴリ編集画面でカテゴリの選択を行った否かで、メモ編集画面、メモ削除画面、メモ編集文字盤の戻り先の画面が変わります。

カテゴリ編集画面でカテゴリの選択をしたときは、選択したカテゴリのメモ編集画面に戻ります。

カテゴリ編集画面でメモを選択した時は、戻り先がカテゴリ選択画面になります。

8.17　Twitter

eeyesS2.ver1.09A 以降のバージョンでは、Twitter 機能は削除されています。Twitter を利用する際は、Windows 操作機能を使い、Web ブラウザなどで利用してください。

8.18　メール

8.18.1 メールアカウントの設定

通常このメールアカウントの設定は納品時には行われていません。そのため、次の手順で設定を変更してください。

メイン文字盤画面で介護者用メニューを開き、「メール設定」をクリックすることでメールアカウント編集画面を表示し、編集することができます。詳細は「メールアカウント編集画面」をご参照ください。

8.18.2 送信先のメールアドレス設定

これまでやり取りが無い方へメールを送る場合は、「アドレス帳」で宛先の登録が必要となります。操作系パネルの「アドレス帳」を選択したとき、次の画面が表示されます。

この画面では表示されるパネルは以下の表のとおりです。

パネル	パネル名称	説明
＋	新規登録	新規に送信先を追加します。

パネル	パネル名称	説明
宛先の名前	-	この名前のアドレスを編集します。名前の下の＜＞内に送信先のメールアドレスが表示されます。
	戻る	前の文字盤画面に戻ります。

1）送信先の新規登録／編集

新規登録、アドレス編集を選択すると、次のような文字盤が表示されますので、送信先の名前を設定します。文字盤を使って設定してください。設定が完了したら、更新のアイコンを選択すると、メールアドレス用の文字盤に切り替わります。

送信用アドレス名編集画面（かな入力）

送信用アドレス名編集画面（英数入力）

ここで表示される操作系パネルは以下の表のとおりです。

アイコン	パネル名称	説明
	漢字変換	入力した文字列を変換します。 メールアドレス編集時は表示されません。
	英数字	文字盤を英数字に切り替えます。 メールアドレス編集時は表示されません。
	ひらがな	文字盤をひらがなに切り替えます。 メールアドレス編集時は表示されません。
	全消去	入力した文字列をすべて消去します。
	1 文字消去	入力した文字列の最後の 1 文字を消去します。
	戻る	前の画面に戻ります。 名前編集時には選択画面に戻り、変更は保存されません。
	更新	設定を更新します。
	削除	現在編集中の項目を削除して、選択画面に戻ります。
	行方向反転	スキャン入力時のみ表示されます。選択することで、スキャンの上下方向を反転させます。
	列方向反転	スキャン入力時のみ表示されます。選択することで、スキャンの左右方向を反転させます。
	上移動	キャレットを上に移動します。
	下移動	キャレットを下に移動します。
	左移動	キャレットを左に移動します。
	右移動	キャレットを右に移動します。
	先頭に移動	キャレットを文章の先頭に移動します。
	末尾に移動	キャレットを文章の末尾に移動します。
	コピー (範囲選択)	文章のコピーする範囲選択を開始します。

アイコン	パネル名称	説明
	コピー （範囲確定）	範囲選択中にコピー（範囲選択）パネルの代わりに表示されます。選択することで、コピー範囲を確定し、その部分をコピーします。
	ペースト	コピーした文字をキャレットの位置に貼り付けます。
	改行	変換対象の文字があるときは、変換対象を確定文字にします。変換対象がないときはキャレットの位置で改行します。

引き続きメールアドレスを文字盤で入力してください。大文字の入力は濁点入力の設定した方法で行うことができます。入力が完了したら、「更新」パネルを選択してください。設定したアドレスが登録され、選択画面に戻ります。

2）送信先の削除

宛先を削除する場合は、メール設定画面で削除する宛先を選択し、編集画面を表示してください。編集画面の文字盤で「削除」パネルを選択すると、その宛先は削除されます。

送受信メールがある送信先を削除すると、送信先との送受信メールおよび添付ファイルもまとめて削除されます。

8.18.3 メール送受信

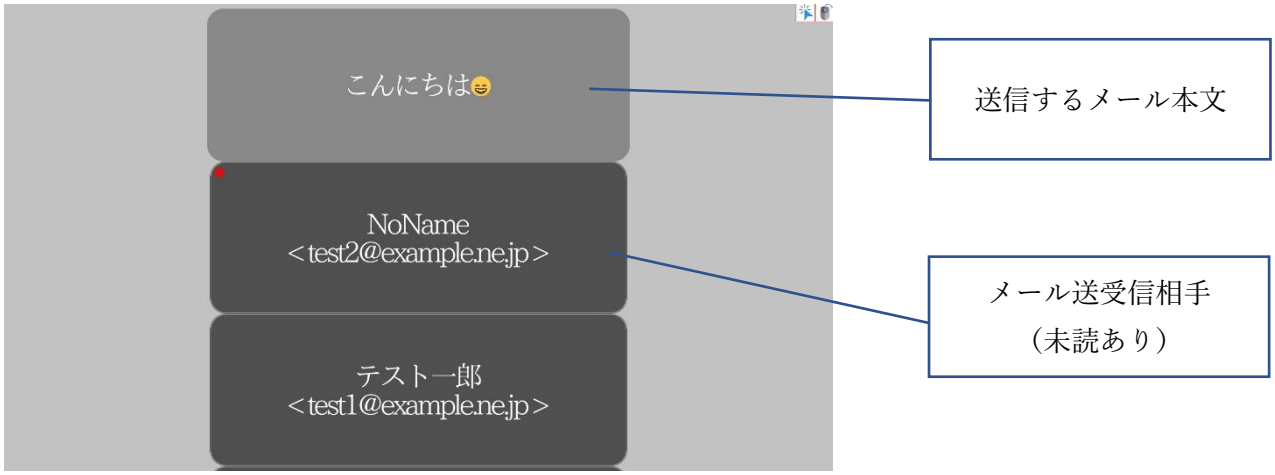
1）メール送受信パネル

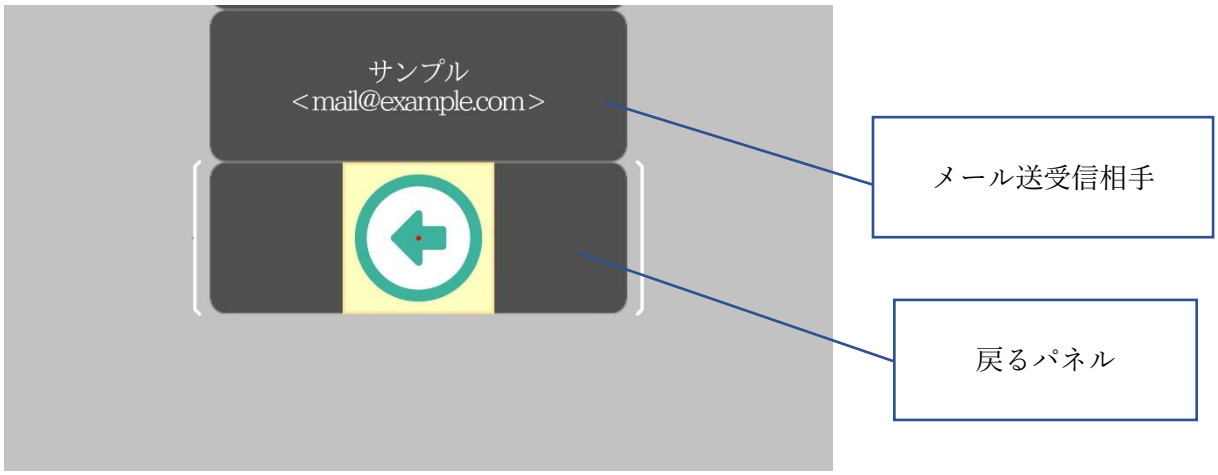
メール機能は、メイン文字盤画面の「メール送受信」パネルを選択することで実行できます。このパネルは、未読のメールがある場合、以下のようにその件数を表示します。また、メールの受信はメイン文字盤画面にて１０分間隔で行われます。

2）送受信メールの表示

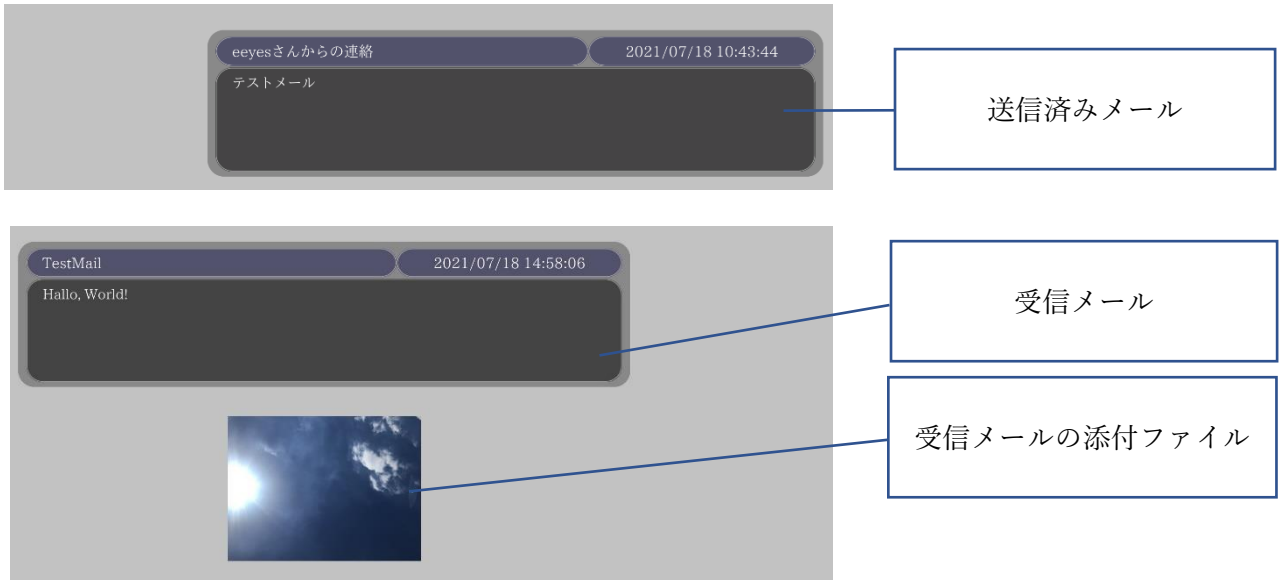
操作系パネル「メール送受信」を選択すると以下のような名前リスト画面が表示されます。「8.18.2 送信先のメールアドレス設定」で設定したメールアドレスと、それ以外の受信したメールのアドレスと名前が表示されます。ここでは名前の下の＜＞内にメールアドレスが表示されます。このとき、「8.18.2 送信先のメールアドレス設定」で設定していない受信メールで、送信元の名前がないときは、名前欄に「NoName」と表示されます。

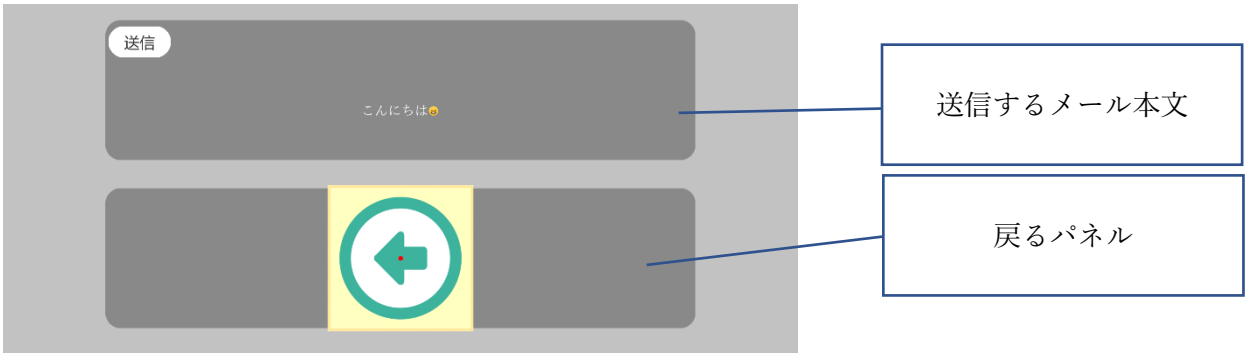
新規に受信したメールがあるときは、その送信元の名前パネルに赤丸が付きます。





名前パネルを選択すると、以下のようなメールリスト画面が表示されます。ここでは、選択された宛先と送受信したメールが時間順に並んで表示されます。画面向かって左寄りに受信したメール、右寄りに送信したメールが振り分けられます。また、添付された画像が受信メールの下に表示されます。





3）メールの送信

メールの送信手順は以下の通りとなります。

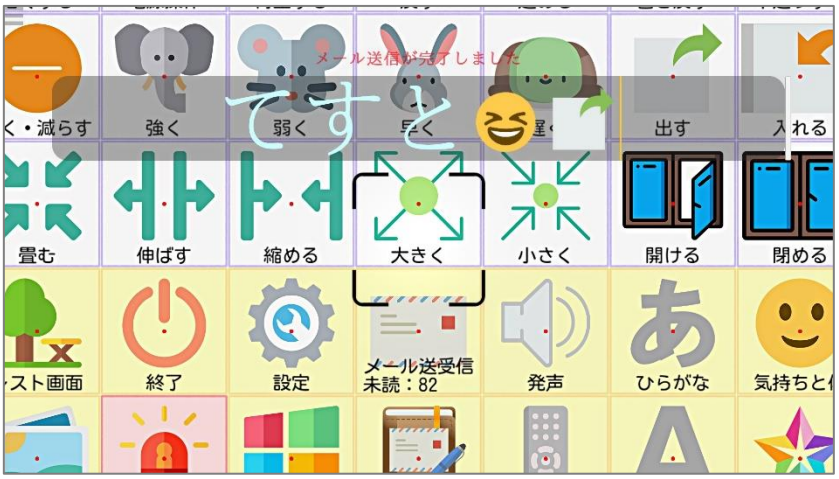
① メールの本文を送信前に文字盤で入力する。

② 操作系パネル「メール送受信」を選択する。

③ 宛先リストから、送信先を選択する。

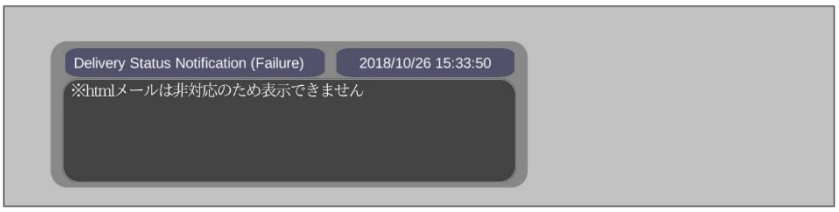
④ 送信するメールの本文が表示されているパネルを選択する。

⑤ メールを送信すると「メール送信が完了しました」と表示されます。
送信に失敗したときは「メール送信に失敗しました」と表示されます。



4）メールの送受信に関する制限事項

HTML やリッチテキストのメールを受信した場合、メールリストで本文が「※html メールは非対応のため表示できません」と表示されます。また添付ファイルの受信は現状、画像ファイルのみ対応しています。



画像ファイル以外の添付ファイルを受信すると、次ページのように、添付ファイルが表示できないことを表示します。

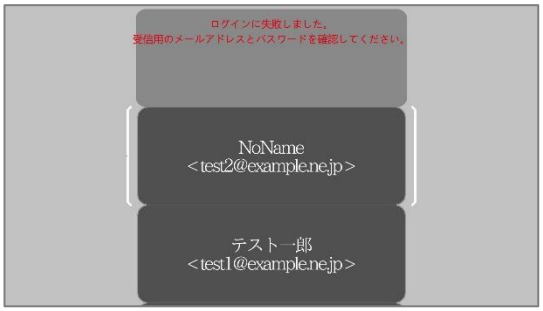
5）インターネット未接続時について

インターネットに接続されていないときは、接続時の最後に「メール送受信」を選択したときの状態で、メールの記録を閲覧できます。この状態でメールを送信した場合、送信に失敗します。

6）メール受信のエラーについて

eeyes ではメールの受信はメイン文字盤画面表示時に１０分間隔で行われます。メールの受信時にエラーが発生した場合、以下のようにエラーのメッセージが表示されます。

メイン文字盤画面



名前リスト画面

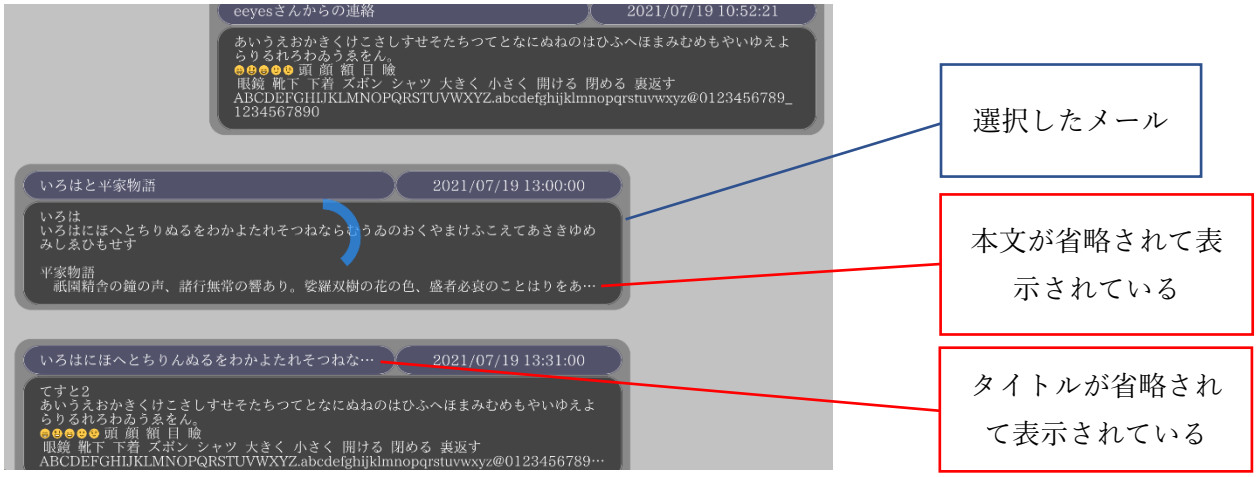
7）メールアカウント未設定時のメール送受信機能

メールアカウントが設定されていないときは、メール送受信機能パネルは無効化されます。

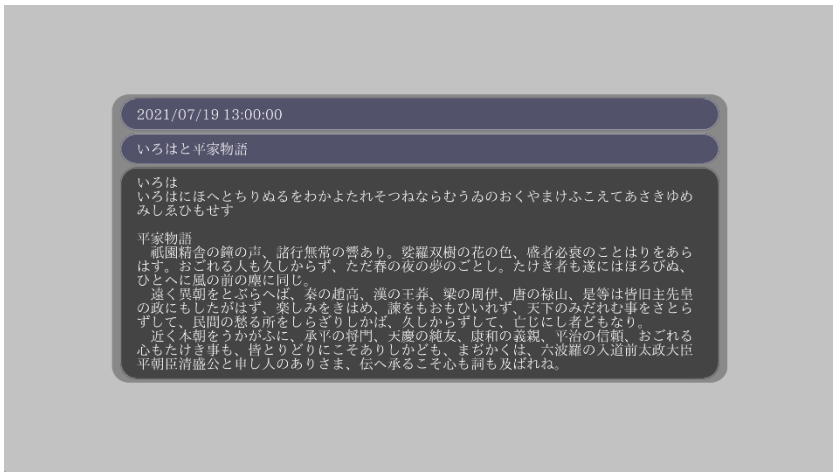
8.18.4 メールの全文表示

メールリスト画面で、送受信したメールのパネルは以下のように表示されます。ここで、受信したメールのタイトルや本文がパネルに収まらない長さのときは省略され、末尾に「…」と表示されます。

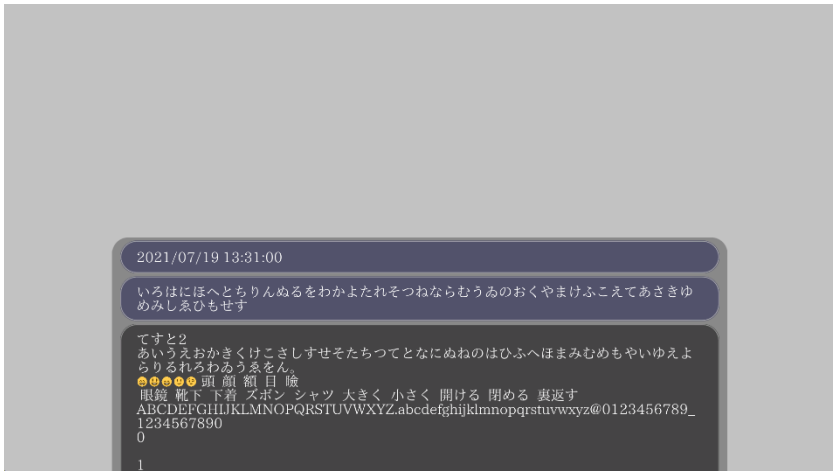
　また、1行当たりの表示文字数とそのサイズは、設定画面の文字の大きさで設定できます。以下の例では、１行４０文字の設定で折り返し表示されています。



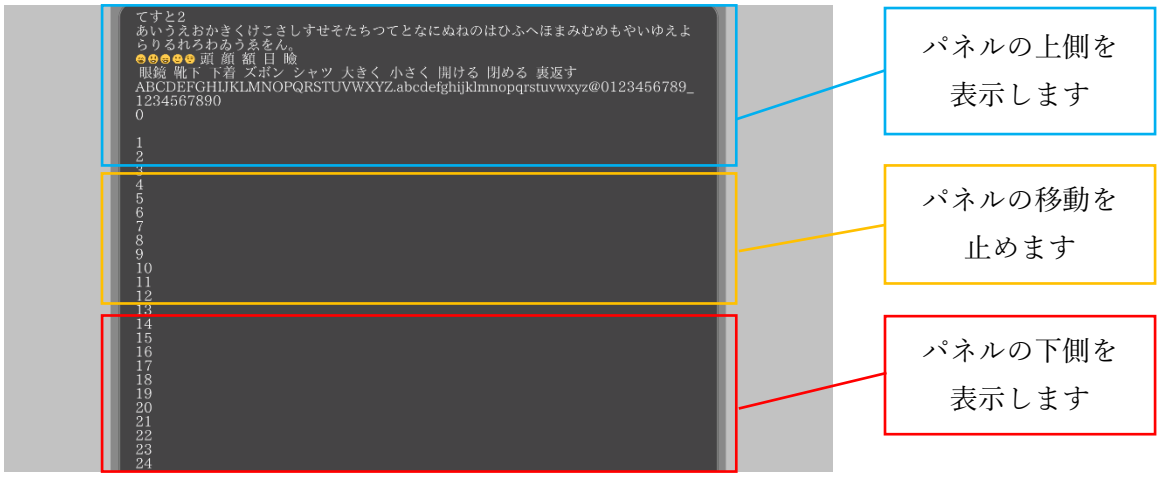
画面中央にあるメールパネルを凝視すると、プログレスサークルがパネル中央に表示されます。このパネルを選択すると、以下のように、そのメールの全文を表示することができます。



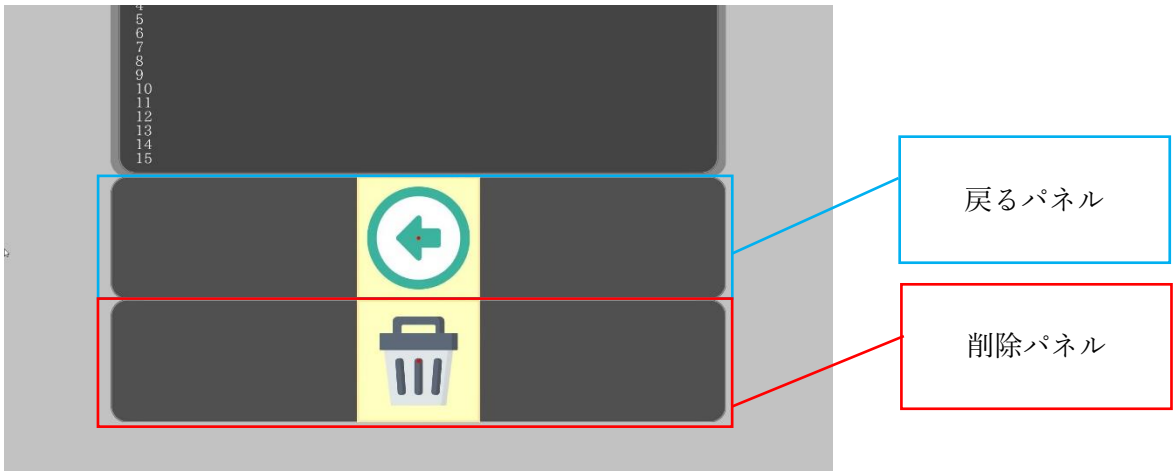
また、メールが長く画面内にパネルが収まらないときは、以下のように表示されます。



このとき、パネルの下側を見ると、パネルが動いて続きを見ることができます。画面中央付近を見るとパネルの移動を止めることができます。パネル上部を見ると、パネル上側を見ることができます。



この画面から前のメールリスト画面に戻るときは、メール本文下の選択時の「戻る」パネルを選択することで戻ることができます。



8.18.5 メール削除画面

送受信したメールを削除するには、削除したいメールを全文表示し画面下の「削除」パネルを選択します。その後、メールを削除するかの確認画面が表示されます。

ここで、選択したメールを削除するか決定します。各パネルの操作は以下の通りです。

パネル表示	パネル名称	説明
	戻る	メールの削除を行わないで、メールリスト画面を表示します。
	はい	このメールを削除し、メールリスト画面に戻ります。このとき、このメールに添付されていたファイルもすべて削除されます。

8.18.6 固定文字盤時の動作

固定文字盤でメール送受信画面を見たときは以下のように動作します。

1）名前リスト画面とメールリスト画面

ここでは、定型文選択画面などと同様に、表示されるパネルを見ることで決定します。また、画面外側を見ることで、パネル表示を切り替えることができます。

2）メールリスト画面

この画面では、1）名前リスト画面と同様の動作をします。

3）メール全文表示画面

この画面では、移動文字盤のメール全文表示画面と同様の動作をします。

8.18.7 スキャン入力時の動作

スキャン入力でメール送受信画面を見たときは以下のように動作します。

1）名前リスト画面

この画面では、ほかの選択画面と同様に上から下へ選択を行うようにパネルが動きます。

手動選択での入力の場合、選択ボタンを押すごとにカーソルが 1 パネルずつ移動していきます。

2）メールリスト画面

この画面では、メールを新しい順で選択するため、下から上へと選択するようにパネルが動きます。「戻る」パネルから始まり、上のパネルを順に選択していきます。このとき、添付画像は選択されません。

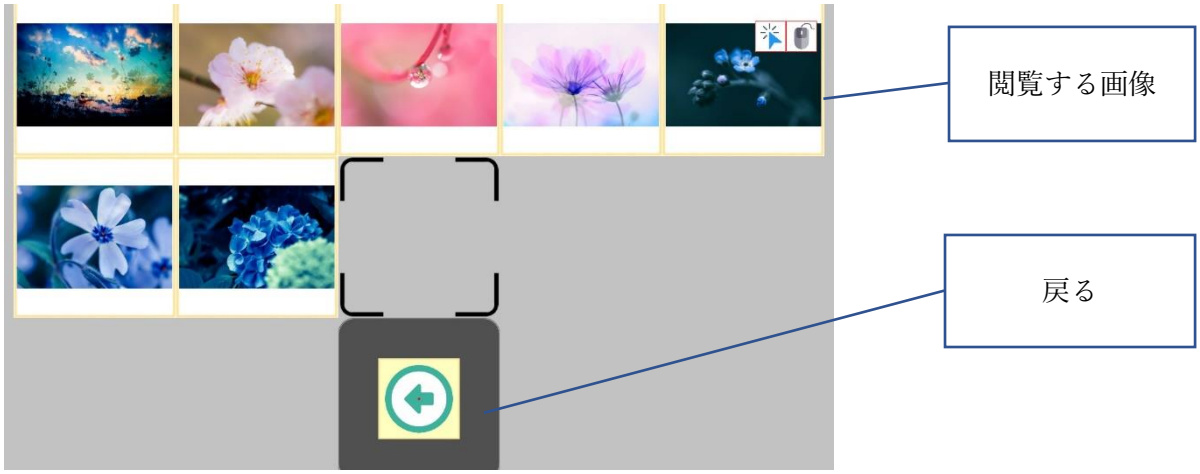
3）メール全文表示画面

この画面では、パネルが画面より大きいとき、上から下へ自動で動くことで、メールの全文を読めるようにします。決定ボタンを押すとメールの動きを止めることができます。

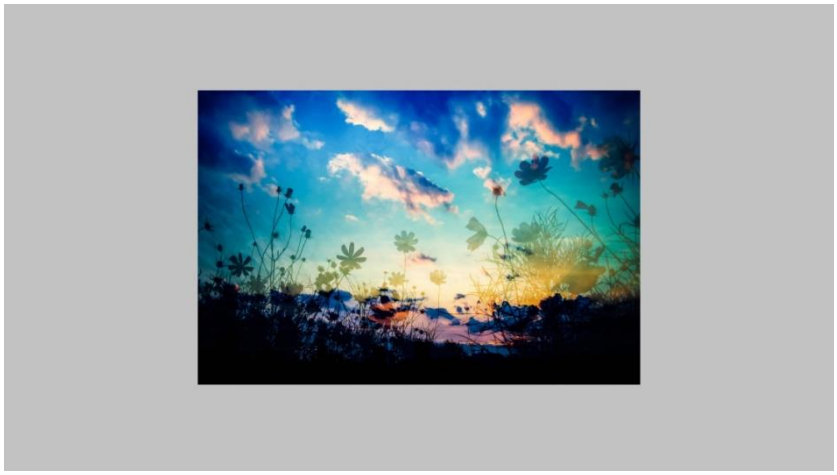
自動選択での入力の場合、移動可能な範囲をすべて動いたときは、初期状態に戻り、初めから表示されます。手動選択の場合、「戻る」パネルが画面中央に来たところでメールの動きが止まり、選択ボタンを押して「戻る」パネルと「削除」パネルを選択することができます。最後のパネルを選択している状態で「選択」ボタンを押すと、初期状態に戻り、初めから表示されます。

8.19　画像閲覧画面

「画像閲覧」パネルを選択することで、メールに添付された画像ファイルを拡大して表示できます。初めに、以下の画面が表示されるので、拡大したい画像のあるパネルを選択します。また、ここから文字盤画面へ戻るときは、「戻る」パネルを選択してください。



選択すると、以下のように、選択した画像が大きく表示されます。



この画面から前の画像選択画面に戻るときは、選択時の決定方法によって異なります。

① 凝視で決定する場合
　画面の四隅を凝視するか、画面外を見続けることで画像選択画面に戻ります。

② スイッチ操作で決定する場合
　スイッチを押すことで、画像選択画面に戻ります。

③　マウスクリックで決定する場合
クリックを行うことで、画像選択画面に戻ります。

※画像閲覧画面のマウス操作モードについて
画像閲覧画面では、画像選択画面で画像展開中の場合、マウス操作モードの切り替えを行うことはできません。表示が完了してから「M」キーを押して切り替えてください。

8.20　環境制御用画面

メイン画面で「環境制御」パネルを選択すると、以下のような環境制御用画面へ遷移します。この画面は、メイン画面と同様にパネルを選択することができます。文字盤は、黄色背景の操作系パネルと、緑背景の環境制御系パネルからなっています。各パネルについては、以下の節をご参照ください。

環境制御用画面（スキャン入力時）

8.20.1 操作系パネル

黄色背景のパネルは操作系パネルです。選択すると、eeyes に対する操作を行います。環境制御用画面の操作系パネルと機能は以下の表のとおりです。

アイコン	パネル名称	説明
	戻る	メイン画面に戻ります。
	音量上げる	環境制御系パネルの発話時の音量を大きくします。
	音量下げる	環境制御系パネルの発話時の音量を小さくします。

8.20.2 環境制御系パネル

背景が緑色の環境制御系パネルを選択すると、発話します。この内容をスマートスピーカーに聞かせることで、スマートスピーカーを操作します。

発話の声色は、発声の設定を反映しています。コエステーションに接続している場合は、コエステーションの声で、マイボイスに接続している場合はマイボイスの声で、どれにも接続していないときはビルトインの声色で発話します。

設定で環境制御系のパネルの声色をビルトインの声色に固定することができます。詳しくは、「9.各種設定」をごらんください。【Ver1.11A で追加】

※初期設定は Amazon Echo(アレクサ)用となっています。

8.20.3 学習リモコン操作パネル

背景が緑色の環境制御系パネルのうち、パネル左上に赤外線マークのあるパネルは、学習リモコン操作パネルです。このパネルを選択すると、発話と同時にあらかじめ学習したリモコン操作を行うことができます。赤外線リモコンの学習については「11 学習リモコンの操作機能」をご参照ください。

8.20.4 メイン画面における環境制御系パネル

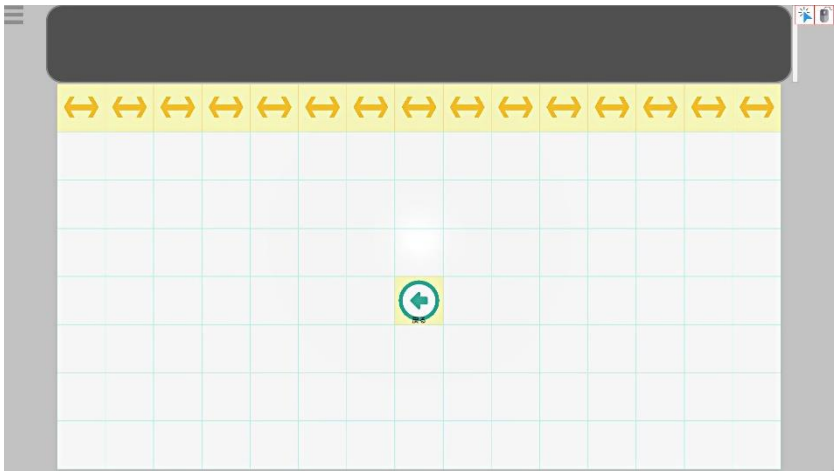
文字盤編集画面を用いてメイン画面の文字盤に環境制御系パネルを設定することができます。設定したパネルは、他のパネルと同様に選択でき、発話やリモコン操作を行うことができます。

8.21　汎用パネル

「汎用パネル」パネルを選択すると、汎用パネル文字盤が表示されます。汎用パネル文字盤は、利用者様が使いやすいようパネルを配置・設定できる文字盤です。

汎用パネル文字盤のうち、汎用パネル 01~09 までは無地の文字盤が、汎用パネル 10 には、カタカナ入力文字盤が収録されています。それぞれの汎用パネルは文字盤編集画面で編集することができます。

・汎用パネル 01~09

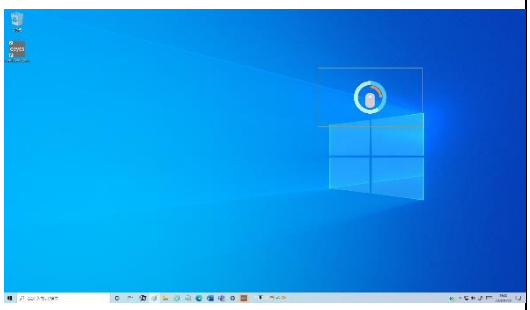
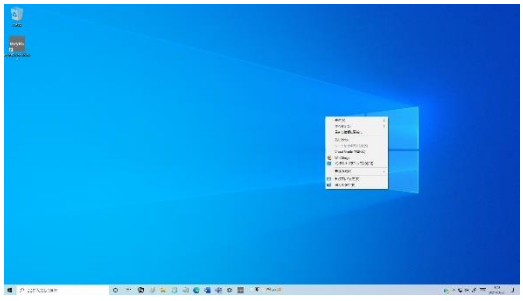


・汎用パネル 10（カタカナ文字盤）

8.22　Windows 操作機能

メイン画面で「Windows 操作」パネルを選択すると、Windows 操作画面が表示されます。この画面では使用するデスクトップと Windows を操作するための操作メニューが表示されます。メニューで行いたい処理を選択し、その処理を実行する場所を決定することで、Windows に対してクリックなどの操作を行うことができます。この流れは、以下の表のとおりです。各画面についての詳細な解説は、以降の節で行います。

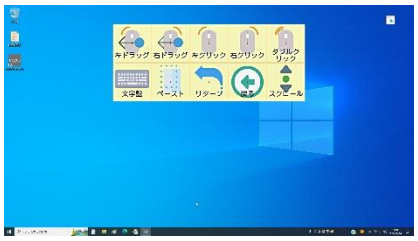
視線入力モードかつ、視線専用 Windows 操作機能をＯＮにしている場合は「8.20 視線専用 Windows 操作機能」を参照してください。

手順	画面	解説
1		操作メニュー画面 Windows で行う操作を選択します。 （この図では右クリックを選択しています。）
2		位置選択画面 クリックなどを実行する位置を選択します。
3		クリック実行 選択した場所で、処理を実行します。

8.22.1 操作メニュー画面解説

Windows 操作をするためのメニュー画面です。視線入力でのパネル配置は、以下のようになっています。Windows 操作で初めに表示されるのは、下側（横型）のパネルです。

下側（横型）



上側（横型）

右側（縦型）

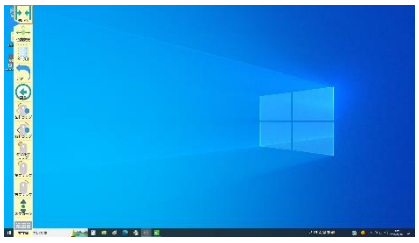
左側（縦型）

また、スキャン入力時は以下のようになり、Windows 操作選択時のメニューパネルの初期配置は、下側（横型）のパネルです。

下側（横型）

上側（横型）

右側（縦型）



左側（縦型）

以下、各種パネルと、画面について解説します。

1）表示パネル

操作メニュー画面で表示されるパネルは以下の表のとおりです。クリックなどの処理の詳細は「8.22.3 クリック処理解説 1 （各種クリック処理)」をご参照ください。

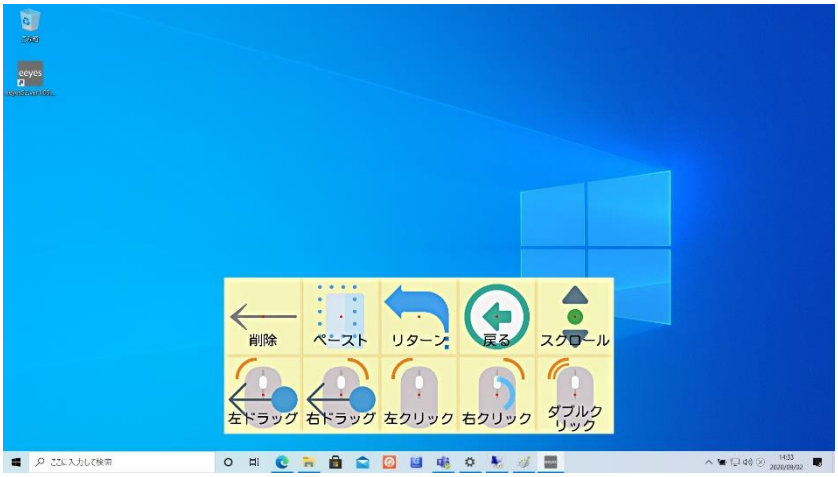
アイコン	パネル名称	説明
	ペースト	ペーストを実行します。
	最小化	パネルを最小化します。 （スキャン入力時のみ表示されます。）
	左ドラッグ	マウス左ボタンのドラッグアンドドロップを実行します。
	右ドラッグ	マウス右ボタンのドラッグアンドドロップを実行します。
	ダブルクリック	ダブルクリックを実行します。
	左クリック	左クリックを実行します。
	右クリック	右クリックを実行します。
	スクロール	スクロールを実行します。
	戻る	メイン画面に戻ります。
	位置変更	パネルの位置を変更します。 （スキャン入力時のみ表示されます。）
	削除	削除します。(「BackSpace」キー入力)
	リターン	改行処理を実行します。(「Enter」キー入力)
	文字盤	文字盤を表示します。

また、このほかに、パネル最小化を解除する以下のパネルがあります。

アイコン	パネル名称	説明
	最小化解除	パネル最小化を解除します。このパネルは背景を透過します。

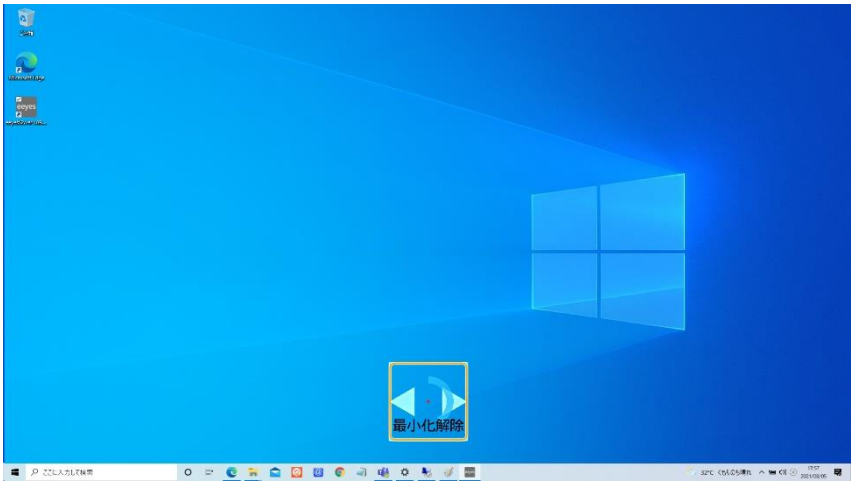
2）視線入力

視線入力では凝視することでパネルを選択します。以下に視線入力で右クリックを選択中の画面を図に示します。



このとき、画面外を見ることで、パネル最小化やパネル位置の移動を行うことができます。パネルのある側の画面外を見ることでパネルを最小化できます。また、ほかの側を見ることでパネルがその方向へ移動します。上の図の例では、画面外の下側を見たときはメニューパネルが最小化され、それ以外の画面外を見たときはその方向へメニューパネルが移動します。

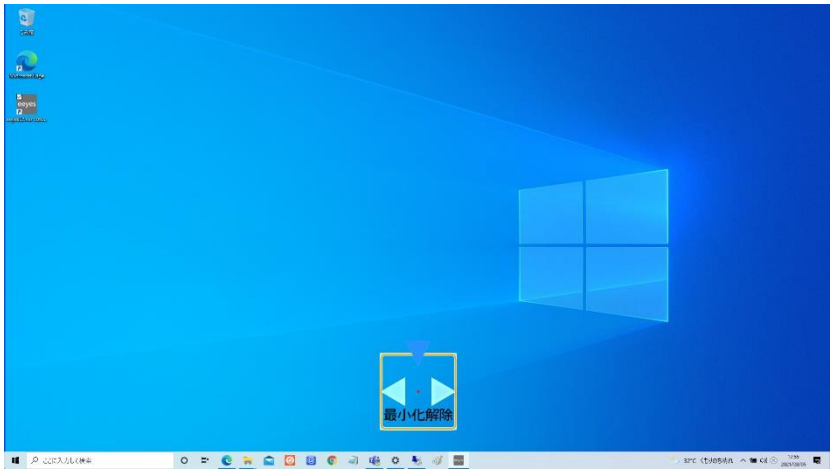
最小化されているときは、以下の図のようになり、「最小化解除」パネルを凝視することでメニューパネルが表示されます。また、画面外を見ることで、「最小化解除」パネルを移動することができます。



3）スキャン入力

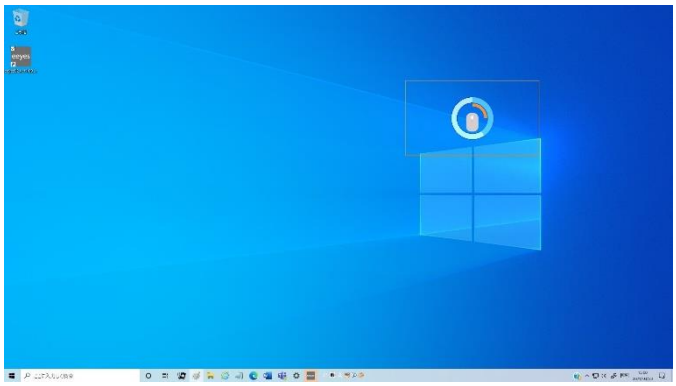
スキャン入力では、スイッチでの入力時に、マーカーが差し、オレンジ色の枠のあるパネルを選択します。走査方向は固定です。

パネルの位置変更は「位置変更」パネルを選択することで、反時計周りに移動します。また、「最小化」パネルを選択することでパネルを最小化します。最小化時は以下のようになり、最小化を解除するには、スイッチ入力を行ってください。

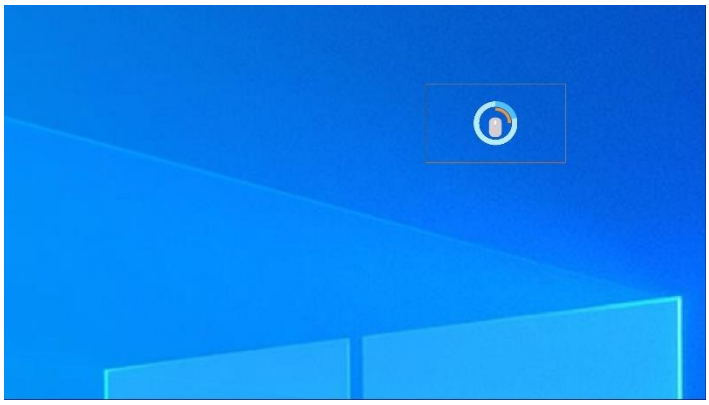


8.22.2 位置選択画面解説

クリックなど、実行する場所を設定する必要がある場合、位置選択画面が表示されます。この画面では以下のように画面内の拡大する領域が枠で囲まれて表示されています。



このとき、枠で囲まれた領域を選択すると、以下のように選択した領域を拡大表示します。



ここで枠内を選択するとさらに拡大されます。選択領域が十分小さくなった（拡大元の両辺２０ピクセル以下）になったとき、その選択領域の中心をクリックする位置として決定します。

また、位置選択を実行中は、以下のアイコンが表示されます。視線入力時はプログレスサークルの中に、スキャン入力時は画面右上に表示されます。

視線入力	スキャン入力	説明
		左クリック位置を選択中に表示されます。
		右クリック位置を選択中に表示されます。

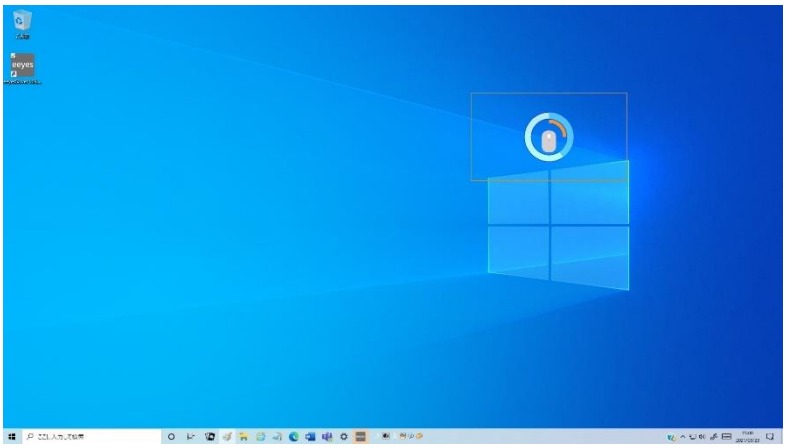
視線入力	スキャン入力	説明
		ダブルクリック位置を選択中に表示されます。
		左ボタンのドラッグ開始位置を選択時に表示されます。
		左ボタンのドロップ位置を選択時に表示されます。
		右ボタンのドラッグ開始位置を選択時に表示されます。
		右ボタンのドロップ位置を選択時に表示されます。
		スクロール開始位置を選択時に表示されます。

以降、各入力方法での位置決定方法について解説します。

1）視線入力

以下のように視線の位置で選択する領域が枠として表示されます。このとき、枠内を凝視することで、選択され、画面が拡大表示されます。

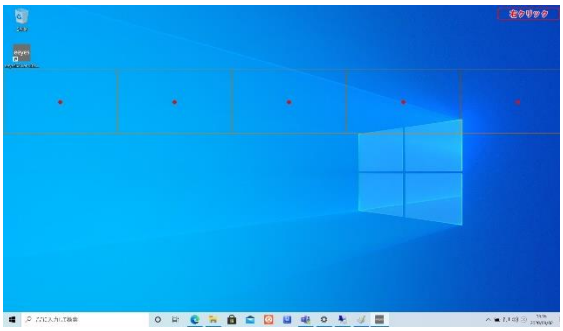
また、視線入力時は、画面外を見ることで位置選択を解除し、操作メニュー画面へ戻れます。



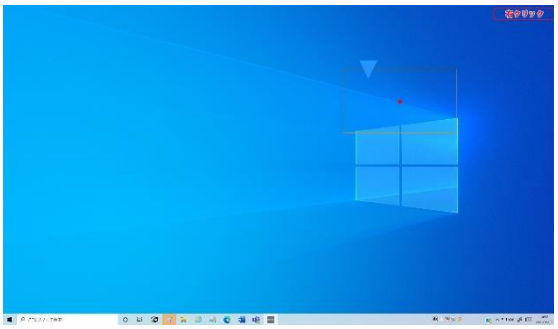
2）スキャン入力

スキャン入力では、選択している領域のみ枠が表示されます。スキャン入力のパネル決定は文字盤と同様に初めに列を選択し、次にその列内でパネルを選択します。このときの画面

は以下のようになります。



スキャン入力列選択

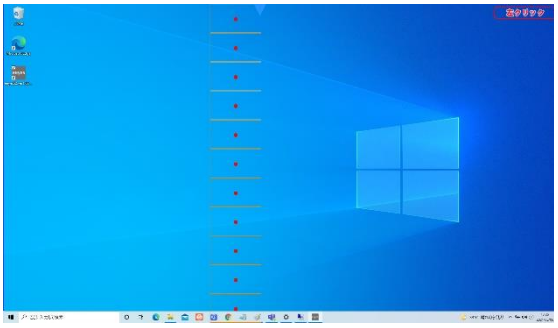


スキャン入力パネル選択

3）分割個数設定

位置選択での画面の分割数は、設定画面で設定できます。設定画面については「9 各種設定」をご参照ください。

設定画面（設定値：５）



クリック範囲決定画面（一辺を１１分割）

8.22.3 クリック処理解説１（各種クリック処理）

ここでは、各種パネルを選択してから、選択内容の処理が実行されるまでの流れを示します。この中で太字の部分は利用者が操作する手順です。

１）左クリック、右クリック、ダブルクリック

①操作メニューで処理を選択します。

②クリックの位置選択を行います。

③決定した場所へカーソルを移動し、クリックを行います。

④操作メニュー画面へ戻ります。

２）左ドラッグアンドドロップ、右ドラッグアンドドロップ

①操作メニューで「左ドラッグ」か「右ドラッグ」を選択します。

②位置選択画面で、ドラッグアンドドロップの開始地点を選択します。

③位置選択画面で、ドラッグアンドドロップの終了地点を選択します。

④開始地点から終了地点へ向け、①で選択したマウスボタンでドラッグアンドドロップを実行します。

⑤操作メニュー画面へ戻ります。

３）スクロール

スクロールは視線入力とスキャン入力では方法が異なり、それぞれ以下のようになります。

・視線入力時

①操作メニューで「スクロール」を選択します。

②クリックする位置を決定します。

③以下のようなスクロール画面になります。

④スクロールさせたい方向の矢印パネルを凝視します。凝視中のパネルにはオレンジの枠が表示されます。

⑤パネルを見ている間、選択したパネルの方向へスクロールします。

⑥「戻る」パネルを凝視します。

⑦スクロールを終了し、操作メニューへ戻ります。

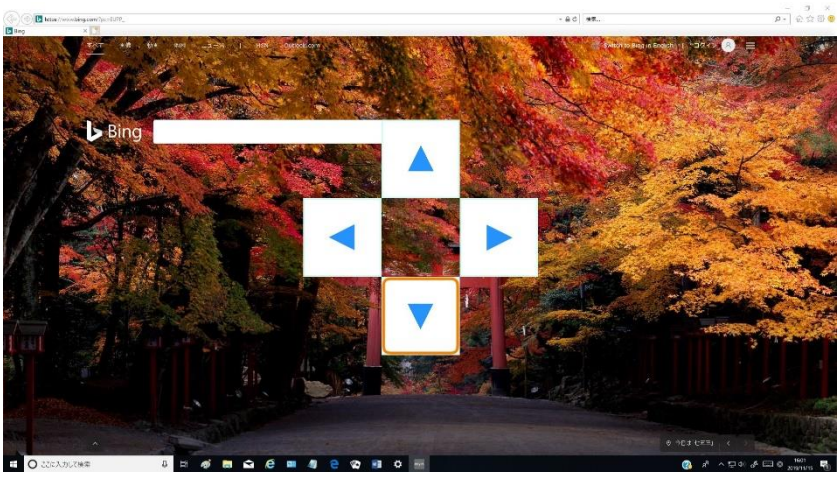
・スキャン入力時

①操作メニューで「スクロール」を選択します。

②クリックする位置を決定します。

③位置選択後、以下のような方向決定画面が表示されます。

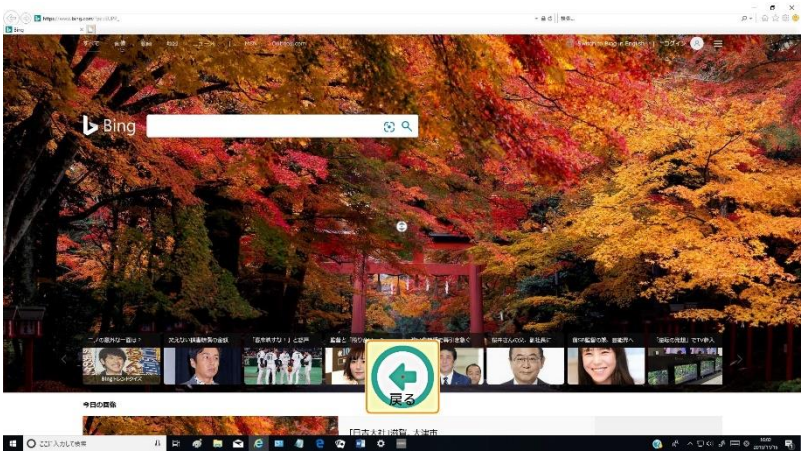
④オレンジの枠があるときにスイッチ入力で、スクロール方向を決定します。



⑤以下のようなスクロール画面になり、決定した方向へスクロールを行います。

⑥クリック入力でスクロールを終了します。

⑦操作メニュー画面へ戻ります。



※注意：eeyes によるスクロールはマウスのホイールを回転することで開始するので、スクロール対象のアプリや Web サイトによってはスクロールが行われないことがあります。

4）ペースト

①操作メニュー画面で「ペースト」を選択します。

②Windows 操作画面へ移動する直前のメイン画面の文章パネルの内容を、クリップボードへ格納します。このとき、絵文字は、「気持ちと体」の顔はそのまま表視され、それ以外の絵文字は対応する文字列へ変換されます。

③クリップボードに格納後、「Ctrl」+「V」のキー入力を行い、クリップボードをペーストします。

④ペースト実行後、操作メニューを表示します。

※狙った位置でペーストを行うためには、クリックやドラッグアンドドロップで事前にペーストする場所や領域を選択してください。

5）削除、リターン

①操作メニュー画面で「処理」を選択します。

②削除は「BackSpace」キー、リターンは「Enter」キーの入力を行います。

③処理実行後、操作メニューを表示します。

※狙った位置で削除やリターンを行うためには、クリックやドラッグアンドドロップで事前に位置を選択してください。

8.22.4 クリック処理解説２（スタートメニューなど表示時）

スタートメニューやアクションセンターが表示されているときは、通常時とは異なる動作をします。スタートメニューやアクションセンターが表示されてからの Windows 操作を記憶し、記憶した処理を繰り返し実行します。また、繰り返し処理の実行中は操作メニューが表示されず、一連の処理が完了するまで、新たな入力を行うことはできません。

この繰り返し処理は、表示したスタートメニューなどが消えるまで繰り返し行われます。

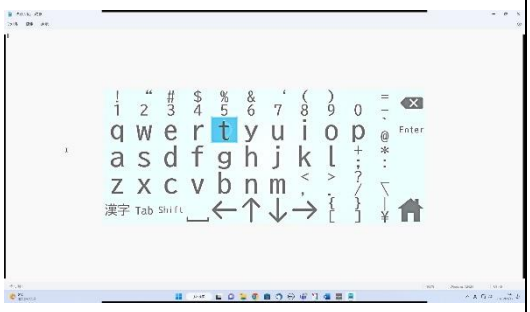
※注意：スタートメニューが表示されているときに、スクロールを選択した場合、スクロール処理はスキップされます。

8.22.5 文字入力

文字盤パネルを選択すると、画面伊半透明の文字盤が表示されます。利用者は視線やスイッチを用いて文字盤上のパネルを選択して、文字を入力することができます。

1）視線入力

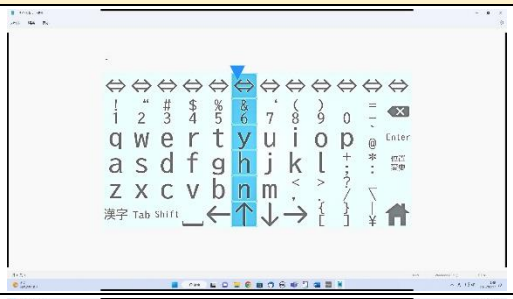
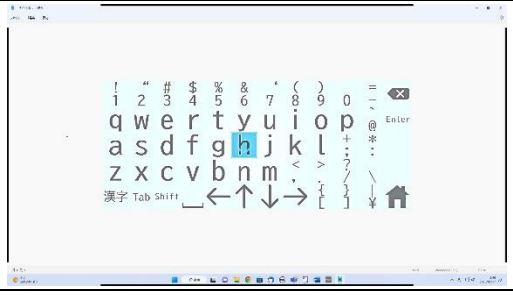
視線入力で操作をする場合、選択したいパネルを凝視することで文字を入力することができます。視線の位置は青い丸で表示されており、視線が乗っているパネルは青く変色します。

手順	画面	解説
1		位置選択（視線位置表示） 凝視しているパネルが青く光り、枠状のカーソルが表示されます。
2		位置選択（位置決定） 視線ポインタを凝視し、クリックなどを実行する位置を選択します。ここでは、“h”パネルを選択します。
3		処理選択 操作パネルのパネルを凝視するとプログレスサークルが表示され、円になると文字が入力されます。ここでは”h”が入力されました。

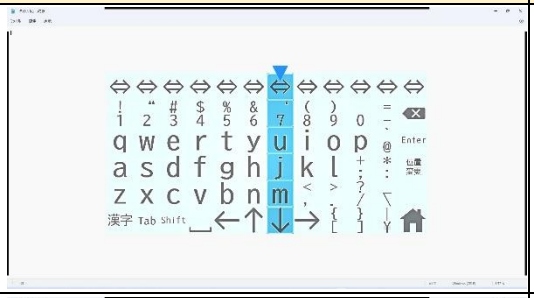
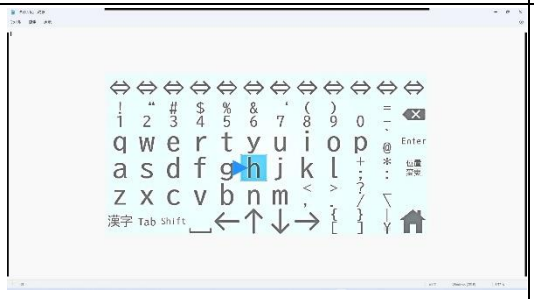
2）スイッチ入力

スイッチ入力での操作の場合、文字盤上に青い選択マーカーが表示されます。スイッチを用いて選択マーカーを操作し、パネルを選択します。

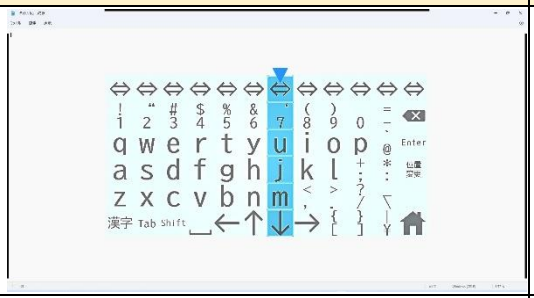
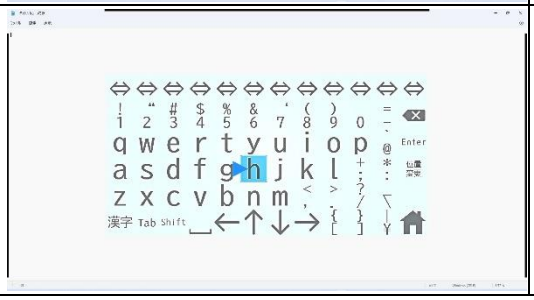
①　自動選択・手動決定

手順	画面	解説
1		位置選択（行の決定） 初めに行を選択します。走査位置が選びたいパネルのある位置に来たらスイッチを操作して決定します。
2		位置選択（パネル決定） 行内でパネルの位置を決定します。スイッチを押したときのパネルが、選択され、そのパネルの処理が実行されます。

②　手動選択・手動決定

手順	画面	解説
1		位置選択（行の決定） 選択スイッチを押して、選択した行にマーカーを移動させ、決定ボタンを押すことで行を選択します。
2		位置選択（パネル決定） 行選択時と同様に、選択スイッチを押して、選択したいパネルまでマーカーを移動させます。決定スイッチを押すことで、マーカーのあるパネルが選択され、処理が実行されます。

③　手動選択・自動決定

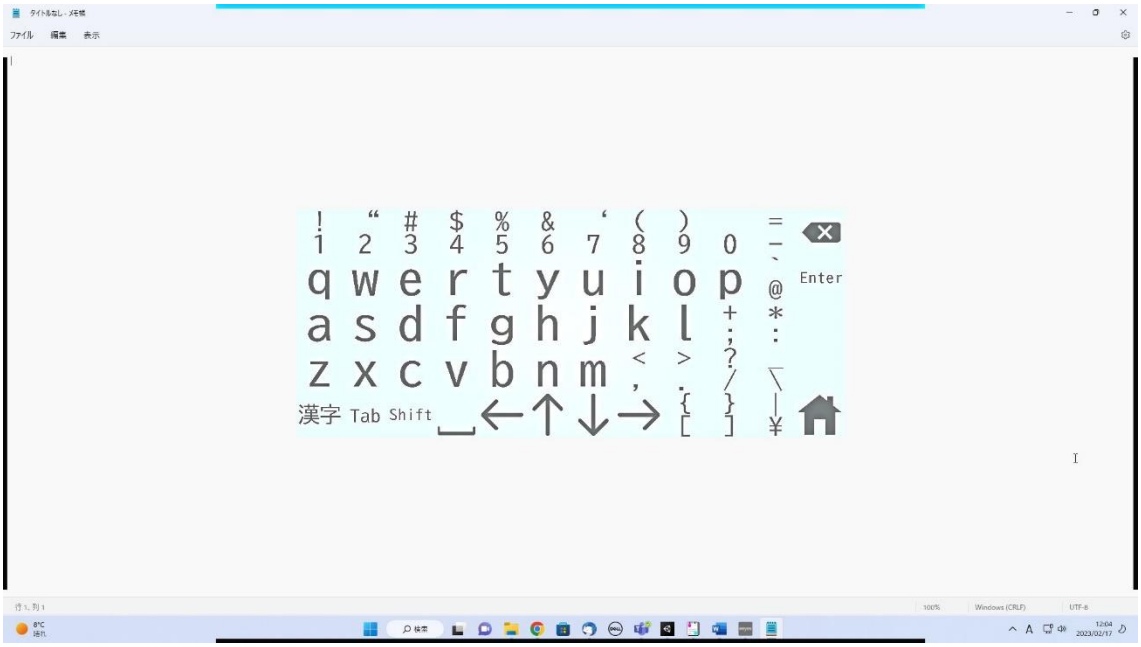
手順	画面	解説
1		位置選択（行の決定） 決定スイッチを置いて、選択したい行にマーカーを動かします。マーカーを移動させてから一定時間経過後に行が選択されます。
2		位置選択（パネル決定） 行選択時と同様に、決定ボタンを押して選択したいパネルまでマーカーを移動させます。一定時間経過後にパネルが選択され、処理が実行されます。

3）文字盤移動

画面の上下左右にあるバーを選択することで、文字盤の位置を移動することができます。

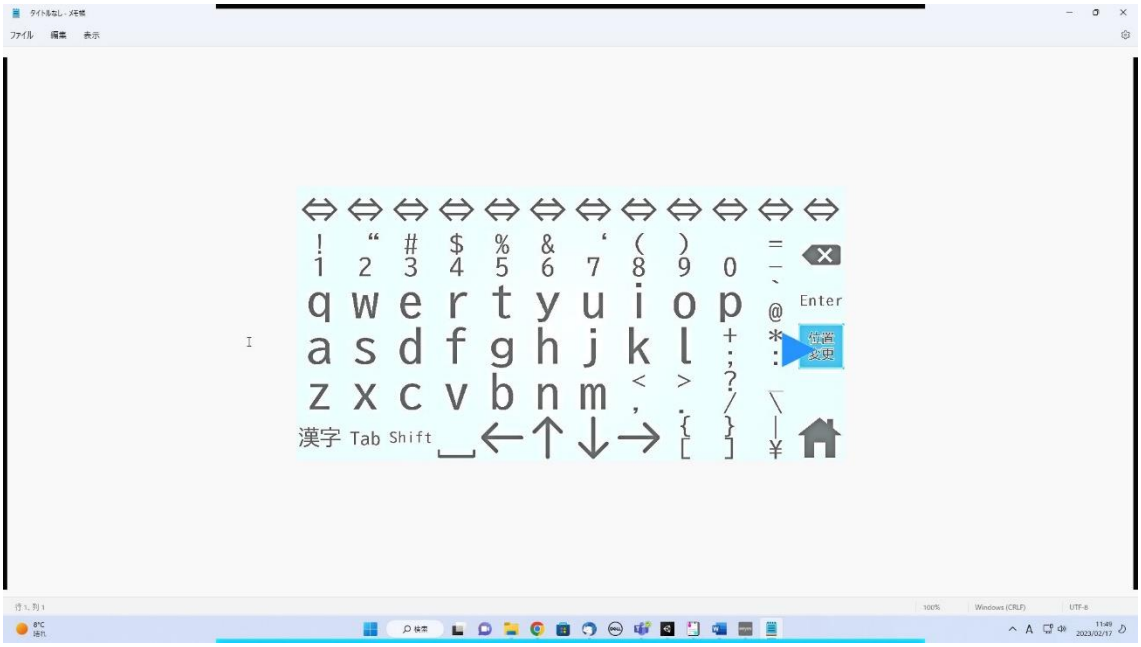
① 視線入力の場合

上下左右に表示されているバーを直接凝視することで文字盤を移動させることができます。



② スイッチ入力の場合

文字盤にある「位置変更」パネルを選択すると、上下左右にあるバーが時計回りに光りだします。移動させたい方向のバーを選択すると、その方向に文字盤が移動します。

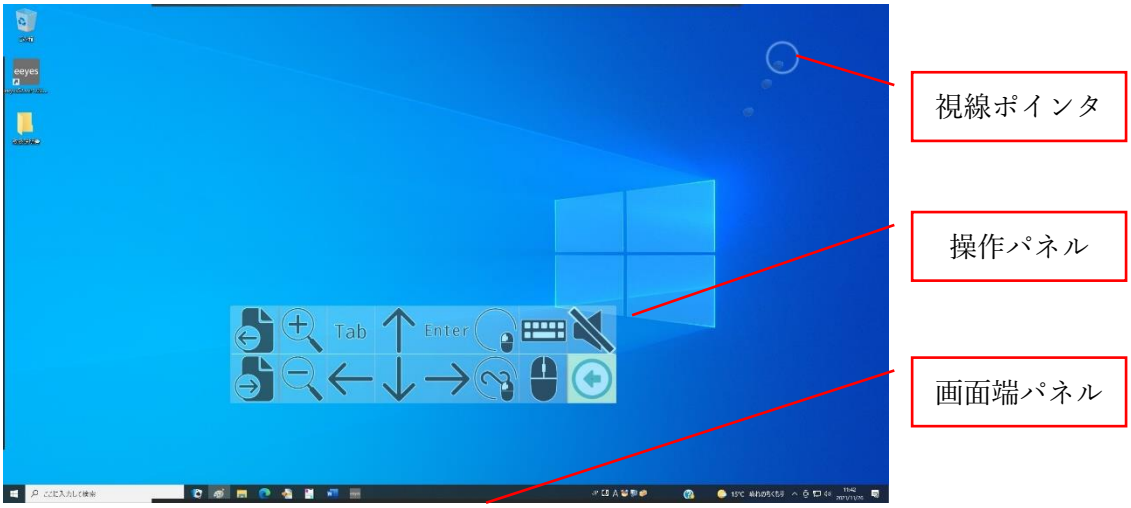


8.23　視線専用 Windows 操作機能

(1)画面構成

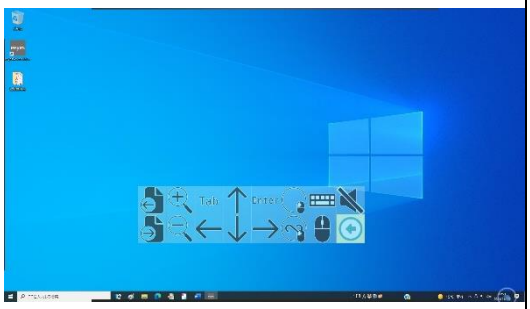
視線入力モードかつ、視線専用 Windows 操作機能をＯＮにしている場合、「8.18 Windows 操作機能」とは異なる以下の画面が表示されます。これ以外の時は「8.18 Windows 操作機能」が実行されます。

視線専用 Windows 操作機能の画面構成は以下のようになります。



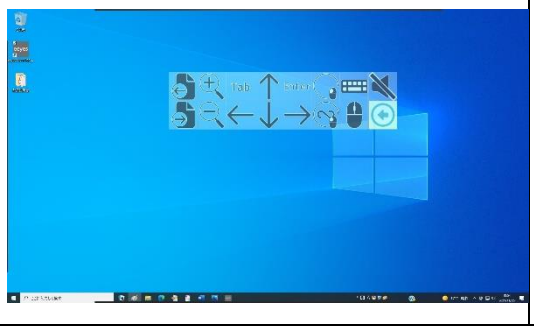
(2)Windows 操作方法 1 （操作パネル）

視線専用 Windows 操作画面では、マウスカーソルの位置を先に決定してから、Windows の操作を実行します。以下にカレンダーを表示させる手順で、視線による Windows の操作を解説します。

手順	画面	解説
1		位置選択（視線位置表示） 視線ポインタが視線の位置に表示されます。
2		位置選択（位置決定） 視線ポインタを凝視し、クリックなどを実行する位置を選択します。ここでは、画面右下のカレンダーを選択しています。
3		処理選択 操作パネルのパネルを凝視して選択します。この例では左クリックを選択します。
4		処理実行 選択した場所で、処理を実行します。この例では左クリックが実行され、カレンダーが表示されました。

(2)Windows 操作方法２（画面端）

画面の上下左端から画面外を見ると、画面端パネルを選択でき、そのパネルの処理を実行できます。

手順	画面	解説
1		画面上部に視線を移動すると、パネルの色が変わります。 （この図では上側パネルを選択しています。）
2		この状態で、一定時間このパネルを見続けると、パネルの機能を実行しますます。 （この図では操作パネルが画面上部に移動します。）

ここで、選択したパネルの動作は以下のようになります。

パネル名称	説明
上側	・操作パネルが画面上部に表示されているときは、パネルを非表示にします。 ・操作パネルが非表示か画面下部に表示され停るときは、操作パネルを画面上部に移動します。
下側	・操作パネルが画面下部に表示されているときは、パネルを非表示にします。 ・操作パネルが非表示か画面上部に表示され停るときは、操作パネルを画面下部に移動します。
左側	Esc キーの入力を行います。

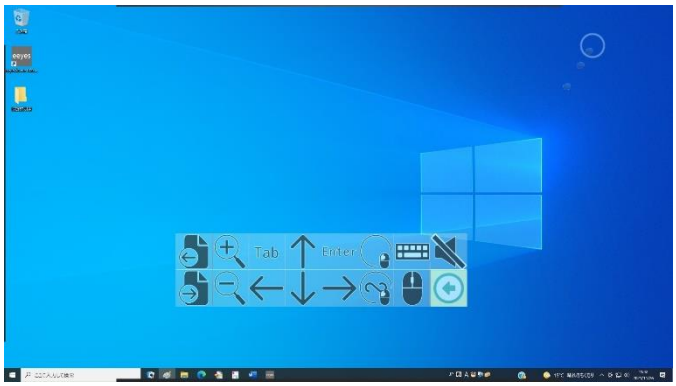
(3)操作パネルの左右移動

操作パネルの左右の外側を見ることで、操作パネルを視線位置の反対側に移動します。これにより、パネルの背後の位置を選択することができます。以下に操作パネルの右側を見たときの表示例を示します。

8.23.1 ホームパネル

(1)パネルの表示と機能

視線専用 Windows 操作画面を表示したときに、表示されている操作パネルがホームパネルです。以下のようなパネルが表示されます。各パネルの機能は以下の表のとおりです。



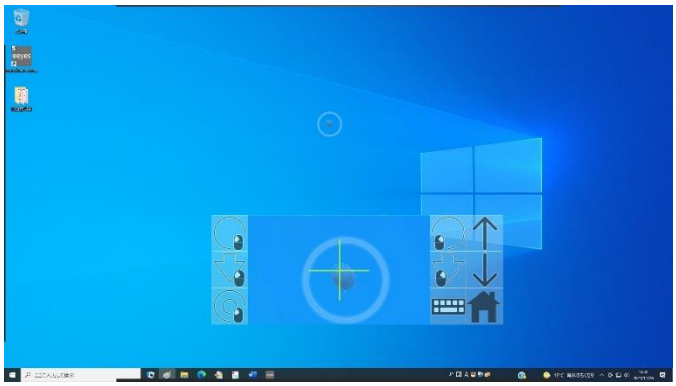
アイコン	パネル名称	説明
	↑	↑キーの入力を行います。
	→	→キーの入力を行います。
	↓	↓キーの入力を行います。
	←	←キーの入力を行います。
Tab	Tab	Tab キーの入力を行います。
Enter	Enter	Enter キーの入力を行います。
	左クリック	選択時のマウスカーソル位置で左クリックをします。
	左連続クリック	選択すると左クリックを連続で行います。クリックの間隔は 8. 設定画面で変更できます。
	拡大	Web ブラウザなどの拡大表示をします。
	縮小	Web ブラウザなどの縮小表示をします。

アイコン	パネル名称	説明
	戻る	Web ブラウザなどの前に戻る機能を実行します。
	進む	Web ブラウザなどの次に進む機能を実行します。
	ミュート	Windows をミュートします。ミュート時に選択すると、ミュートを解除します。
	パネル切替	操作パネルをマウス操作パネルに切り替えます。
	パネル切替	操作パネルをキーボードパネルに切り替えます。
	シーン切替	メイン画面に移ります。

8.23.2 マウス操作パネル

(1)パネルの表示と機能

マウス操作パネルは以下の図のようになります。ここで、各パネルの機能は以下の表のとおりです。



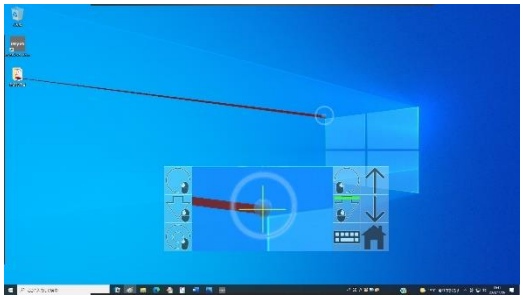
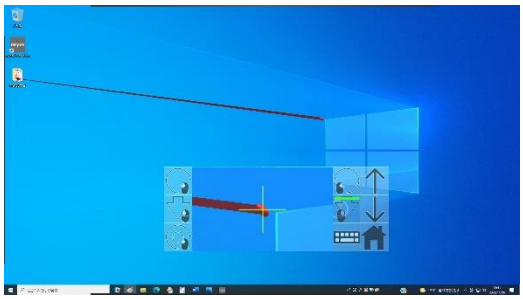
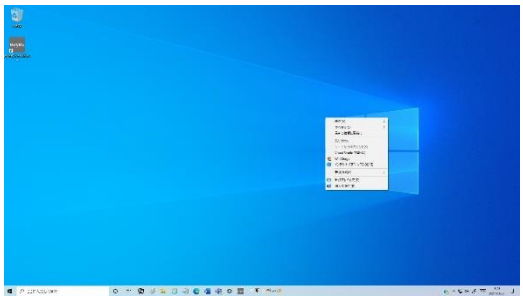
アイコン	パネル名称	説明
	↑キー	↑キー入力を行います。
	↓キー	↓キー入力を行います。
	左クリック	選択時のマウスカーソルの位置で左クリックを行います。
	右クリック	選択時のマウスカーソルの位置で右クリックを行います。
	ダブルクリック	選択時のマウスカーソルの位置で左ダブルクリックを行います。
	左ドラッグ	マウス左ボタンのドラッグアンドドロップを行います。詳しくは(2) ドラッグアンドドロップを参照してください。
	右ドラッグ	マウス右ボタンのドラッグアンドドロップを行います。詳しくは(2) ドラッグアンドドロップを参照してください。
	パネル切替	操作パネルをキーボードパネルに切り替えます。
	パネル切替	操作パネルをホームパネルに切り替えます。

アイコン	パネル名称	説明
—	拡大表示	マウスカーソル付近を拡大表示します。また、このパネルを見ることで、マウスカーソル位置を微調整できます。詳しくは(3)拡大表示パネルの機能を参照してください。

(2) ドラッグアンドドロップ

以下の手順で、左右のドラッグアンドドロップを行うことができます。

手順	画面	解説
1		初めに凝視して、ドラッグアンドドロップの開始位置を決めます。
2		ドラッグアンドドロップのパネルを選択します。ここでは右ドラッグアンドドロップを選択します。
3		パネルに緑のマークがつき、ドラッグ開始位置が回転する赤い点で表示されます。

手順	画面	解説
4		ドロップする位置を凝視して決定します。決定すると、ドラッグ開始位置とドロップ位置に回転する点と、それらを結ぶ赤線が表示されます。
5		ドラッグアンドドロップのパネルを再度選択します。
6		選択すると、ドラッグアンドドロップが行われます。

(3)拡大表示パネルの機能

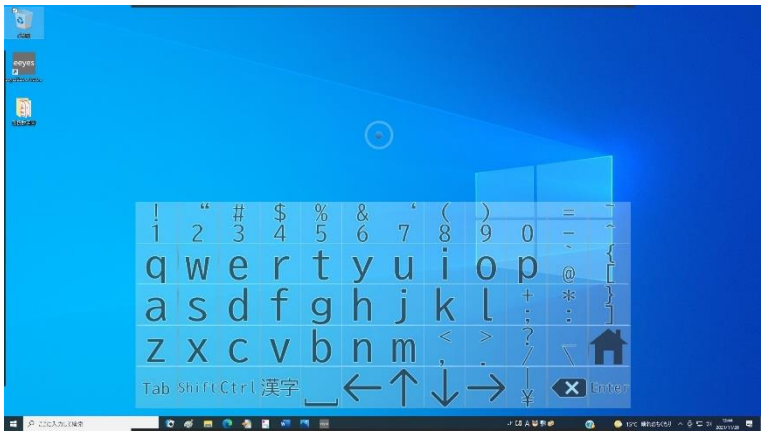
マウスパネルの中央にあるパネルは拡大表示パネルです。ここには、マウスカーソルの周辺が拡大して表示されます。拡大表示パネルの中央の＋字の交点にマウスカーソルがあります。拡大表示パネル上の一点を見ることで、その方向へマウスカーソルが移動し、マウスカーソルの位置を微調整できます。

この時のマウスの移動間隔や、移動量、画面の拡大率は「9 設定画面」で変更できます。

8.23.3 キーボードパネル

(1)パネルの表示と機能

キーボードパネルは以下の図のようになり、その各パネルの機能は以下の表のとおりです。

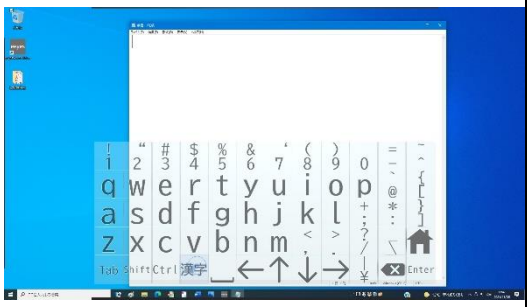
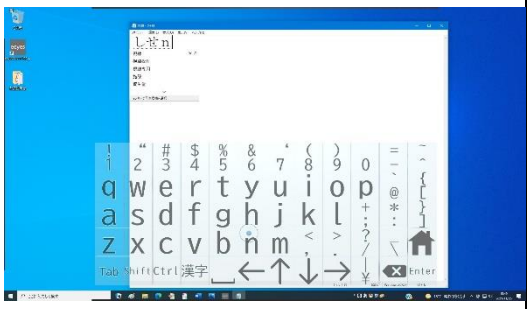
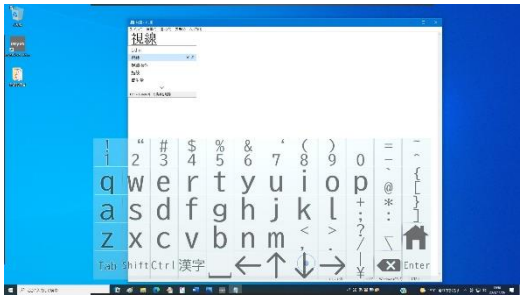


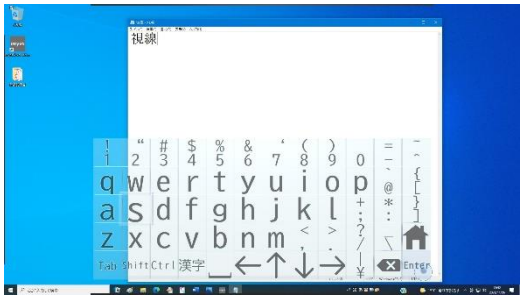
アイコン	パネル名称	説明
Tab	Tab	Tab キーの入力を行います。
Shift	Shift	Shift キーの組み合わせ入力を行います。詳しくは(3)Shift パネルの入力を参照してください。
Ctrl	Ctrl	Ctrl キーの組み合わせ入力を行います。詳しくは(4) Ctrl パネルの入力を参照してください。
漢字	漢字	日本語入力とアルファベットの直接入力の切り替えを行います。
⎵	Space	Sapce キーの入力を行います。
←	←	←キーの入力を行います。
↑	↑	↑キーの入力を行います。
↓	↓	↓キーの入力を行います。
→	→	→キーの入力を行います。
⌫	BackSpace	BackSpace キーの入力を行います。

アイコン	パネル名称	説明
Enter	Enter	Enter キーの入力を行います。
	パネル切替	操作パネルをホームパネルに切り替えます。
上記以外	(表示された文字)	表示された文字に対応するキーを入力します。

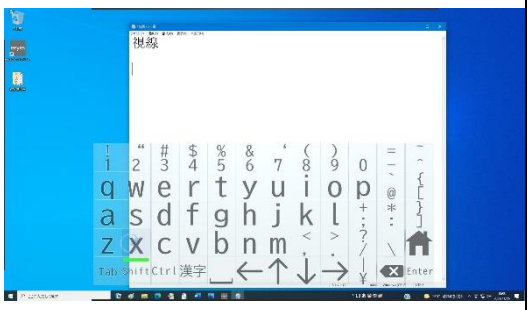
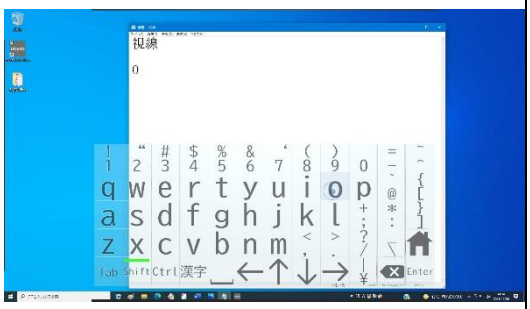
(2)日本語入力での変換機能

日本語入力と変換は以下の手順で行います。以下、「視線」を入力する例として解説します。

手順	画面	解説
1		漢字パネルを選択し、日本語で入力できるようにします。
2		この画面の日本語入力はローマ字で行います。ここでは shisen と入力します。
3		変換候補は入力した文字の下に表示されます。↑↓パネルを選択することで変換候補を選択できます。

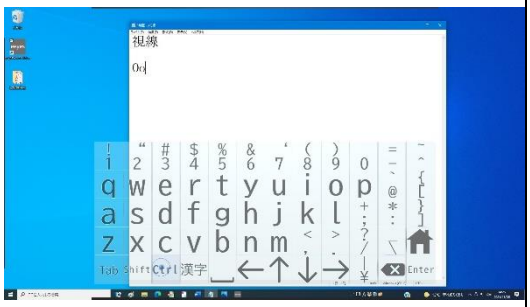
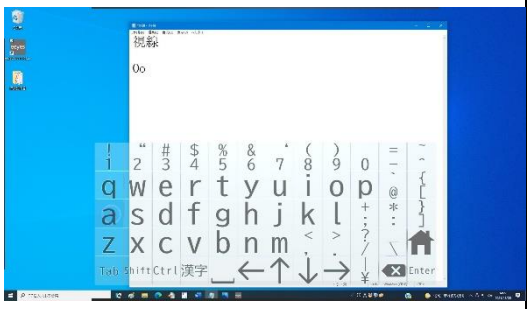
手順	画面	解説
4		Enter パネルを選択し、変換候補を確定します。

(2)Shift パネルの入力

手順	画面	解説
1		Shift パネルを選択すると、パネル上部に緑色のマーカーが表示されます。
2		この状態でパネルを選択すると Shift キーとともに入力されます。この例では Shift+O が押されています。
3		マーカーがある状態の Shift パネルを選択することで、マーカーを消すことができます。この状態では、パネル選択時に Shift キーが同時に押されることはありません。

(4)Ctrl パネルの入力

以下の手順で Ctrl キーと他のキーを同時に入力することができます。ここでは Ctrl+A の入力を行います。

手順	画面	解説
1		Ctrl パネルを選択します。
2		同時に入力するパネルを選択します。ここでは A のパネルを選択します。
3		Ctrl と選択したキーが同時に入力されます。この例では Ctrl+A が入力されます

※Ctrl, Shift は文字以外のキー入力も対応しています。文字入力と同様の方法で実行できます。

8.23.4 視線専用 Windows 操作でのスイッチ入力

スイッチ入力が ON になっているときは、視線で見続ける代わりに、スイッチの入力時に視線位置の処理を実行します。これにより、スイッチによって決定することができます。

8.23.5 視線専用 Windows 操作機能の設定

視線専用 Windows 操作機能の設定値は「9 各種設定」で変更することができます。

8.23.6 マウスでの操作

視線専用 Windows 操作画面のパネル切替パネル、シーン切替パネルはマウスのクリックによって作動できます。タッチパネルが有効の時は、パネルをタッチしても可能です。

8.23.7 マウス操作モード

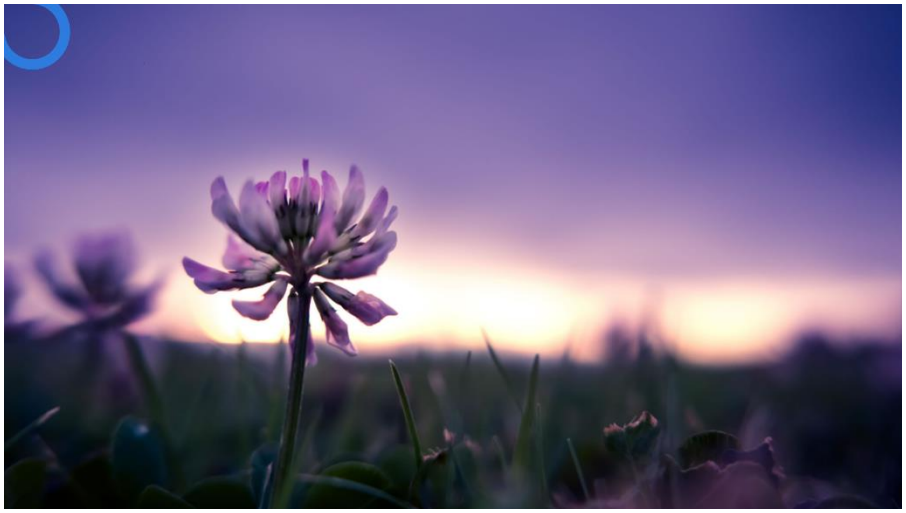
視線専用 Windows 操作時に「M」キーを押すことでマウス操作モードに移行することができます。マウス操作モードでは、カーソルを選択したいパネルまでマウスを使って移動させ、決定スイッチを押すことでパネルを決定します。パネル以外の場所にカーソルを移動させ、スイッチを押すと左クリックと同じ動作を行うことができ、ダブルクリックやドラッグアンドドロップの動作もスイッチを用いて行うことができます。

8.24　休憩画面

「休憩画面」のパネルを選択すると、休憩画面が表示されます。休憩画面は、視線での入力、操作を一時停止する場合に利用します。

操作を再開する場合は、画面の四隅を凝視するとプログレスサークルが表示されるので、プログレスサークルを見続けることで文字盤の画面に復帰します。また、設定画面で休憩画面からの復帰を ON に設定したときは、画面を向いたまま視線を画面外へ移動させることで字盤の画面に復帰することもできます。

スイッチ操作が有効な時は、スイッチを押すことで文字盤の画面に復帰します。



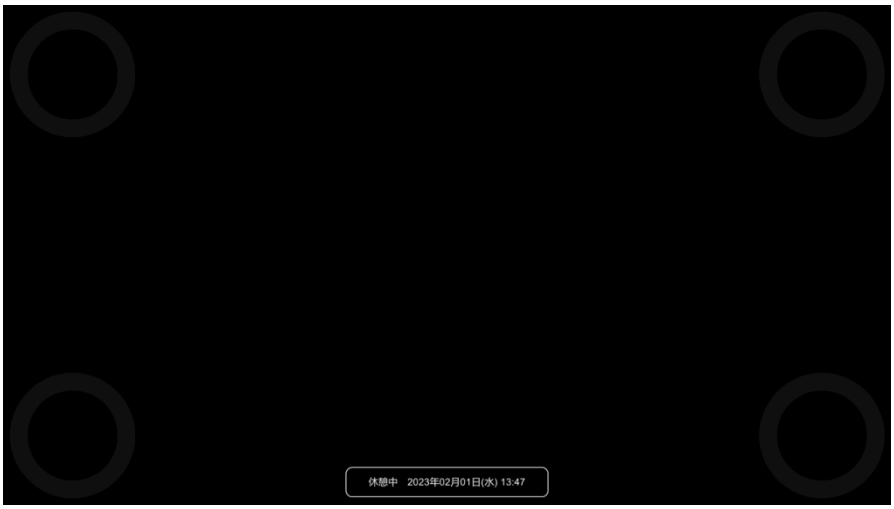
また、画像については、以下のフォルダ内にある画像ファイル（.jpg, .png）を表示します。画像ファイルの解像度は 2560×1440 が推奨です。

画像ファイルがないときは、真っ黒な画面を表示します。

eeyes の配置されたフォルダ（module）　＞　RestMode

8.24.1 視線専用休憩画面

視線入力時に 5 秒間目を瞑ると、視線専用休憩画面が表示されます。メイン画面に戻るには、画面外を見るか画面四隅にあるグレーの円を凝視することで復帰することができます。【Ver1.1 1 A で追加】



8.25　呼び鈴機能（緊急ブザー）

メイン画面にある「緊急」パネルを選択すると、ブザーが鳴り続けます。一定時間経過するか、このパネルをもう一度選択するか、画面を変更すると鳴りやみます。このとき、ブザーの鳴動する時間は「9 各種設定」で変更することができます。

ブザーが鳴りだしたときに、eeyes 専用呼鈴分岐装置が eeyes 本体と接続されている場合、装置が同時に作動します。

8.26　終了画面

「終了」のパネルを選択すると、以下のような終了画面が表示されます。ここでは下記のパネルを選択し、eeyes を終了するかどうかを決定します。終了を選択した場合、eeyes の電源が OFF になります。

アイコン	説明
	eeyes のみ終了し、再起動します。
	eeyes を終了し、PC を再起動します。
	eeyes を終了し、PC の電源を切ります。
	PC をスリープ状態にします。
	メイン文字盤に戻ります。

8.27　自動リフレッシュ機能

リフレッシュの実施時刻が０～２３に設定されている場合、メイン文字盤画面で設定時刻を過ぎたとき、eeyes のリフレッシュを自動で行います。例えば、設定値が２３のときは、２３時００分を基準の時刻とし、２３時１０分までの間にリフレッシュを実行します。また、９９に設定されている場合は、自動リフレッシュは行いません。

リフレッシュの実施時刻は「9 各種設定」で変更することができます。

9　各種設定

「設定」のパネルを選択すると、設定画面が表示されます。設定画面から文字の大きさや動く速さなどを設定することができます。設定の詳細については、以下をご確認ください。

・動作全般に関する設定

設定	概要	設定値	初期値
文字の大きさ	文やメールを表示する際の文字の大きさ。数字が大きい程大きくなる。	0~10	0
濁音・半濁音・小書きの選択	濁音・半濁音・小書きの選択メニューを表示する場合はON。	ON/OFF	OFF
取り消しパネルの表示	入力した文字を取り消す選択肢を表示する場合はON。	ON/OFF	ON
パネルのテキスト表示	文字パネル上にテキストを表示する場合はON。	ON/OFF	ON
現在時刻の表示	メイン画面の右下または左下に今日の日付を表示する。 0 は非表示。	0~2	0
印刷時の文字の大きさ	印刷時の文字の大きさ。数字が大きいほど大きくなる。初期値は１３で４０文字【Ver1.11Aで追加】	5~25	13
印刷時の1行の文字列	印刷時の1行の文字数の設定。設定が大きくなるほど1行の文字が長くなる。【Ver1.11Aで追加】	5~80	40
文字盤の明るさ	文字盤の明るさに関する設定。数字が大きいほど明るくなる。	0~5	5
未確定の文字色	未確定の文字色の設定。0 は水色、 1 は黄色、 2 は薄緑色、 3 は赤色、 4 は緑色。未確定の文字が見にくい場合に用いる【Ver1.11A で追加】	0~4	0
カーソルの着色	パネルが選択された際に表示されるカーソルを着色するか否かの設定。ON は着色、OFF は無着色。【Ver1.11A で追加】	ON/OFF	OFF
ウィンドウズ画面の分割数	クリック位置を指定する際の拡大指定、初期値は５。	0~9	5

設定	概要	設定値	初期値
ウィンドウズ画面でのパネルの透明度	ウィンドウズ操作画面で表示されるパネルの透明度の設定。設定が大きくなるほど透明度が上がる。【Ver1.11A で追加】	1~15	10
ウィンドウズ画面でのパネルの大きさ	設定値に合わせてパネルの表示の大きさを変更する。	1~15	10
休憩マーク表示までの時間	利用者に休憩を促す休憩マークを表示するまでの時間の設定(10 分刻み)。設定が大きくなるほど表示されるまでの時間が長くなる。【Ver1.11A で追加】	0~99	3
リフレッシュの実施時刻	eeyes のリフレッシュを行う時刻の設定。実施しない場合は 99 を設定。	99,0~23	99
発声する際の音量	メッセージパネルの内容を読み上げる際の音量。(注 1 C)	0~9	5
発声する際の速度	メッセージパネルの内容を読み上げる際の速度。(注 1 C)	0~9	5
発声する際の音色	作成した文を読み上げる際の声色の設定。(注 1 A)	(注 1 B)	(注 1 B)
環境制御パネルの声色	環境制御パネルからの発声を標準の声色で行うか否かの設定。ON は標準の声色で発声。OFF は設定通りの声色で発声。【Ver1.11A で追加】	ON/OFF	ON
コエステーション連携	発声に「コエステーション」を利用するか否かの設定。	接続する／切断する	接続する
マイボイス連携	発声に「マイボイス」を利用するか否かの設定。	接続する／切断する	接続する
決定時の発声	パネルの決定時に内容を発声するかの設定。ON は発声、OFF は非発声。	ON/OFF	OFF
ショートカットキーの発声	ショートカットキーを利用した際に流れるアナウンスを発声するかの設定。ON は発声、OFF は非発声。【Ver1.11A で追加】	ON/OFF	OFF
緊急音の鳴動時間	緊急パネルを選択したときに鳴る緊急音の鳴動時間(１０秒刻み)	1~9	5
スイッチの決定時間	スイッチが押されてから決定されるまでの時間（秒）の設定。【Ver1.11A で追加】	0.00~1.00	0.00

設定	概要	設定値	初期値
スイッチの 抑止時間	スイッチが再び押されるのを無視する時間（秒）の設定。【Ver1.1 1 A で追加】	0.00~1.00	0.00
スイッチの 遅延補正	スイッチが押されたタイミングを補正する時間（秒）。【Ver1.1 1 A で追加】	0.00~1.00	0.00
スイッチ リピート	スイッチを押し続ける事で入力をリピートするか否かの設定。【Ver1.1 1 A で追加】	ON／OFF	OFF
入力方式切替	視線で入力する場合は ON。スキャンで入力する場合は OFF。（注２）	ON/OFF	OFF

（注１A）現在使用している音声合成の声色を設定する。コエステ―ション接続中はコエステ―ション、未接続時は Windows 内蔵音声を用いる。初期設定は　Windows の音声。
・Windows 音声合成：英語音声が設定されている場合、日本語の後ろに設定される。
・コエステ―ション：ユーザーがコエステ―ションで使用できる音声から選択する。

（注１B）それぞれの音声合成における設定値の範囲と、初期値は以下の表のようになる。Windows 音声合成において、日本語音声が１種類のみか存在しない場合は、初期値は１となる。

音声合成	設定値			初期値
Windows	1	～	Windows に設定された数	2
コエステ―ション	0	～	アカウントのコエの数―１	0

（注１C）Windows 音声合成のみ設定可能

（注２）介護者用メニューで入力方式切替表示を ON に設定しているときのみ表示される（初期値は OFF)。選択すると、入力方式の視線入力とスキャン入力を切り替える。このときの入力方式の変更は他の設定項目と同様に、設定画面から戻る際に変更の保存を行うことで設定に反映させることができる。

・スキャン入力に関する設定

設定	概要	設定値	初期値
スキャンの動作	自動選択、手動決定は 0 手動選択、手動決定は 1（要別売りスイッチケーブル） 手動選択、自動決定は 2	0~2	0
スキャンの方向	列から選ぶか、行から選ぶかの設定。列の選択は移動方向も変更可。	1～4	1
スキャンの速度	スキャンの速度の設定。設定が大きくなるほどカーソルの移動が速くなる。	0~9	5
スキャンの音	スキャン入力時の走査音に関する設定。0 は無音。1～9 はプリセット音。	0~9	0
自動決定時の選択開始時間	自動決定モードにおいて文字パネルの選択を開始するまでの時間。設((0.05 秒刻み)	0~15	5
自動決定時の決定時間	自動決定モードにおいて文字パネル選択に要する時間(0.15 秒刻み)	0~9	5
スキャンの停止時間	パネルの決定後に走査を停止する時間（秒）の設定。設定が大きくなるほど停止する時間が長くなる。【Ver1.1 1 A で追加】	0.00~1.00	0.00

・視線入力に関する設定

設定	概要	設定値	初期値
文字盤の動作	設定 1 は固定、2 は移動、3 から 6 は分割した文字盤を拡大。	1~6	2
スイッチによる決定	文字パネルの選択にスイッチを用いる場合は ON。中止で決定する場合は OFF。	ON/OFF	OFF
パネルの選択開始時間	文字パネルに視線が乗ってから選択を開始するまでの時間(0.05 秒刻み)	0~15	5
パネルの決定時間	文字パネルの選択に要する注視時間(0.15 秒刻み)	0~20	5
視線ポインタの表示	画面上での視線の位置を示すポインタを表示する場合は ON。	ON/OFF	OFF
視線ポインタの移動速度	視線ポインタの移動速度の設定。設定が大きくなるほど移動速度があがる。【Ver1.11 A で追加】	1~9	5
視線ポインタの補正強度	視線ポインタの補正強度の設定。設定が大きくなるほど補正強度があがる。【Ver1.11 A で追加】	0~9	5
ウィンドウズ画面での連続入力間隔	上下キーなど連続入力ができる文字パネルの入力間隔(0.1 秒刻み)	1~15	3
ウィンドウズ画面でのクリック連動	ウィンドウズ操作でスイッチと左マウスボタンを連動させる。初期値は ON	ON/OFF	ON
ウィンドウズ画面でのマウス追従	ウィンドウズ操作画面で、視線にマウスポインタが追従する際の閾値の設定。設定が大きくなるほど追従しやすくなる。	1~15	10
文字盤の移動初速	文字盤が動き出す際の初速の設定。	0~9	5
文字盤の移動速度	文字盤をスクロールで移動させる速さの設定。文字盤の移動時に用いられる。	0~9	5
文字パネルの大きさ	文字パネルの大きさの設定。文字盤の移動時に用いられる。	0~9	5
文字パネルの吸着力	文字パネルが画面中央に吸着する強さ。文字盤の移動時に用いられる。	0~9	5
拡大パネルの大きさ	拡大パネルの大きさの設定。文字盤の拡大時に用いられる。	0~5	0

設定	概要	設定値	初期値
拡大パネルの選択開始時間	「文字盤の動作」が 3 以上の設定の際に用いられる。拡大されたパネルの選択を開始するまでの時間の設定(0.05 秒刻み)。	0~9	5
拡大パネルの決定時間	「文字盤の動作」が 3 以上の設定の際に用いられる。拡大されたパネルの決定に要する時間の設定（0.15 秒刻み)。	0~9	5
キャリブレーションのモード	キャリブレーション（視線位置の較正）を行う際のモード設定。ON は 7 点、OFF は 4 点を使って較正する。	ON/OFF	ON
休憩画面からの復帰	画面外を見て復帰するときは ON。復帰しない場合は OFF。初期値は ON。	ON/OFF	ON
センターマーカーの表示	0 :常時非表示、1 :常時表示、2 :選択時のみ強調、3:選択時のみ表示、4 :選択時に協調	0~4	1
視線専用ウィンドウズ操作	視線操作専用の画面を利用する場合は ON。利用しない場合は OFF。	ON/OFF	OFF
拡大図に表示する拡大率	マウスポインタ周辺の拡大図に関する設定。設定が大きくなるほど拡大して表示される。	1~5	3
ウィンドウズ画面でのポインタ連動	視線専用ウィンドウズ走査画面で、スイッチ操作を行った場合にマウスポインタを連動して移動させるか否かの設定。ON は連動、OFF は非連動	ON/OFF	OFF
拡大図上でのマウス移動間隔	視線が乗ってから移動するまでの時間(0.1 秒刻み)	1~15	4
拡大図上でのマウス移動量	設定値が大きいほどマウスカーソルが移動しやすくなる。	1~10	2

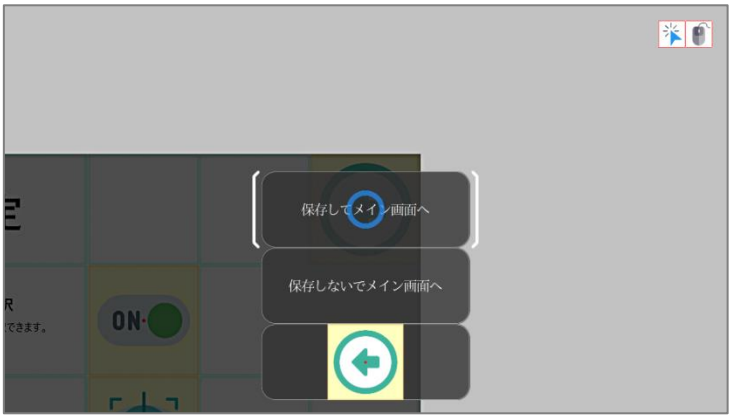
・設定値初期化

設定	概要	設定値	初期値
設定のリセット	設定をリセットし初期状態に戻します。 （視線入力/スキャン入力の設定は戻しません）	—	—

設定値は以下の操作系パネルを選択することで変更できます。

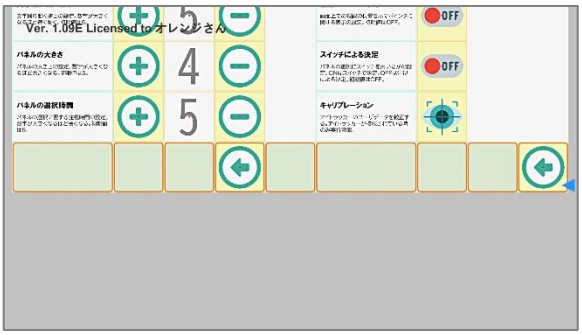
アイコン	説明
	設定画面から元の文字盤に戻ります。
	設定値を大きくします。
	設定値を小さくします。
	設定が ON のとき、表示されます。 選択することで、OFF にします。
	設定が OFF のとき、表示されます。 選択することで、ON にします。
	キャリブレーションを実行します。
	設定をリセットします。

文字盤に戻るとき、設定内容を保存するか選択できます。保存すると、設定した内容で文字盤が表示されます。保存しない場合は、変更前の設定で文字盤に戻ります。また、「←」を選択することで、設定の変更を続けます。



設定画面のスキャン入力は、初めに上から下へ縦方向の選択を行い、その後横方向の選択でパネルを決定する方法で行います。

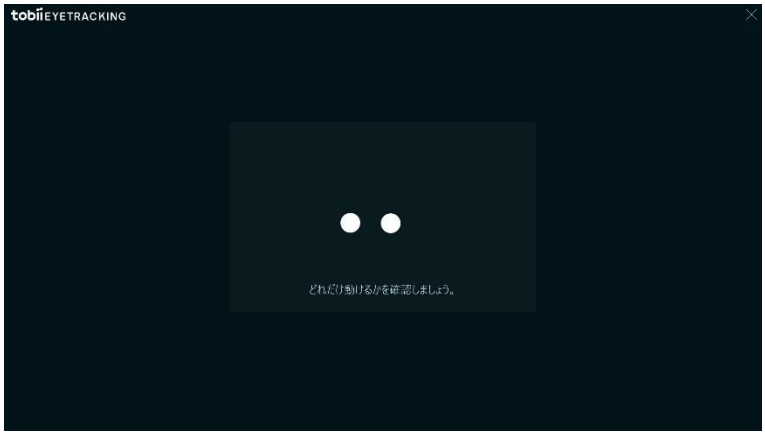
また、スキャン入力時に縦方向のパネルのすべてが表示されず、画面内に表示されるパネルのスキャンが完全に終わると、画面を切り替え、下にあるパネルをスキャンします。すべてのパネルのスキャンが完了すると最初のパネルに戻ります。

手順	画面	解説
1		パネルの一番上からスキャンを行います。
2		画面内にあるパネルをスキャンすると、画面を切り替えます。
3		切り替えた画面は、上側からスキャンを再開します。
4		パネルの最下部に到達したら初期状態に戻り、最初からスキャンを行います。 （手順１に戻る）

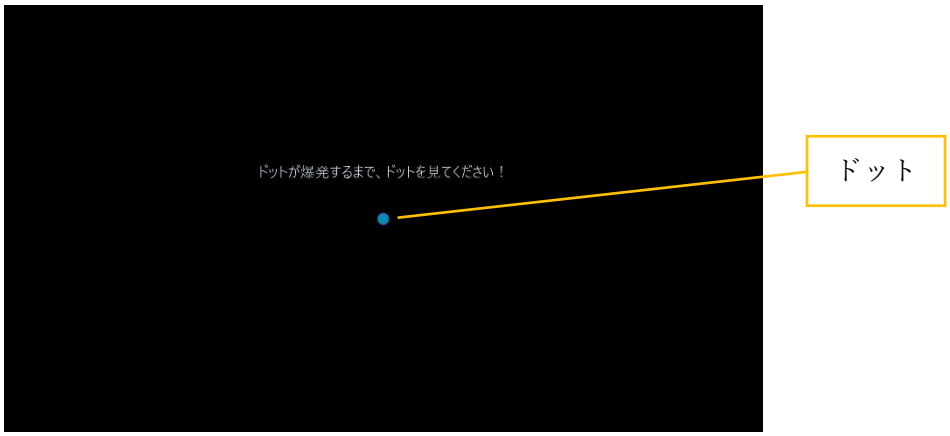
9.1 キャリブレーション

キャリブレーションを実行するとキャリブレーション画面が表示され、利用者の視線に合わせた設定が行われます。

初めに、以下の視線位置確認画面が表示されます。視線を認識していると目の位置が白丸で表示されます。

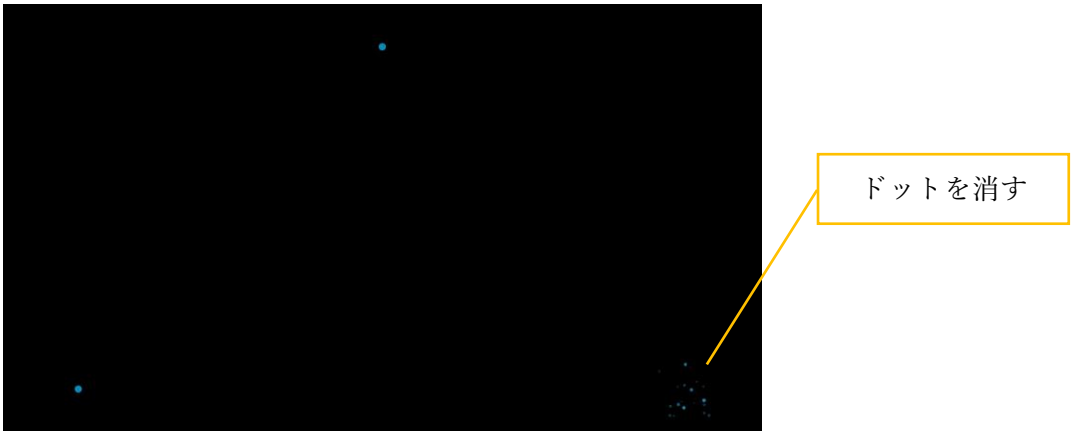


視線を認識した状態を維持すると、以下のような画面になり、キャリブレーションを開始します。利用者は頭を動かさずに目だけを動かすよう注意しつつ、画面の説明に従って中央のドット（青い丸）を注視してください。利用者の視線の動きの測定が終わると、ドットが消えます。



続いて画面上にドットが３つ表示されますので、同様に頭を動かさずに目だけを動かすよう注意しつつ、ドットを注視して消してください。消す順番は自由です。すべてのドットを消すとさらに３つのドットが表示されるので、同じようにドットを注視して消してください。全てのドットが消えると調整が完了し、画面を移動します。

キャリブレーションが終了した後、実行前の画面に戻ります。また、キャリブレーションは、画面が表示されてから 5 分経過した場合、自動的に終了し、実行前の画面に戻ります。



9.2 4 点キャリブレーション

キャリブレーションには、上記の 7 点を見る方法のほかに、中央の 1 点と 3 点を見ることで行う 4 点キャリブレーションがあります。この 4 点キャリブレーションも、7 点見るときと同様に行います。

9.3 センターマーカーの表示

視線入力の補助として、視線入力時はセンターマーカー（パネル中央の赤丸）を表示しています。この表示方法は設定値によって、以下のようになります。また、センターマーカーは、空白パネルなど入力が有効でないパネルには表示されません。

0 ：常に表示しない。
1 ：全てのパネルに表示。
2 ：全てのパネルに表示。視線を固定しやすいよう選択中に強調する。
3 ：選択中のパネルのみ表示。
4 ：選択中のパネルのみ表示。視線を固定しやすいよう選択中に強調する。

選択中の協調が有効時は、視線で選択中のパネルのセンターマーカーが回転し、以下のようになります。

9.4 即時発声機能

メイン画面で、文字を選択したときに、クリック音ではなく選択した文字を読み上げる機能です。この機能が ON のときは、メイン画面で文字を入力した場合、もしくは発声履歴・定型文で定型文を選択した場合に入力内容を発声します。

メイン画面で文字を選択すると、その文字を発声します。入力した文字がかなの小書き文字や長音「ー」のときは、直前の文字と組み合わせて発声できる形で読み上げます。文字盤の「小」「゛」「゜」で変換した場合、変換した文字を発声します。

発声と同時に発声内容が入力され、文章パネルが更新されるので、続けて変換などの処理を行うことができます。文字パネル以外のパネルは通常のクリック音が鳴ります。

発声履歴・定型文画面で定型文などを選択したときは、メイン画面が表示されたときに内容を発声します。

また、読み上げる音声の音量は、通常の発話と同じ音量で行われます。そのため、通常の発話音量の調整で、即時発声の音量を調整できます。

10 介護者向け機能

利用者の補助を行う介護者向けの機能を説明します。

介護者用メニューは、文字盤画面の左上のボタンをクリックすることで表示されます。介護者用メニューは左上のボタン、左側のパネル、中央より右側の設定項目からなります。設定項目は異能ごとに分けられており、画面上部にあるタブをクリックすることで、設定項目を切り替えることができます。

ここでメニューのパネルを選択することで、その機能を実行します。機能を実行すると元の文字盤に戻ります。メニューを実行しないで終了するときは、左上のボタンをクリックしてください。

メイン画面　通常時

介護者用メニュー表示時

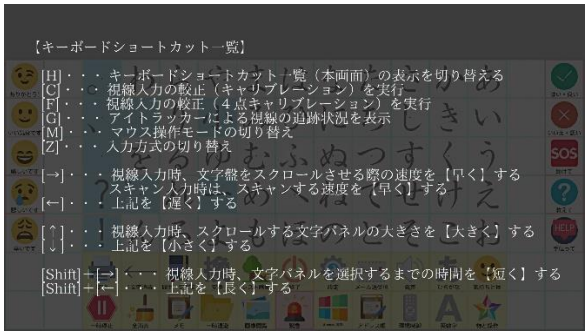
ここで、機能とスイッチ、パネルの割り当ては以下の表のとおりです。また、設定項目については「9 各種設定」をご参照ください。

機能名	キー入力	パネル名
マウス操作モード	M	マウス操作モード
文字盤編集画面表示	（なし）	文字盤編集
定型文編集画面表示	（なし）	定型文編集
メールアカウント編集	（なし）	メール設定
入力方式切替	Z	入力方式切替
視線位置確認	G	視線の追跡状況
キャリブレーションのショートカット	C	キャリブレーション
４点キャリブレーション実行	F	（なし）
１文字消去	BackSpace	（なし）
電源 OFF	（なし）	終了メニュー

「M」「Z」キーを押下した際、モードが切り替わった旨のアナウンスを流すことができます。詳しくは、「9.各種設定」をご覧ください。【Ver1.11A で追加】

また、文字盤画面では以下のとおり、設定値を変更するショートカットキーがあります。

キー入力	機能名
↑	視線入力時、スクロールする文字パネルの大きさを大きくする。 拡大パネル表示中は、拡大パネルの大きさを大きくする。
↓	視線入力時、スクロールする文字パネルの大きさを小さくする。 拡大パネル表示中は、拡大パネルの大きさを小さくする。
→	視線入力時、文字盤をスクロールする際の速度を速くする。 スキャン入力時、スキャン速度を速くする。
←	視線入力時、文字盤をスクロールする際の速度を遅くする。 スキャン入力時、スキャン速度を遅くする。
Shift + →	視線入力時、文字パネルを選択するまでの時間を短くする。 拡大パネル表示中は、拡大パネルを選択するまでの時間を短くする。
Shift + ←	視線入力時、文字パネルを選択するまでの時間を長くする。 拡大パネル表示中は、拡大パネルを選択するまでの時間を長くする。
H	ショートカットキー一覧の表示切り替えを行う。



10.1　ユーザー情報

介護者用メニュー画面の左上、eeyes ロゴとパネルの間に、ユーザー情報が表示されます。ユーザー情報は、正規ユーザーでは eeyes のバージョンとユーザー名が表示されます。試用ユーザーの場合は、バージョンと試用ユーザーであることに加え、試用期限の日付が表示されます。

正規ユーザー

試用ユーザー

10.2　入力方式切替

文字盤画面でキーボードの「Z」キーをクリックするか、介護者用メニューから「入力方式切替」を選択することで、スキャン入力と直接入力を切り替えることができます。

10.3　マウス操作モード

画面を上下左右に動かす場合、通常は利用者の視線で操作しますが、キーボードの「M」キーを押すか、介護者用メニューから「マウス操作モード」を選択することで、マウス操作モードに移行します。このとき、常にマウスでの操作、クリックでの入力が可能となり、すべての操作がマウスで可能になります。操作中は画面右上のインジケータにマウス操作、クリック入力アイコンが表示されます。また、マウス操作モードでは固定文字盤表示になります。

このとき、「M」キーをもう一度押すか、介護者用メニューから「マウス操作モード」を選択することで、マウス操作モードを終了し、マウス操作、クリック入力、文字盤設定をもとの設定値に戻します。スキャン入力に設定している場合でも、視線操作時と同様に、マウス操作モードに切り替えられます。

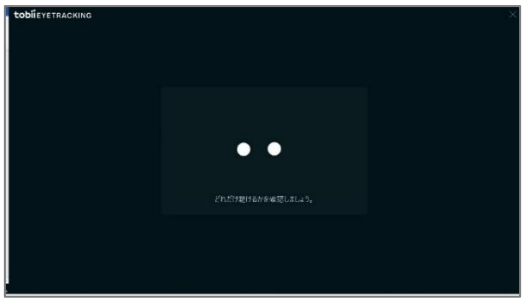
10.4　キャリブレーション

文字盤画面で「C」キーをクリックするか、介護者用メニューで「キャリブレーション」を選択することで、キャリブレーションをその場で実行することができます。キャリブレーションが完了すると、元の文字盤に戻ります。キャリブレーション画面については、「8.1 キャリブレーション」をご参照ください。アイトラッカーが接続されてない場合は、キャリブレーションは行われません。

また、文字盤画面で「F」キーをクリックすることで、4 点キャリブレーションを実行することができます。

10.5　視線の追跡状況

文字盤画面で「G」キーをクリックするか、介護者用メニューで「視線の追跡状況」を選択することで、以下のような視線位置確認画面を表示できます。目の位置が白丸で表示されるので青い枠の中にあることを確認してください。この画面は、画面右上の「×」をクリックすることで終了し、終了後は直前の文字盤に戻ります。アイトラッカーが接続されてない場合は、確認画面は表示されません。



10.6　文字盤編集画面表示

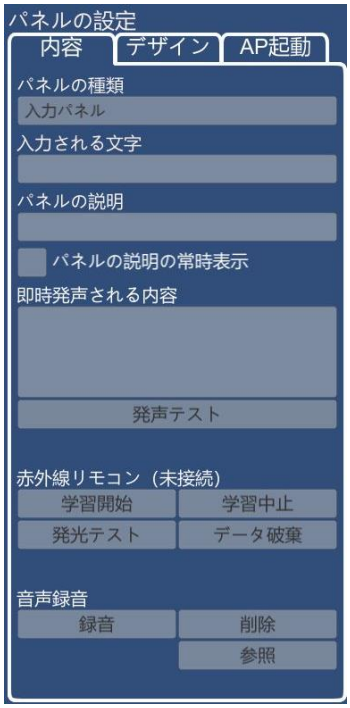
介護者用メニューで「文字盤編集」を選択することで、文字盤編集画面を表示し、文字盤の設定を行うことができます。

文字盤上の文字やアイコンのパネルの配置を編集する機能です。機能に関するパネルを除き、パネルを選択した場合に入力・発声される内容やパネル上に表示される文字も変更が可能です。マウスで対象を選択し、クリックで決定します。

画面の構成は以下の通りです。

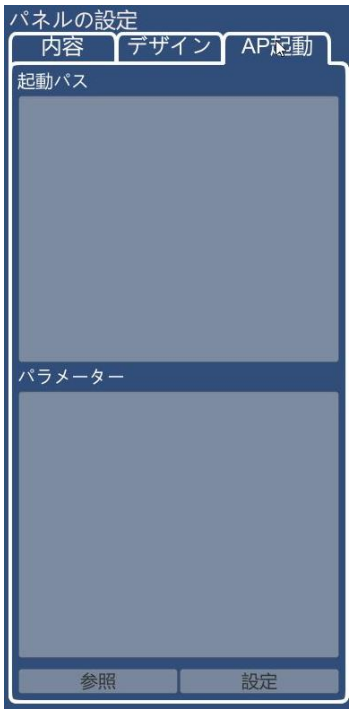
部品名	説明
文字盤	「編集する文字盤」で選択した文字盤が表示されます。
編集する文字盤	編集する文字盤を以下から選択できます。 ひらがな、英数字、絵文字（気持ちと体）、絵文字（物と操作）、環境制御、汎用パネル(1~10)、Windows 操作（視線入力操作メニュー、スキャン入力操作メニュー、キーボード）、視線専用 Windows 操作（ホーム、キーボード、マウス）
戻るボタン	メイン画面に戻ります。編集を保存していない場合、文字盤や文字パネルの編集内容は破棄されます。
保存ボタン	クリック時に表示されている文字盤および文字パネルの編集内容を保存します。
新しく開くボタン	保存しておいた文字盤のデータを開きます。
別名で保存ボタン	表示されている編集中の文字盤を別ファイルに保存します。
一括設定	文字盤をまとめて設定します【Ver1.1 1 A で追加】
一括保存	文字盤をまとめて保存します【Ver1.1 1 A で追加】
お気に入り	文字盤パレットから、パネルを編集用にコピーします。パネル配置の編集については「10.7 文字盤の編集」をご参照ください。
文字盤サイズ変更	文字盤全体のサイズを変更します。詳しくは「10.7.11 文字盤の表示サイズ変更」をご参照ください。
非表示領域	この領域は文字盤画面では表示されません。詳しくは「10.7.11 文字盤の表示サイズ変更」をご参照ください。
空白パネル	文字盤に空白パネルを設定します。パネル配置の編集については「10.7 文字盤の編集」をご参照ください。
パレット	文字盤の編集に使用するパネルが表示されます。パネル配置の編集については「10.7 文字盤の編集」をご参照ください。
パレット 上移動ボタン	クリック時にパレットに表示するパネルを 1 行分上に移動します。
パレット 下移動ボタン	クリック時にパレットに表示するパネルを 1 行分下に移動します。
パネルの設定	選択されたパネルの設定を行います。

パネルの設定は、次のように項目別にタブになっており、上部をクリックすることで表示内容を切り替えることができます。



「内容」タブ

「デザイン」タブ



「AP 起動」タブ

また、各タブの部品は以下のようになります。

・内容タブ

部品名	説明
パネルの種類	文字パネルの種類を以下から選択できます。 ・入力パネル ・説明付き入力パネル ・即時発声パネル 詳細は「10.7.7 パネルの設定」をご参照ください。
入力される文字	パネル選択時にメッセージパネルに入力される文字を設定します。詳細は「10.7.7 パネルの設定」をご参照ください。
パネルの説明	パネル下部に表示する文字を設定します。 詳細は「10.7.7 パネルの設定」をご参照ください。
パネル説明の常時表示	パネル下部に表示させる文字を常に表示するか設定します。 詳細は「10.7.7 パネルの設定」をご参照ください。
即時発声される内容	パネル選択時に即時発声される文字を設定します。 詳細は「10.7.7 パネルの設定」をご参照ください。
発声テストボタン	クリック時に「発声される文字」に設定されている文字を発声します。スマートスピーカーのテスト等に便利です。

部品名	説明
学習開始ボタン	学習リモコンに、赤外線データの学習を開始します。詳細は「11 学習リモコンの操作機能」をご参照ください。
学習中止ボタン	学習リモコンの学習を中断します。
発光テストボタン	学習した赤外線データで、学習リモコンを発光させます。
データ破棄ボタン	学習した赤外線データを削除します。
リモコンの連続入力	チャンネルの上下や音量など連続して赤外線を送出したいパネルの場合に ON とします。【Ver1.1 1 A で追加】
録音/再生/停止ボタン	表示状態によって以下の機能があります。詳しくは「12 録音・再生機能」を参照してください。 録音：録音を開始します。 再生：録音データを再生します。 停止：録音や再生を停止します。
参照ボタン	録音データを選択し、パネルに追加します。
削除ボタン	録音データを削除します。

・デザインタブ

部品名	説明
パネルの高さ	表示されるパネルの高さを変更します。
パネルの幅	表示されるパネルの高さを変更します。
フォント	選択したパネルの現在のフォントです。この項目は選択できません。
テキストの色	選択したパネルの現在の文字の色です。この項目は選択できません。
パネル背景色	選択したパネルの現在のパネルの背景の色です。この項目は選択できません。
参照ボタン （パネル背景色）	保持中のフォントと背景色を選択中のパネルの現在値に変更します。
設定ボタン （パネル背景色）	選択したパネルのフォントと背景色を保持中の値に変更します。
保持中のフォント	パネルに設定する文字のフォントを変更します。
テキストの色	パネルに設定する文字の色を変更します。
パネル背景色	パネルに設定する背景の色を変更します。

部品名	説明
画像貼り付け	イメージパネルに貼り付ける画像の設定です。この項目は選択できません。
参照ボタン （画像貼り付け）	イメージパネルに貼り付ける画像を選択できます。選択できる画像は.png, .jpg 方式のファイルのみです。【Ver1.1 1 A で追加】
削除ボタン （画像貼り付け）	イメージパネルに貼り付けた画像を削除します。【Ver1.1 1 A で追加】

詳細については、「パネルの高さ」と「パネルの幅」は「10.7.9 パネルサイズ変更」を、それ以外の項目は「10.7.8 フォントと背景色の設定」を参照してください。

・AP 起動タブ

部品名	説明
起動パス	選択時に起動するアプリのフルパスを表示・設定します。詳しくは「14 外部アプリの起動」をご参照ください。
パラメーター	選択時に起動するアプリのフルパスを表示・設定します。詳しくは「14 外部アプリの起動」をご参照ください。
参照ボタン	「ファイルを開く」ダイアログを表示します。
設定ボタン	現在の表示内容に設定します。

このタブ各部品について、詳しくは「14 外部アプリの起動」をご参照ください。

これらの項目で、選択や更新が不可能なものは灰色に表示されます。また、赤外線学習リモコンが有効でない場合は、学習開始ボタン、学習中止ボタン、発光テストボタン、データ破棄ボタンは無効化されます。

10.7　文字盤の編集

文字盤上の文字パネル同士の交換や置き換えを行う事により、文字盤を編集できます。

10.7.1 交換

文字盤のパネル同士の位置を交換する場合、位置を交換したい文字パネルを 2 つ選択する事により、2 つの文字パネルの位置が交換されます。下の図では「い」と「ぬ」の交換を行っている途中で、「い」を選択した後の状態です。ここで「ぬ」を選択することで、文字パネルが入れ替わります。

パネルを交換できるのは高さ、幅ともに 1 のパネル同士です。それより大きいパネルを選択した場合は、選択が解除されます。また、非表示領域は選択できません。

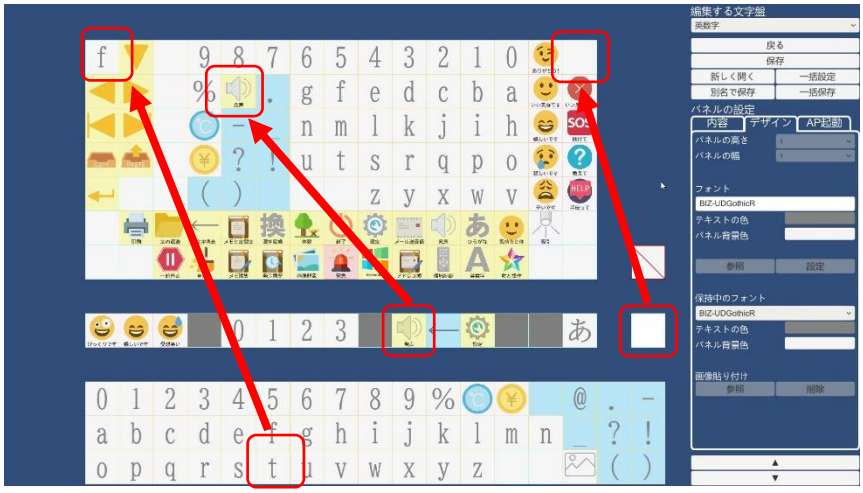
※以下の文字パネルではパネルの**交換のみ**をすることができます。

・Windows 操作: 視線入力操作メニュー

・Windows 操作：スキャン入力操作メニュー

10.7.2 置換

文字盤のパネルを置き換える場合、新しく配置したい文字パネルをパレット上、またはお気に入りエリアから選択し、置き換えたい文字盤上のパネルを選択する事により、パネルを置き換える事ができます。文字盤上で不要なパネルがあれば、空白パネルに置き換える事で、文字盤上から消す事ができます。



置換される対象が大きなパネルの場合には、右上に１×１のサイズのパネルとなり、残りは１×１の空白パネルになります。また、非表示領域を置換することはできません。

置換前

置換後

10.7.3 保存

編集した文字盤を保存する場合、「保存」ボタンをクリックします。このとき、表示されている文字盤にのみ、編集の保存が行われます。保存をしないまま「戻る」ボタンでメイン画面に戻った場合、文字盤や文字パネルの編集内容は破棄されますので、必要に応じて保存してください。

10.7.4 戻る

メイン画面に戻る場合、「戻る」ボタンをクリックします。戻る前に保存を行っていた場合、保存した内容に、メイン画面と環境制御用画面の文字盤を更新します。更新される文字盤は戻る前に最後に保存したときの文字盤が表示されます。

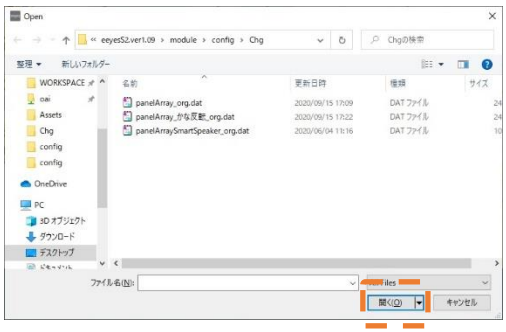
10.7.5 新しく開く

バックアップなど保存済みの文字盤を表示する場合は、「新しく開く」ボタンをクリックします。それまで編集している文字盤は破棄されるので、必要により保存してください。「新しく開く」ボタンをクリックすると、読み込むファイルを指定するダイアログが出ますので、読み込む対象となる文字盤データを指定して「開く」ボタンをクリックすると、文字盤が読み込まれます。

ここで表示された文字盤は「保存」ボタンをクリックすることで、eeyes の表示に反映されます。

このとき、環境制御文字盤を表示している場合には panelArraySmartSpeaker_org.dat を、それ以外の文字盤を表示している場合は panelArray_org.dat を選択してください。汎用文字盤は同じ番号の panelArrayEx を選択してください。選択を間違えると、正しく動作しなくなります。

また、かな文字を反転させた（左から「あかさたな」となる）文字盤を表示するためには、panelArray_かな反転_org.dat を選択してください。詳しくは、「15 付録：サンプル文字盤」を参照してください。

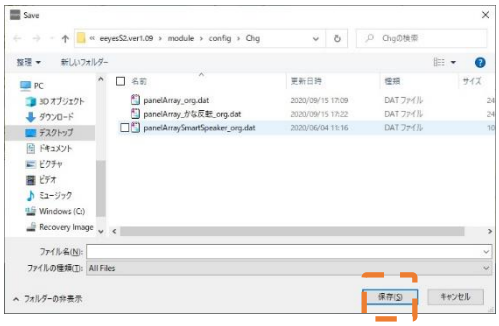


10.7.6 別名で保存

バックアップなど現在の文字盤を別に保存しておきたい場合は、「別名で保存」ボタンをクリックします。

「別名で保存」ボタンをクリックすると、書き込むファイルを指定するダイアログが表示されます。書き込む対象となる文字盤を指定して「保存」ボタンをクリックすると、文字盤の情報を書き込みます。

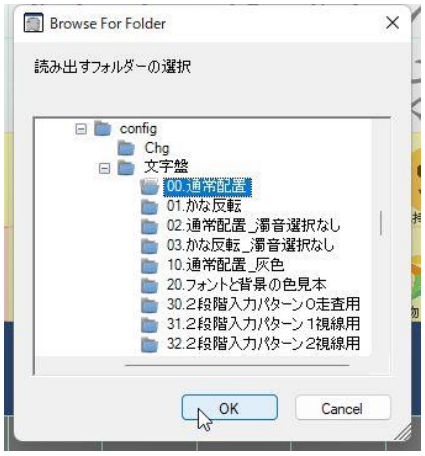
このとき、保存する文字盤が環境制御用画面の場合は panelArraySmartSpeaker_org.dat に、それ以外の画面の場合は panelArray_org.dat に保存してください。汎用文字盤は同じ番号の panelArrayEx に保存してください。保存するファイルを逆にすると、正常に動作しなくなります。

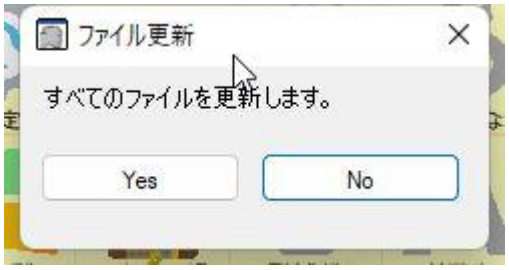


10.7.7 一括設定

複数のパネル配置データを eeyes に読み込む場合は、「一括設定」ボタンをクリックします。【Ver1.1 1 A で追加】

「一括設定」ボタンをクリックすると、読み込むフォルダを指定するダイアログが表示されます。読み込みたいパネル配置データが格納されているフォルダを指定して「OK」ボタンを選択します。その後表示されるダイアログで「YES」ボタンをクリックすると、フォルダ内にある文字盤データを一括で更新します。サンプル文字盤やバックアップしていたパネル情報を一度に取り込むことができます。

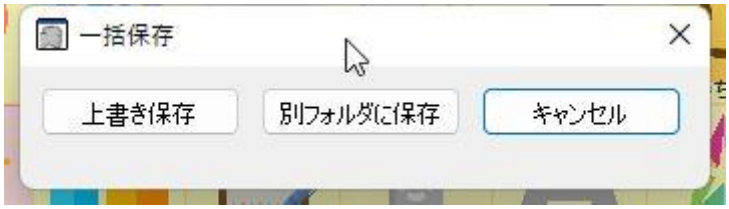




10.7.8 一括保存

文字盤編集画面で編集した全種類の文字盤を一括で保存した場合は、「一括保存」ボタンをクリックします。【Ver1.1 1 A で追加】

「一括保存」ボタンをクリックすると、以下の 3 つのボタンが表示されます。



- 上書き保存

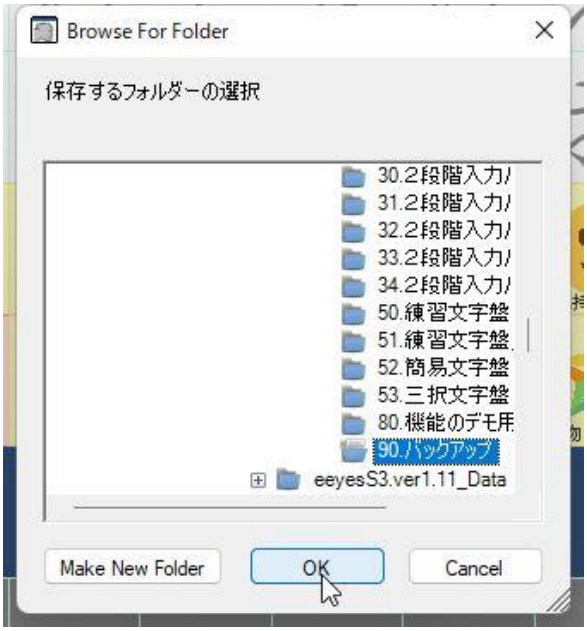
編集した全文字盤データをすべて保存します。編集可能なすべての文字盤のパネル配置を eeyes に反映させます。

- 別フォルダに保存

編集した全文字盤データを別フォルダにすべて保存します。編集した文字盤をバックアップする際に利用します。

「別フォルダに保存」ボタンをクリックすると、保存先を指定するダイアログが表示されます。保存したいフォルダを選択し「OK」ボタンをクリックすると、文字盤データを一括保存できます。

また、新たに保存用のフォルダを作成したい場合は、「Make New Folder」ボタンをクリックすると新たにフォルダを生成します。



- キャンセル

一括保存を取りやめます。

10.7.9 パネルの設定

文字盤のパネルをクリックすると、「パネルの設定」に選択したパネルの種類が表示されます。パネルの種類は以下から選択して変更できます。

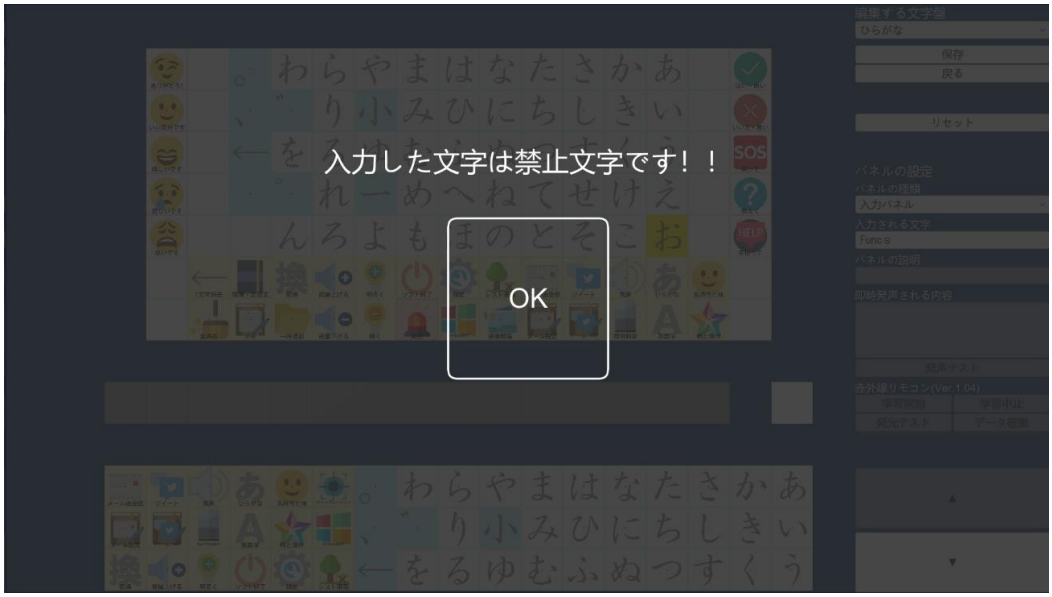
パネルの種類	説明
入力パネル	ひらがなパネルのように、パネル下部にテキスト表示をしたくない場合に選択します。 メッセージパネルへの入力：入力されます パネル下部への文字列表示：表示されません
説明付き入力パネル	絵文字パネルのように、パネル下部にテキスト表示をしたい場合に選択します。 メッセージパネルへの入力：入力されます パネル下部への文字列表示：表示されます
即時発声パネル	環境制御用のパネルのように、即時に発声してメッセージパネルへの入力をしたくない場合に選択します。 メッセージパネルへの入力：入力されません パネル下部への文字列表示：表示されます

各パネルの種類に対し、「入力される文字」、「表示される文字」、「発声される文字」はそれぞれ以下のように反映されます。

パネルの種類	入力される文字	表示される文字	発声される文字
入力パネル	パネル選択時にメッセージパネルへ入力されます。		
説明付き入力パネル	パネル選択時にメッセージパネルへ入力されます。	パネル下部に表示されます。	
即時発声パネル		パネル下部に表示されます。	パネル選択時に発声されます。

「入力される文字」「パネルの説明」「即時発声される内容」は、それぞれキーボード入力で設定することができます。「入力される文字」のうちいくつかは、特別な機能を持つ予約語のため、設定することができません。設定した場合には、以下のように警告のダイアログが表示され、入力文字列が消去されます。なお、「即時発声される内容」の内容は「発声テスト」ボタンをクリックすることで発声されます。

「パネル説明の常時表示」チェックボックスにチェックを入れることで、このパネルの説明は常に表示されるようになります。



10.7.10 フォントと背景色の設定

選択した文字パネルのフォントと文字の色、パネル背景色は以下の手順で変更することができます。背景色とフォントの設定は文字盤のパネルについてのみ可能です。

(1)フォント、背景色の変更

以下の手順で選択したパネルのフォントと背景色を変更することができます。

手順	画面	解説
1		文字盤の設定を参照したいパネルを選択し、「デザイン」タブを選択します。
2		「参照」「設定」ボタンが有効化され、「フォント」と「テキストの色」「パネル背景色」に現在の情報が反映されます。
3		「保持中のフォント」の下のドロップダウンをクリックし、フォントを変更します。
4		「保持中のフォント」の下の「テキストの色」の右側のパネルをクリックします。「テキストの色」が水色になり、カラーピッカーが表示されます。カラーピッカー表示中は、文字盤のパネルを選択することはできません。

手順	画面	解説
5		カラーピッカー内でマウスをクリックすると、その位置の色がボタンに反映されます。
6		「テキストの色」をクリックすることでカラーピッカーを非表示にし、設定した色を決定します。
7		「保持中のフォント」の下の「パネル背景色」の右側のパネルをクリックします。「パネル背景色」が水色になり、カラーピッカーが表示されます。カラーピッカー表示中は、文字盤のパネルを選択することはできません。
8		カラーピッカー内でマウスをクリックすると、その位置の色がボタンに反映されます。

手順	画面	解説
9		「パネル背景色」をクリックすることでカラーピッカーを非表示にし、設定した色を決定します。
10		「設定」ボタンをクリックすることでパネルの表示を保持中の設定に変更します。この時、パネルの選択は自動で解除されます。

(2)パネルの設定のコピー

以下の手順で選択したパネルのフォントと背景色を他のパネルへコピーすることができます。

手順	画面	解説
1		文字盤の設定を参照したいパネルを選択し、「デザイン」タブを表示します。「参照」ボタンが有効になります。
2		「参照」をクリックすることで現在の設定を反映します。

手順	画面	解説
3		選択中のパネルをクリックし、選択を解除します。
4		設定をコピーする対象をクリックします。
5		「設定」ボタンをクリックし、設定を反映します。この時、選択状態は自動で解除されます。

（3）変更の反映

フォントと背景色の変更の反映は他のパネルと同様に、「保存」ボタンをクリックすることによって行います。保存を行った後に「戻る」ボタンをクリックすることで、更新された文字盤を表示します。

10.7.11 パネルサイズ変更

以下の手順でパネルのサイズを変更できます。

手順	画面	解説
1		パネルを選択し、「デザイン」タブをクリックします。
2		高さの右のドロップダウンをクリックし、縦方向の拡大サイズを選択します。
3		パネルの高さが変更されます。
4		幅の右のドロップダウンをクリックし、横方向の拡大サイズを選択します。

手順	画面	解説
5		パネルの幅が変更されます

拡大するパネルと被るパネルは非表示になります。非表示にするパネルが 1× 1 より大きい場合は、その部分は 1 × 1 の空白パネルになります。

サイズ変更前

サイズ変更後

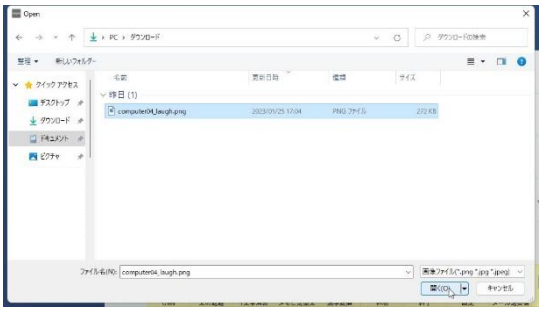
サイズ変更したパネルに隠れている部分があらわになった場合、その部分は高さ、幅ともに 1 の空白パネルになります。

サイズ変更前

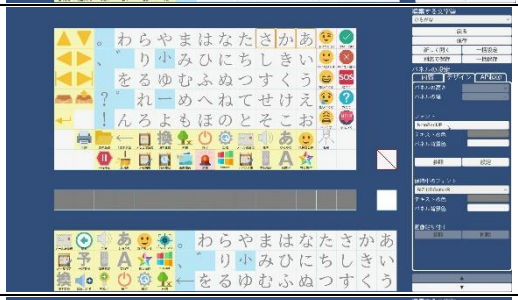
サイズ変更後

10.7.12 画像貼り付け

文字盤に配置したイメージパネルは、以下の方法で任意の画像を貼り付けることができます。【Ver1.11A で追加】

手順	画面	解説
1		文字盤上にあるイメージパネルを選択し、「デザイン」タブを表示します。画像貼り付けの「参照」ボタンが有効になります。
2		「参照」をクリックすることで画像ファイルを選択する画面が表示されます。貼り付けたい画像ファイルを選択し「開く」ボタンをクリックします。
3		イメージパネルのイラストが、選択した画像に変更されます。

10.7.13 複数パネル選択

手順	画面	解説
1		[Shift]キーを押しながら、文字盤のパネルを左クリックすることで、複数のパネルを選択できます。パネルの設定内容がすべて同じときは、その内容が表示されます。
2		選択中のパネルを[Shift]キーを押しながら、左クリックすることで、選択状態を解除できます。
3		「パネルの設定」で選択中のパネルの設定をまとめて変更することができます。この例ではフォントとテキストの色を変更しました。
4		複数選択は文字盤のみ行えます。文字盤以外のパネルを複数選択しても反応しません。
5		複数選択中に、[Shift]キーを押さないでパネルを選択した場合は、複数選択が解除され、選択したパネルの通常の選択になります。

手順	画面	解説
6		マウスでドラッグアンドドロップすることで複数選択することもできます。橙色の枠のかかったパネルが選択されます。【Ver1.1 1 A で追加】

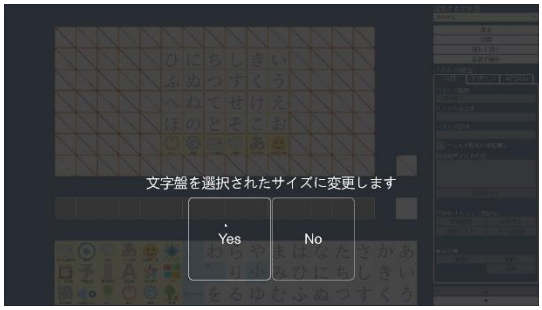
10.7.14 文字盤の表示サイズ変更

「文字盤サイズ変更」パネル（画面右中央の赤斜線のあるパネル）をクリックし、表示する範囲を切り出すことで文字盤のサイズを変更できます。その手順は以下の通りです。

手順	画面	解説
1		「文字盤サイズ変更」パネルをクリックします。
2		画面にガイダンスメッセージが表示されます。変更後の表示範囲の右上となるパネルを選択してください。
3		パネルが選択され、ガイダンスが更新されます。
4		左下のパネルを選択すると、確認のダイアログが表示されます。また、この時、変更する範囲がオレンジ枠で表示されます。

手順	画面	解説
5		「Yes」を押すと選択された範囲が画面中央に切り出され、それ以外は非表示領域になります。
6		「保存」をクリックします。
7		文字盤画面に戻ると、表示領域が選択した内容に変更されます。
8		手順 4 で「No」をクリックした場合は、編集前の状態にもどります。

範囲選択中は、文字盤以外のパネルは選択できなくなります。また、範囲選択には非表示領域を含みことができ、変更後は高さ、幅がともに 1 の空白パネルになります。

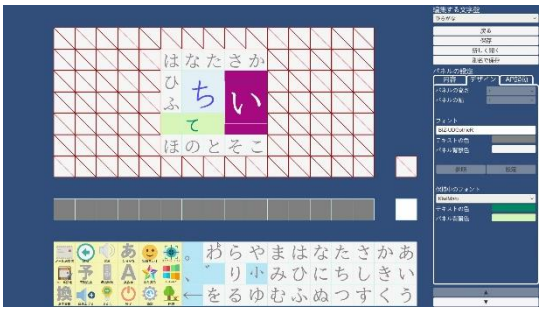


サイズ変更前

サイズ変更後

範囲選択時に選択範囲からはみだしている大型のパネルは、選択範囲内に収まるように自動でサイズが変更されます。

サイズ変更前



サイズ変更後

汎用文字盤では、表示範囲に戻るパネルを含んでいる必要があります。表示範囲を含んでいない場合は、以下のようなメッセージが表示されます。このメッセージは文字盤のパネルをクリックすると消えます。

10.7.15 Windows 操作用文字盤の編集

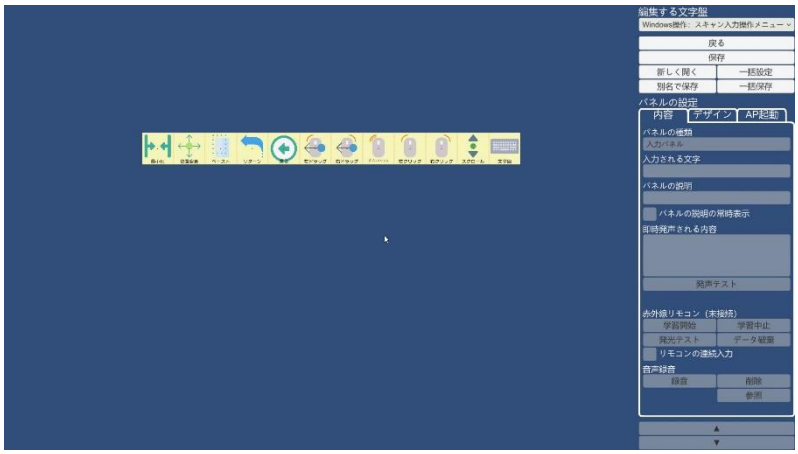
文字盤編集画面では、Windows 操作時のメニューパネル・文字盤の編集を行うことができます。【Ver1.11A で追加】

① Windows 操作

・視線入力操作メニュー

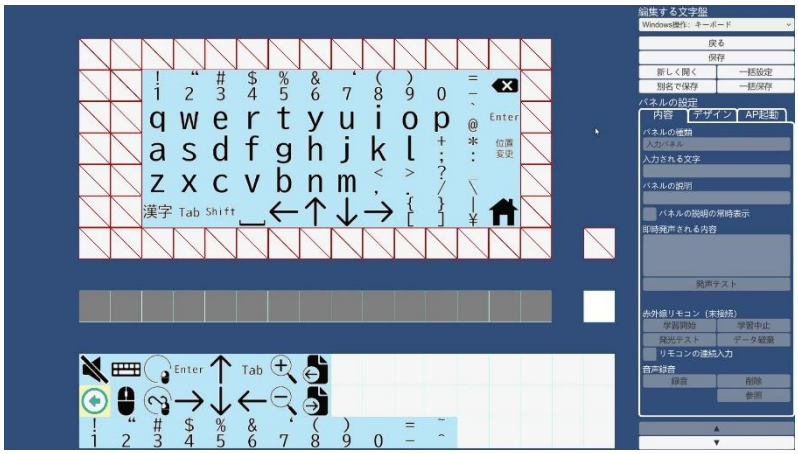
視線入力時の Windows 操作メニューを編集することができます。このメニューは、パネルの交換のみ行うことができます。

・スキャン入力操作メニュー



スキャン入力時の Windows 操作メニューを編集することができます。このメニューは、パネルの交換のみ行うことができます。

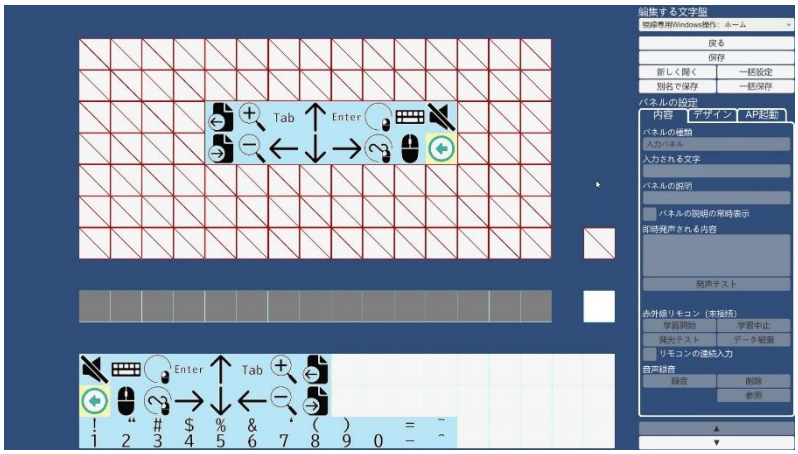
・キーボード



Windows 操作時に使用する文字盤を編集することができます。この文字盤では、交換、置換、パネルサイズ変更、文字盤の表示サイズ変更を行うことができます。

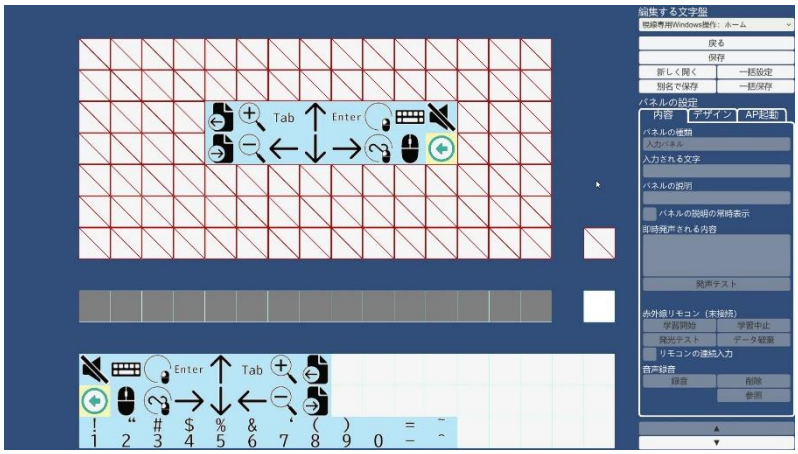
② 視線専用 Windows 操作

・ホーム



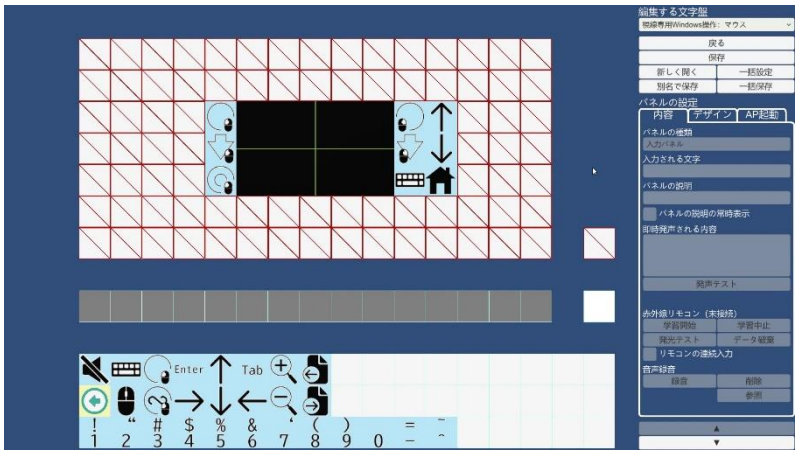
視線専用 Windows 操作時のホーム画面を編集することができます。この文字盤では、交換、置換、パネルサイズ変更、文字盤の表示サイズ変更を行うことができます。

・キーボード



視線専用 Windows 操作で使用する文字盤を編集することができます。この文字盤では、交換、置換、パネルサイズ変更、文字盤の表示サイズ変更を行うことができます。

・マウス



視線専用Windows操作でのマウス操作画面を編集することができます。この文字盤では、交換、置換、パネルサイズ変更、文字盤の表示サイズ変更を行うことができます。

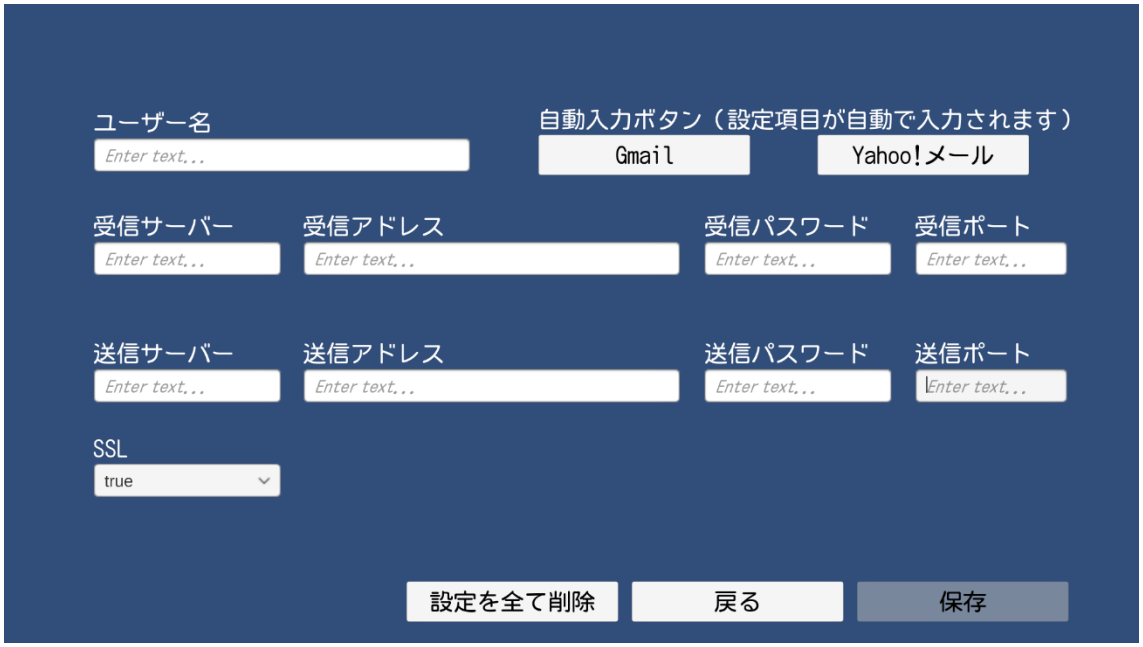
10.8　メールアカウント編集画面

介護者用メニューで「メール設定」を選択することで、メールアカウント編集画面を表示し、eeyes ユーザーのメールアカウントの設定を行うことができます。画面表示時に、現在のメールアカウントの設定が表示されます。

「保存」ボタンをクリックすることで、現在の表示内容でメールアカウントを設定します。

「戻る」ボタンをクリックすることで、メイン画面に戻ります。メールアカウントを更新した場合、戻ったときから、新しいアカウントが有効になります。

以下の表は「Gmail」、「Yahoo!メール」ボタンを押したときに設定される項目です。この中で、赤字の部分をユーザーのアカウントに置き換えて設定してください。



設定項目	Gmail	Yahoo!メール
ユーザー名	任意の名前	任意の名前
受信サーバー	pop.gmail.com	imap.mail.yahoo.co.jp
受信アドレス	XXXXX@gmail.com	XXXXX@yahoo.co.jp
受信パスワード	パスワード	パスワード
受信ポート	993	993
送信サーバー	smtp.gmail.com	smtp.mail.yahoo.co.jp
送信アドレス	XXXXX@gmail.com	XXXXX@yahoo.co.jp
送信パスワード	パスワード	パスワード
送信ポート	587	465
SSL	true	true

10.9　定型文編集画面

介護者用メニューで「定型文編集」を選択することで、定型文の編集画面を表示し、登録してある定型文の編集を行うことができます。

画面の構成は以下の通りです。

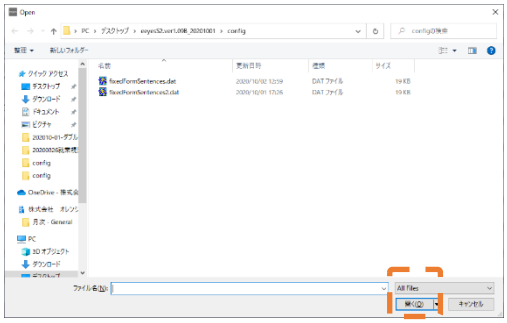
部品名	説明
定型文領域	登録された定型文が表示されます。
カテゴリ追加ボタン	定型文のカテゴリを追加します。
戻るボタン	メイン画面に戻ります。保存してない定型文は破棄されます。
保存ボタン	定型文領域に表示されている定型文を保存します。
新しく開くボタン	保存しておいた定型文のデータを開きます。
別名で保存ボタン	定型文領域に表示されている定型文を別ファイルに保存します。

10.9.1 定型文のカテゴリを追加する

定型文はカテゴリごとにまとめて管理されています。このカテゴリを追加したい場合は、カテゴリ追加ボタンを押します。新しく追加されたカテゴリは「新規カテゴリ」として定型文領域の先頭に追加されますので、必要により文面をクリックし修正してください。新しく追加されたカテゴリには「定型文」が 1 つ追加されていますので、こちらも合わせて文面を修正してください。

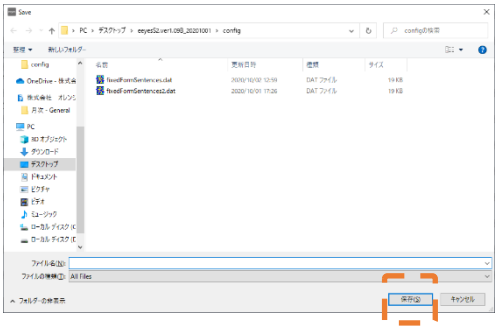
10.9.2 保存済みの定型文を読み込む

バックアップなど保存済みの定型文を開く場合は、「新しく開く」ボタンをクリックします。それまで定型文領域に表示されていた定型文は破棄されるので、必要により保存してください。「新しく開く」ボタンをクリックすると、読み込むファイルを指定するダイアログが出ますので、読み込む対象となる定型文データを指定して「開く」ボタンをクリックすると、定型文が読み込まれます。



10.9.3 定型文を別名で保存する

バックアップなど現在の定型文を別に保存しておきたい場合は、「別名で保存」ボタンをクリックします。「別名で保存」ボタンを押すと、書き込むファイルを指定するダイアログが出ますので、書き込む対象となる定型文データを指定して保存ボタンを押すと、定型文が書き込まれます。



10.9.4 カテゴリ配下の定型文を表示する

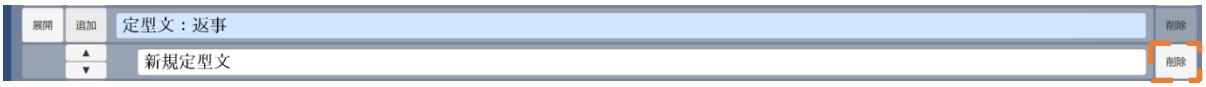
カテゴリに登録されている定型文を表示したい場合は、「展開」ボタンをクリックします。同様にもう一度、「展開」ボタンをクリックすると定型文の表示が消えます。

10.9.5 カテゴリに定型文を追加する

カテゴリに定型文を追加したい場合は、「追加」ボタンをクリックします。追加された定型文は「新規定型文」としてカテゴリの先頭に追加されます。なお、「追加」ボタンはカテゴリの定型文が表示されている場合のみ表示されます。

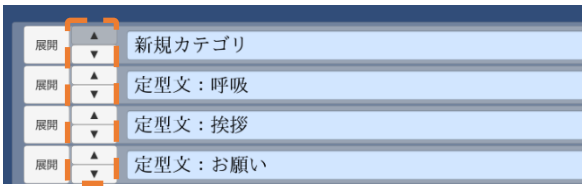
10.9.6 カテゴリから定型文を削除する

カテゴリから定型文を削除したい場合は、「削除」ボタンをクリックします。カテゴリに最低１つの定型文が必要ですので、当該のカテゴリの全ての定型文を削除したい場合は、カテゴリ自体を削除してください。



10.9.7 カテゴリや定型文の順序を入れ替える

カテゴリや定型文の順序を入れ替えたい場合は、「▲」「▼」ボタンをクリックします。ボタンが灰色の場合、その方向には入れ替えができません。



10.9.8 カテゴリを削除する

カテゴリを削除したい場合は、「削除」ボタンをクリックします。ボタンが灰色の場合、またはカテゴリの定型文を表示している間は削除できませんので、「展開」ボタンを押して定型文の表示を消してから、「削除」ボタンを押してください。

10.10 設定項目

介護者用メニュー画面中央から右側には設定項目が表示されます。設定項目が種類ごとに分けられています。上部にあるタブをクリックすることで、設定項目を切り替えることができます。

タブ	概要
動作全般	eeyes 動作全般に関する設定。
スキャン入力	スキャン入力に関する設定。
視線入力	視線入力に関する設定。

この項目は入力切替を除いて設定画面の設定項目と同じであり、同様に設定できます。設定項目の文字にマウスポインタを置くことでその項目の概要が表示されます。表示内容は「9 各種設定」をご参照ください。

なお、入力切替の代わりに入力切替表示の設定項目があります。詳しくは「10.12.1 介護者用メニューのみの設定項目」を参照してください。

発声する際の声色は、Windows 合成とコエステーションでは以下のようになります。ここでボタンの下に、現在選択している音声の名称が表示されます。

Windows 音声合成	コエステーション

設定項目で操作できるオブジェクトは以下の表のとおりです。

オブジェクト	概要
	クリックすることでその項目の設定値を大きくします。
	クリックすることでその項目の設定値を小さくします。
	クリックすることでその項目の ON と OFF を切り替えます。チェックが入っているときが ON となっています。
	クリックすることで設定項目をリセットします。
	コエステーション・マイボイス未接続時に表示されます。 クリックすることでコエステーション・マイボイスの接続を開始します。

オブジェクト	概要
切断する	コエステ―ション・マイボイス接続時に表示されます。 クリックすることでコエステ―ション･マイボイスの接続を終了します。

これらの設定項目に対して変更を加えたとき、または介護者用メニュー左側の機能パネルや戻るボタンを選択したとき、以下の画面が表示されます。

「設定の変更を保存する」では設定項目の変更を保存してから選択したパネルの機能を実行します。

「設定の変更を保存しない」では、保存せずに選択したパネルの機能を実行します。

「介護者用メニュー画面へ戻る」では、設定の保存とパネルの機能を実行せず、介護者用メニュー画面へ戻ります。

10.10.1 介護者用メニューのみの設定項目

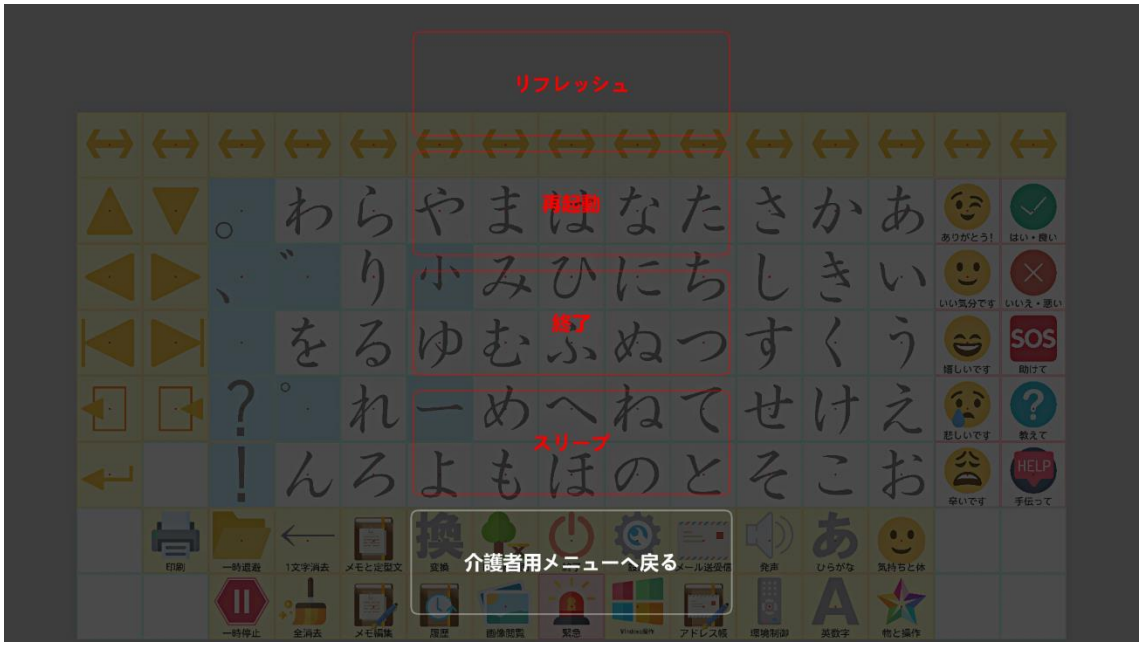
設定画面に表示されず、介護者用メニューのみ表示される設定項目は以下のようになります。

・動作全般

設定	概要	設定値	初期値
入力切替表示	設定画面から入力方式を切り替えられるようにするかどうかの設定。表示する場合はON。表示しない場合はOFF。	ON/OFF	ON

10.11 終了メニュー

介護者用メニューで「終了メニュー」を選択すると、以下のような終了メニュー画面が表示されます。ここでパネルをクリックすることで、そのパネル機能を行います。パネルの機能は以下の表のとおりです。



ボタン	説明
リフレッシュ	eeyes のみ終了し、再起動します。
再起動	eeyes を終了し、PC を再起動します。
終了	eeyes を終了し、電源を切ります。
スリープ	PC をスリープ状態にします。
介護者用メニューへ戻る	介護者用メニューへ戻る

11 学習リモコンの操作機能

eeyes では赤外線学習リモコンを使用することで、家電製品のコントロールができます。

11.1 準備

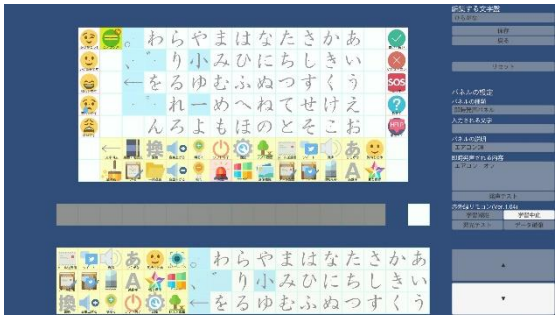
赤外線学習リモコンを使用する際には、事前に eeyes に赤外線学習リモコンを接続してください。

11.2 赤外線リモコンパネルの設定（介護者向け機能）

文字盤編集画面では、以下の手順でリモコン操作用のパネルを設定することができます。パネル 1 つにつき、1 種類のリモコン操作を設定することができます。

① パネルの配置とリモコンの赤外線パターンの学習

手順	画面	解説
1		背景が緑色のスマートスピーカー発声用パネルを、パレットから文字盤へ配置します。
2		配置したパネルをクリックし、選択します。

手順	画面	解説
3		「パネルの説明」でパネル下部に表示する内容を設定できます。
4		「即時発声される内容」でパネル選択時に発声する内容を設定できます。
5		「学習開始」ボタンをクリックします。すでに学習済みのときは、内容を上書きします。学習が開始されると、左のように「学習中止」ボタン以外の操作が無効化されます。
6		赤外線学習リモコンにオレンジ色の LED が点灯するので、その部分へリモコンを向けて、設定したい操作を行います。
7		成功した場合、パネルが更新され、左上にマークが表示されます。またボタンや入力領域が再び有効になり、「発光テスト」と「データ破棄」ボタンも有効になります。

手順	画面	解説
8		「保存」ボタンをクリックすることで、学習した赤外線データを設定ファイルに保存します。

② 学習後の編集

赤外線パターンを学習したパネルは、他の文字盤パネルと同じように移動や削除といった編集が可能です。編集を反映させるには、保存ボタンをクリックしてください。また、このパネルを選択した状態で発光テストボタンをクリックすることで、リモコンを発光させ、学習内容の確認を行うことができます。

③ リモコンの赤外線パターン学習中断

赤外線学習中に学習中止ボタンを押すことで、学習を中断します。このとき、赤外線のデータは破棄されます。中断後、学習中止ボタン、発光テストボタン、データ破棄ボタンは無効化され、それ以外の文字盤編集画面の各部品は学習前の状態に戻ります。

④ 赤外線データ破棄

赤外線データ学習済みのパネルを選択し、データ破棄ボタンをクリックすると、赤外線データを破棄できます。データ破棄後、学習中止ボタン、発光テストボタン、データ破棄ボタンは無効化され、それ以外の文字盤編集画面の各部品は学習前の状態に戻ります。また、文字盤パネル左上の、赤外線マーカーは表示されなくなります。

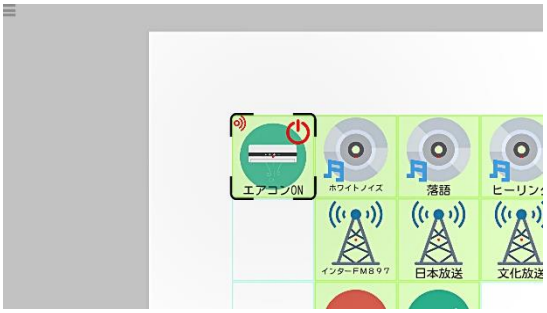
⑤ リモコンの連続入力

連続して選択したいパネルには、リモコンの連続入力にチェックを入れることで、連続して赤外線信号を送出することができます。テレビの音量調整や、チャンネル切り替え、十字キーなど何度も選択して操作するパネル向けの設定項目です。【Ver1.11A で追加】

11.3　赤外線リモコンの操作

メイン画面もしくは環境制御用画面で、リモコン操作が可能なパネルは、パネル左上にマークがあります。このパネルを選択することで、学習リモコンを発光させることができます。また、動作時に、あらかじめ設定した内容で発声することも可能です。

メイン画面



環境制御用画面

12　録音・再生機能

12.1　準備

録音・再生機能を利用するには、事前に eeyes にマイク、スピーカーを取り付け、有効にして下さい。

12.2　録音とパネルの設定（介護者向け機能）

① 録音

文字盤編集画面では、以下の手順でパネルを設定することができます。パネル１つにつき、１種類の録音データを設定することができます。

パネルの配置と録音

手順	画面	解説
1		録音データを設定するパネルを、パレットから文字盤へ配置します。
2		配置したパネルをクリックし、選択します。
3		「録音」ボタンをクリックします。すでに「録音」済みのときは、「再生」と表示され録音できません。また、録音中は左のように「録音」ボタンが「停止」ボタンととなり、それ以外は以外無効化されます。

手順	画面	解説
4		「停止」ボタンを押すか 120 秒経過すると録音を終了します。録音が終了すると左の画面のように「停止」ボタンをが「再生」ボタンなり、「再生」ボタンが有効となります。また、「削除」ボタンが有効になり、他の各種部品が録音開始前の状態になります。

② 再生

手順	画面	解説
1		録音データのあるパネルでは「再生」ボタンが表示されます。「再生」ボタンをクリックすることで録音データの再生を行います。
2		再生中は左の画面のようになり、「停止」ボタンをクリックするすると再生を途中で停止し、終了します。再生が終了すると、手順 1 の状態になります。

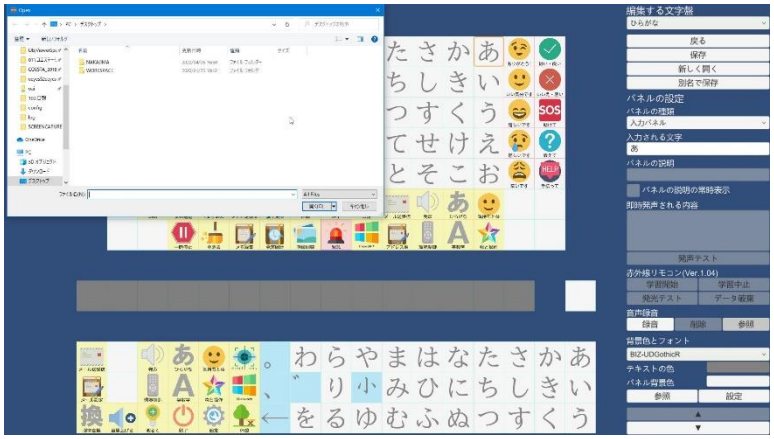
③ 削除

録音済みのパネルを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、録音データを削除できます。録音データのみ破棄し、それ以外の文字盤編集画面の各部品はもとの状態に戻ります（注）。

④ 参照

パネルを選択し、「参照」ボタンをクリックすると、以下のような読み込むファイルを指定するダイアログが出ますので、読み込む対象となる録音データを指定して「開く」ボタン

をクリックすると、パネルに録音データが設定されます。こうすることで、すでに作成した録音データをパネルに設定することができます。



⑤　他の設定との重複設定

　録音機能は、即時発声内容や、赤外線リモコンなどと同じパネルに設定することができます。

⑥　変更の反映

　録音機能の反映は他のパネルと同様に、「保存」ボタンをクリックすることによって行います。

(注)参照できる音声ファイルは wav ファイルのみです。

12.3　文字盤での再生

　メイン画面もしくは環境制御画面で録音データのあるパネルを選択すると、選択時に録音内容が再生されます。再生中に録音データのあるパネルを選択すると、再生を中断し、新しく初めから再生します。

13 音声合成

eeyes では、通常の Windows の音声合成のほかにコエステーションによる音声合成、マイボイスによる音声合成を行うことができます。

13.1 コエステーション連携

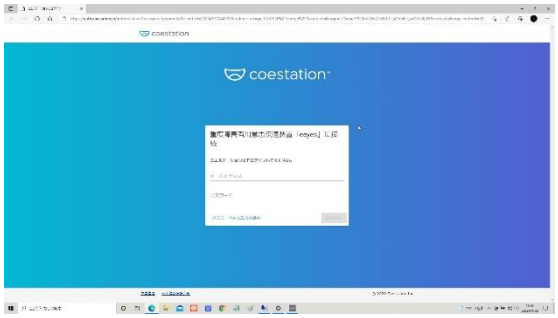
ここでは、コエステーションを使って音声合成について説明します。

13.1.1 事前準備

コエステーションと eeyes を連携するには、インターネット接続とコエステーションのアカウントが必要です。

13.1.2 コエステーションの接続

コエステーションを利用するためには、コエステーションに接続する必要があります。はじめてコエステーションの連携を行うときの手順で以下に表示します。ここでは Web ブラウザとして Microsoft Edge を使用しています。

手順	画面	解説
1		介護者用メニューを表示し、コエステーション連携の「接続する」ボタンをクリックします。
2		Web ブラウザが起動し、「コエステーションにログイン」が表示されます。画面に「重度障害者用意思伝達装置「eeyes」に接続」と表示されていることを確認します。ここで、コエステーション ID とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。

手順	画面	解説
3		画面が切り替わり、左のようになります。ここで「接続」をクリックします。
4		画面上方に「このサイトは、GetAuthCode を開こうとしています。」というポップアップが表示されるので「開く」をクリックします。
5		認証に成功すると、eeyes に画面が戻り、介護者用メニューが更新されます。コエステーション連携のボタンが「切断する」になり、「発声する際の音色」が「コエステーションのコエ」になっていたら接続成功です。

接続に成功すると、コエステーションが利用可能になります。コエステーション接続はeeyesを終了しても維持されるので、eeyesを再起動したときに接続する必要はありません。

また、一度ログインし認証した場合は、「接続」をクリックすると接続が完了し、手順5の状態になります。

13.1.3 コエステーションの利用

(1)コエステーション接続の確認

コエステーションに接続中か確認する方法は、介護者用メニューを表示することでできます。介護者用メニューのタブの設定項目に「コエステーションのコエ」が表示されている場合は、コエステーションに接続中です。

(2)声色設定

コエステーションで利用できるコエの種類の設定は、コエステーション接続中に、設定画面の「発声する際の音色」か、介護者用メニューの「コエステーションのコエ」で行います。設定画面ではユーザー自身で設定できます。

(3)発声

コエステーション接続時は、通常の発声手順で eeyes はコエステーションを使って発声します。このとき、発声を選択してから実際に音声がでるまでに時間がかかることがあります。ただし、一度に４００字を超える量を発声させるときと、インターネット未接続などコエステーションが使用できないときは、Windows による音声合成を行います。

13.1.4 コエステーションの連携の終了

以下の手順でコエステーションの接続を解除し、Windows の音声合成に戻します。

手順	画面	解説
1		介護者用メニューを表示し、コエステーション連携の「切断する」ボタンをクリックします。
2		介護者用メニューが更新され、コエステーション連携のボタンが「接続する」になり、「コエステーションのコエ」が「発声する際の音色」になれば切断完了です。

13.1.5 コエステーションの有効期限切れ時の対応

コエステーションを長期間利用していない場合、起動時に以下の画面のようにメッセージが表示されることがあります。このメッセージが表示されたときは、13.1.2　コエステーションの接続を再度行い、コエステーションに再ログインしてください。

13.2　マイボイス連携

ここでは、マイボイスの利用方法について説明します。

13.2.1 事前準備

マイボイスを利用するには、マイボイスアプリと音声データを連携しておく必要があります。

手順	画面	解説
1		アプリ「マイボイスの音素編集」を起動し、保存フォルダを利用する音声データへ変更する。
2		保存フォルダを変更したら、「MyVoice 実行用に保存」をクリックする。その後に表示されるダイアログも「はい」を選択する。

13.2.2 マイボイスと接続

マイボイスを利用するには、マイボイスに接続する必要があります。

手順	画面	解説
1		介護者用メニューを表示し、マイボイス連携の「接続する」ボタンをクリックします。
2		介護者用メニューが更新され、マイボイス連携のボタンが「切断する」になれば接続完了です。

13.2.3 マイボイスの利用

マイボイス接続時は、通常の発声手順でマイボイス音声を使用できます。このとき、読み上げる文字数によっては発声まで時間がかかる場合があります。

13.2.4 マイボイスの終了

以下の手順でマイボイスの接続を解除し、Windows の音声合成に戻します。

手順	画面	解説
1		介護者用メニューを表示し、マイボイス連携の「切断する」ボタンをクリックします。
2		介護者用メニューが更新され、マイボイス連携のボタンが「接続する」になれば切断完了です。

14 外部アプリ起動

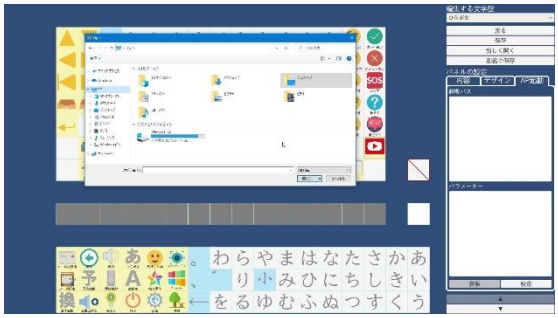
ここでは、PC にインストールされたアプリの起動方法について説明します。

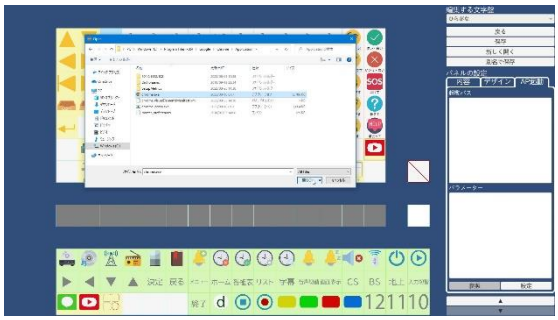
14.1 事前準備

Eeyes から起動するアプリをインストールしている必要があります。

14.2 外部アプリ起動用パネルの設定（介護者向け機能）

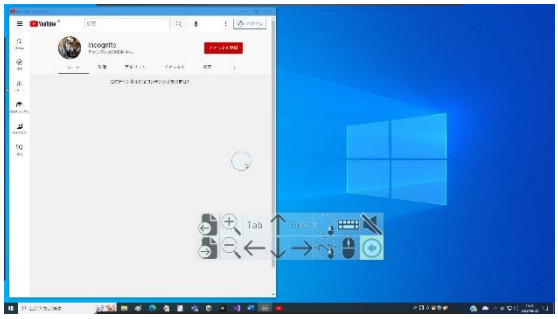
以下の手順で、文字盤に外部アプリ起動用のパネルを設定します。

手順	画面	解説
1		文字盤編集画面を表示し、外部アプリを起動するパネル選択します。
2		「AP 起動」タブに切り変えます。
3		「参照」ボタンをクリックし、「ファイルを開く」ダイアログを表示させます。

手順	画面	解説
4		起動するアプリを選択し、「開く」ボタンをクリックします。
5		起動するアプリのパスが表示されます。
6		アプリ起動時にパラメーターが必要な場合は、「パラメーター」テキストボックスに必要な文字を入力します。
7		「設定」ボタンをクリックすることで、選択したパネルをアプリ起動パネルに設定します。

14.3　アプリ起動

以下の手順で eeyes の文字盤からアプリを起動します。

手順	画面	解説
1		文字盤から外部アプリ起動パネルを選択します。
2		Windows 操作画面に切り替わり、外部アプリが起動します。アプリの操作は Windows 操作画面の機能で行います。

14.4　アプリ起動パネルの設定解除

以下の手順を行うことで、アプリ起動パネルの設定を解除し、通常のパネルにすることができます。

手順	画面	解説
1		文字盤編集画面にて、アプリ起動パネルを選択し、「AP 起動」タブを表示します。
2		「起動パス」と「パラメーター」のテキストボックスをすべて削除します。
3		「設定」ボタンをクリックして、外部アプリの設定を解除し、通常の文字パネルにします。

15 こんなときは

以下に FAQ を記載します。これ以外の困りごとが発生した場合は、eeyes@orangearch.co.jp までお問い合わせください。

●Q１

視線認識の精度が悪い。

A１

以下のチェック項目を確認し、それでも精度が悪い場合は、設定画面から操作系パネル「キャリブレーション」を選択して再度キャリブレーションを実施してください。

１）アイトラッカーと利用者の目が正対するよう調整する。

２）アイトラッカーと利用者の距離を５０ｃｍ程度に調整する。

３）瞼を上げ、薄目にならないよう意識する。

４）眼振が大きい場合は、設定画面でパネルの大きさを大きめに変更する。

５）選択画面で文字盤の移動速度を使いやすい速度に変更する。

●Q２

タブレットタイプを利用しているが、電源を入れたときや再起動時にスイッチケーブルに差したスイッチが反応しない。

A２

以下の手順で対処してください。

・本体から、USB 変換コネクタをスイッチケーブルと共に引き抜いて差し直す。

・USB 変換コネクタから、スイッチケーブルだけ引き抜いて差し直す。

●Q３

誤って設定画面でクリック操作を ON にしてしまい、視線で選択ができない。

A３

マウスクリック入力の設定は、常に視線の凝視で操作できます。パネルが OFF になるまで見続けてください。

●Q４

以下の画面が表示され、eeyes が自動で終了する。

A４

メールにて eeyes@orangearch.co.jp までお問い合わせください。

●Q５

アイトラッカーのランプが点灯せず eeyes の操作ができない。

A５

以下の手順を実行し、動くことを確認してください。

１）アイトラッカーの USB ケーブルを本体から引き抜いて差し直す。また、接続する USB ポートを変更してみる。

２）解決しない場合は、マウス操作モードへ移行し、終了画面を表示してください。マウス操作モードへの移行は「9.3 マウス操作モード」をご参照ください。

３）終了画面で「Q」キーをクリックするか、画面左上をクリックし、eeyes のみ終了する。

４）デスクトップ画面右下の「^」をクリックし、表示された「tobii eyetracking」をクリックする。

5）メニューバーが表示されるので、左上のボタン（赤枠部分）をクリックし、オフにする。

6）再度クリックし、オンにする。

7）デスクトップ画面の eeyes のアイコンをダブルクリックし、eeyes を再起動する。

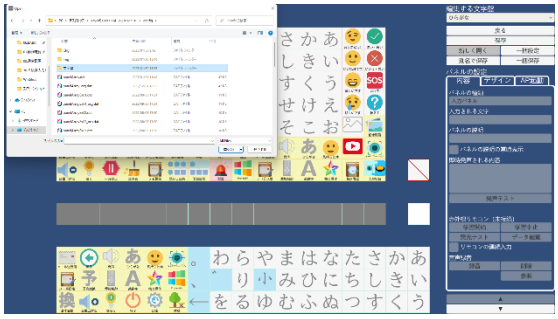
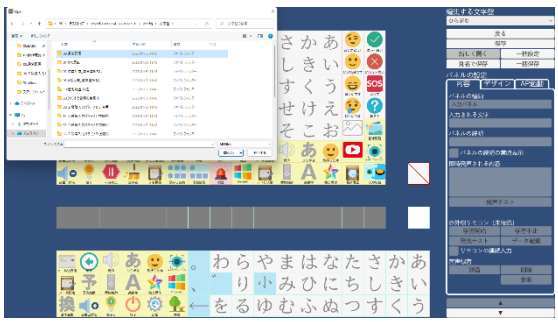
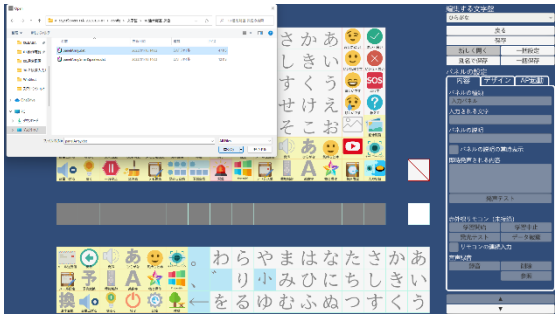
8）解決しない場合、マウス操作モードに入って eeyes を通常終了し、電源を押して再起動する。

9）以上の手順を実行しても解決しない場合は、販売店へお問い合わせください。

16 付録：サンプル文字盤

eeyes にはサンプルの文字盤があり、以下の手順で文字盤編集画面から選択することで設定することができます。

・選択中の文字盤を設定する場合

手順	画面	解説
1		「新しく開く」ボタンをクリックし、ファイル選択ダイアログを表示します。
2		文字盤フォルダを選択します。
3		見たいサンプルのフォルダを開きます。
4		ファイルを選択し、「開く」をクリックします。

手順	画面	解説
5		「保存」をクリックすることで選択したサンプル文字盤に変更できます。

・全文字盤を一括設定する場合

手順	画面	解説
1		「一括設定」ボタンをクリックし、フォルダ選択ダイアログを表示します。
2		文字盤フォルダを選択します。
3		見たいサンプルのフォルダを選択し、「OK」ボタンをクリックします。

手順	画面	解説
4		次のダイアログで「YES」ボタンをクリックします。
5		「保存」をクリックすることで選択したサンプル文字盤に変更できます。

また、各サンプルは以下の通りです。フォルダ毎にファイル名とそのファイルで表示される文字盤を示します。

① 00.通常配置

初期状態の文字盤配置データです。

・panelArray.dat

・panelArraySmartSpeaker.dat

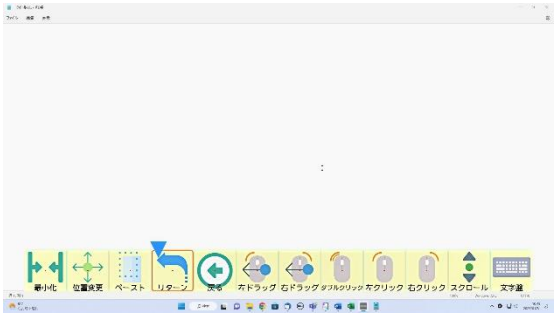
・panelArrayEx01.dat

・PanelArray02~08.dat

・panelArray10.dat

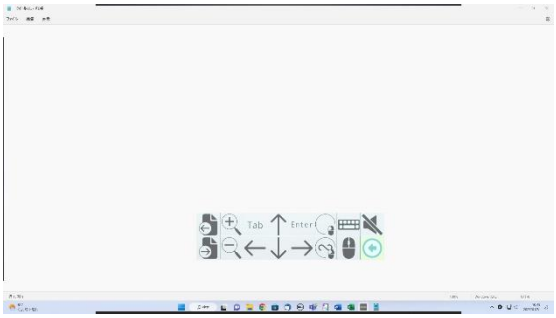
・panelArrayWindowsGaze.dat

・panelArrayWindowsScan.dat

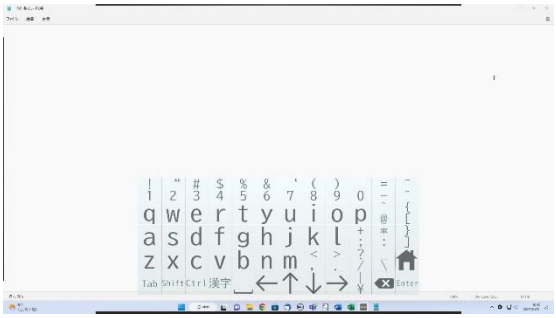


・ngKeyboard_SW.txt

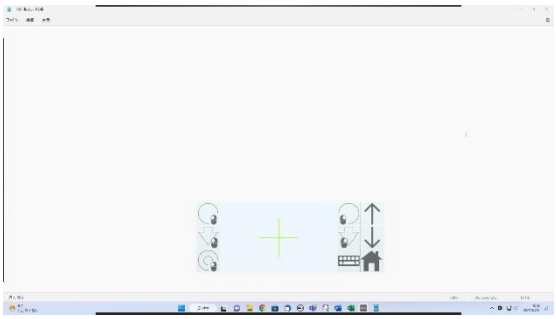
・ngHome.txt



・ngKeyboard.txt



・ngMouse.txt



② 01.かな反転

かなと英数の配置が通常と逆になっています。

・panelArray.dat

③　03.通常配置_濁音選択なし

かな文字盤で濁点、半濁点、小書きの選択を行わず、すぐに決定します。

・panelArray.dat

④　04.かな反転_濁音選択なし

かなと英数の配置が通常と逆になっています。

・panelArray_かな反転_org.dat

⑤　10.通常配置_灰色

背景が灰色の文字盤です。

・panelArray.dat

・panelArraySmartSpeaker.dat

⑥　20.フォントと背景の色見本

フォントや背景色の見本です。

・panelArray.dat

⑦　30.２段階入力パターン０走査用

ひらがな行を指定して、文字を入力する文字盤です。縦横の操作範囲が狭いため、スイッチ入力向けの文字盤となっております。

・panelArray.dat

・panelArrayEx01.dat（行指定後のイメージ）

⑧　31.２段階入力パターン１視線用

ひらがな行を指定して、文字を入力する文字盤です。視線入力時向けの文字盤となっております。

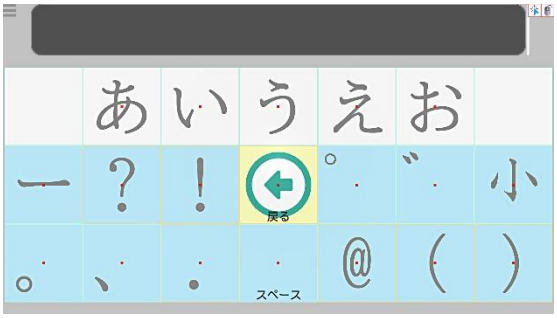
・panelArray.dat

・panelArrayEx01.dat（行指定後のイメージ）

⑨　32. 2 段階入力パターン 2 視線用

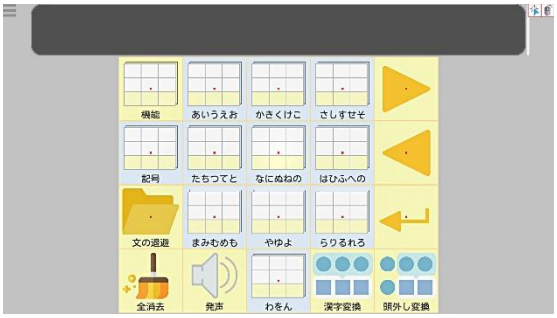
・panelArray.dat

・panelArrayEx01.dat（行指定後のイメージ）



⑩　33. 2 段階入力パターン 3 視線用

・panelArray.dat



・panelArrayEx01.dat（行指定後のイメージ）

⑪　34. 2 段階入力パターン 4 視線用

・panelArray.dat

・panelArrayEx01.dat（行指定後のイメージ）

⑫　50.練習文字盤

パネル選択や文字入力練習向けの文字盤です。

・panelArray.dat

⑬ 51.練習文字盤_2 段階入力

・panelArray.dat

⑭ 52.簡易文字盤

eeyes の簡易版です。かな文字盤に最低限の機能があります。

・panelArray.dat

⑮ 53.三択文字盤

「はい・いいえ・考え中」の 3 つのパネルのみで構成されている文字盤です。

・panelArray.dat

⑯　80.機能のデモ用

初期配置の文字盤に配置されていなかったパネルを追加した文字盤です。こちらは eeyes の実演用に用意している文字盤となっております。

・panelArray.dat

以上です。